紫波警察署桜町宿舎解体ほか工事

令和７年　１月

（仮眠室棟新築）

建築意匠

計通	消防	構造適判	省エネ適判	図面番号	図面名
					（仮眠室棟新築）
				A- 01	表紙・図面リスト
				A- 02	新築工事　特記仕様書（1）
				A- 03	新築工事　特記仕様書（2）
				A- 04	新築工事　特記仕様書（3）
				A- 05	新築工事　特記仕様書（4）
				A- 06	新築工事　特記仕様書（5）
				A- 07	新築工事　特記仕様書（6）
○	○			A- 08	付近見取図、土地条件
○	○			A- 09	配置図
○	○			A- 10	全体敷地求積図
○	○			A- 11	仮眠室棟敷地求積図
○	○			A- 12	設計概要・仕上表
○	○			A- 13	平面図
○	○			A- 14	立面図、断面図
○	○			A- 15	建物求積図、求積表、床面積算定、建具表、法規チェック
○	○			A- 16	矩計図
○	○			A- 17	物置詳細図

建築構造

計通	消防	構造適判	省エネ適判	図面番号	図面名
					（仮眠室棟新築）
				S- 01	構造設計特記仕様
				S- 02	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（1）
				S- 03	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（2）
				S- 04	鉄骨構造標準図
○				S- 05	地盤改良　砕石パイル配置図
○				S- 06	基礎伏図、基礎詳細図
○				S- 07	小屋伏図、部材リスト
○				S- 08	軸組図
○				S- 09	架構図
○				S- 10	鉄骨詳細図、柱脚詳細図

電気設備

計通	消防	構造適判	省エネ適判	図面番号	図面名
					（仮眠室棟新築）
				E- 01	電気設備工事特記仕様書
○	○			E- 02	配置図、既設庁舎電気設備改修図
				E- 03	幹線設備・コンセント設備図
○	○			E- 04	電灯設備・弱電設備図
○				E- 05	分電盤結線図・照明参考姿図

機械設備

計通	消防	構造適判	省エネ適判	図面番号	図面名
					（仮眠室棟新築）
				M- 01	機械設備工事　特記仕様書
○				M- 02	配置図
○				M- 03	空調・換気設備平面図　機器表　換気計算
○				M- 04	衛生設備　平面図　器具・機器表　桝リスト

紫波警察署桜町宿舎解体ほか工事			検図	製図	設計年月	図面内容　（仮眠室棟新築）	縮尺
設計図					令和7年 1月（2025年）	表紙・図面リスト	A1: A3:

図面番号　建築意匠　A- 01

計通 | 消防 | 構造適判 | 省エネ適判

工事名　紫波警察署桜町宿舎解体ほか工事　　特記仕様書

Ⅰ．工　事　概　要

1．工事場所　紫波郡紫波町桜町字大坪53番1の一部、53番7の一部

2．敷地面積　211.42㎡

3．工事規模　軽量鉄骨造　平屋建て　建築面積：54.09㎡、延床面積：54.09㎡

4．工事範囲　図示

Ⅱ．建　築　工　事　仕　様

1．共　通　仕　様

図面、特記仕様書及び現場説明事項に記載されていない事項は、全て国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（令和４年版）」（以下「標仕」という。）及び「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（令和４年度版）」（以下「改修標準仕様書」という。）による。

2．特　記　仕　様

（１）項目は、番号に○印のついたものを適用する。

（２）特記事項は、⊙印のついたものを適用する。
⊙印の付かない場合は、※印のついたものを適用する。
⊙印と※印のついた場合は、共に適用する。

（３）特記仕様書に記載の（　）内表示番号は、標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。

（４）G 印は、「国等による環境物品等の調達の推進に関する法律」に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針（令和４年２月閣議決定）」に定める判断の基準を満たす物品を示す。

章	項　目	特　記　事　項
① 各章共通事項	①．適用基準	⊙図面、本特記仕様書、標準仕様書及び改修標準仕様書に記載のない事項は次の基準による。 ⊙建築物解体工事共通仕様書（令和4年度版）　国土交通省大臣官房官庁営繕部 ⊙営繕工事写真撮影要領（令和5年版）　国土交通省大臣官房官庁営繕部 ⊙建築工事標準詳細図（令和4年度版）　国土交通省大臣官房官庁営繕部
	②．工事実績情報システムへの登録	⊙ 適用する　(1.1.4)
	③．工事の記録等	報告による書式等　(1.2.4) ⊙監督職員の指示による ⊙標準仕様書1.2.4（4）により整備する工事写真については次による 「営繕工事写真撮影要領（令和5年度版）によるC工事写真撮影ガイドブック　建築工事編及び解体工事編　平成30年版」　国土交通大臣官房官庁営繕部監修
	④．施工管理技術者等	施工管理技術者　(1.3.2) ※施工管理技術者は、工事に相応した能力を有するものとし、資格等の能力を証明する資料を提出する。 電気保安技術者　※ 適用する　(1.3.3)
	⑤．施工条件	※標準仕様書1.3.5(1)以外の施工条件については、監督職員の指示による　(1.3.5)
	⑥．発生材の処理等	・発注者に引渡しを要するもの　(1.3.11) ・現場説明書による　・ ・特別管理産業廃棄物の種類及び処理方法 ・現場説明書による　・ ・現場において再利用を図るもの及び再資源化を図るもの ・現場説明書による　・ ⊙本工事で発生する建設廃棄物のうち、岩手県内の最終処分場（中間処理施設経由を含む）に搬入される産業廃棄物については、岩手県産業廃棄物税が課税されるので適正に処理すること。
	⑦．材料の品質等	(1.4.2) （1）本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能のほか、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。 （2）備考欄等に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし同等品を使用する場合は監督職員の承諾を受ける。 （3）標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。
	Ⓑ．技　能　士	(1.5.2)

適用工事種別	職　種	技能検定の作業の種別
仮設工事	と　び	⊙とび作業
鉄筋工事	鉄筋施工	⊙　鉄筋組立て作業
コンクリート工事	型枠施工	⊙型枠工事作業
	コンクリート圧送施工	⊙コンクリート圧送工事作業
鉄骨工事	鉄　工	⊙構造物鉄工作業
コンクリートブロック ALCパネル、押出成形セメント板工事	ブロック建築	・コンクリートブロック工事作業
	エーエルシーパネル施工	・エーエルシーパネル工事作業
防水工事	防水施工	・アスファルト防水工事作業
		・ウレタンゴム系塗膜防水工事作業
		・アクリルゴム系塗膜防水工事作業
		・合成ゴム系シート防水工事作業
		・塩化ビニル系シート防水工事作業
		・セメント系防水工事作業
		・シーリング防水工事作業
		・改質アスファルトシートトーチ工法防水工事作業
		・ＦＲＰ防水工事作業
石　工　事	石材施工	・石張り作業
タイル工事	タイル張り	・タイル張り作業
木　工　事	建築大工	・大工工事作業
屋根・とい工事	建築板金	⊙内外装板金作業
	スレート施工	・スレート工事作業
金属工事	内装仕上げ施工	⊙鋼製下地工事作業
左官工事	左　官	⊙左官作業
建具工事	サッシ施工	・ビル用サッシ施工作業
	ガラス施工	・ガラス工事作業
	自動ドア施工	・自動ドア施工作業
カーテンウォール工事	カーテンウォール施工	・金属製カーテンウォール工事作業
塗装工事	塗　装	・建築塗装作業
内装工事	内装仕上げ施工	⊙プラスチック系床仕上げ工事作業
		・カーペット系床仕上げ工事作業
		⊙ボード仕上げ工事作業
	表　装	・壁装作業
排水工事	配　管	⊙建築配管作業
舗装工事	路面標示施工	・溶融ペイントハンドマーカー工事作業
		・溶融ペイントマシンマーカー工事作業
植栽工事	造　園	・造園工事作業

章	項　目	特　記　事　項
① 一般共通事項	⑨．化学物質の濃度測定	※適用する　(1.5.9) 測定時期　・現場説明書による　⊙監督員の指示による 測定対象化学物質 ⊙ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレン ・ 測定方法　⊙パッシブ型採取機器による　・ 測定対象室及び測定箇所　・仕上表による　⊙ 1ヵ所（男性仮眠室）
	10．技術検査	・中間技術検査　実施回数（　）回　(1.6.2) 実施する段階（　）
	⑪．完成時の提出図書	工事完成時の提出図書　(1.7.1～1.7.3)（表1.7.1） ※標準仕様書1.7.2及び1.7.3による　・ 完成図の提出（　）部　⊙ 下記による　・監督員の指示による 提出仕様（⊙紙ベース　製本A2判（見開きA1判）：1部、A4判（見開きA3判）：2部　） （⊙電子データ　電子成果品 CD-R：2部　）
	⑫．施工図及び施工計画書	保全に関する資料の提出（　）部　⊙ 下記による　・監督員の指示による 提出仕様（⊙紙ベース　A4判ファイル綴じ：1部　） （⊙電子データ　電子成果品 CD-R：2部　） (1.2.2)(1.2.3) 施工図及び施工計画書の提出について （1）施工図の記載内容及び記載水準は、建設大臣官房官庁営繕部監修「建築・設備工事施工図の描き方（平成元年版）」に準ずるものとする。 （2）本工事に係る施工図及び施工計画書の著作者の権利は、当該建物における使用に限り発注者に移譲するものとする。 （3）提出部数は、監督員の指示による。
	⑬．完成写真	工事完成時に完成写真を撮影し、監督職員に提出する 撮影箇所及び提出サイズ、仕様 ※監督員の指示による　⊙営繕工事写真撮影要領による工事写真撮影ｶﾞｲﾄﾞﾌﾞｯｸ(令和5年版)による
	⑭．設備工事との取合い	施工範囲 ⊙ 図示した貫通孔、開口部の型枠及びそれらの補強 ⊙ 図示した壁、天井の仕上材、下地材の切り込み及び下地材の補強 ・ 駆動装置が電動による建具類の２次配線及び操作スイッチ ・ 自動閉鎖装置取付けの箇所の切り込み及び補強 ⊙ 他指示するところ 施工図 設備機器の位置、取合い等が検討できる施工図を提出して、監督員の承諾を受ける。
	⑮．経年検査	本工事完成　年後の経年検査　⊙ なし　・ あり
② 仮設工事	①．監督員事務所	※ 設ける　(2.3.1) （規模、仕上げの程度、設備、並びに備品等の種類・数量等は現場説明書による） ⊙ 設けない
	②．工事用水	構内既存の施設 ※ 利用できない ・ 利用できる（ ※ 有償　・ 無償）
	③．工事用電力	構内既存の施設 ※ 利用できない ・ 利用できる（ ※ 有償　・ 無償）
	④．足　場　等	※定置する足場及び作業構台は、関連工事等の関係請負者に無償で使用させる。　(2.2.4) ⊙昇降足場：（参考）くさび緊結式足場（手すり先行型） ※足場を設ける場合は、「手すり先行工法に関するガイドライン」について （厚生労働省　平成21年4月24日）の「（別紙）手すり先行工法等に関するガイドライン」に基づき、足場の組立、解体、変更の作業時及び使用時には常時、すべての作業床について手すり、中桟及び幅木の機能を有するものを設置しなければならない。
③ 土工事	①．埋戻し及び盛土	材料及び工法（施工箇所は図示による）　(3.2.3)（表3.2.1） ※標準仕様書 表3.2.1による　・ ・Ａ種 ⊙Ｂ種 ・Ｃ種（土質：　受渡場所：　） ・Ｄ種 D種の場合　品質：細粒分（74μm以下）の含有率（重量百分率）の上限を50%未満とする
	②．建設発生土の処理	※ 構外搬出適切処理　(3.2.5) ・ 構内指定場所に敷均し ・ 構内指定場所に堆積 ・ 構外指定場所に処分（搬出調書等を提出する）
	３．山　留　め	鋼や板等の撤去後の処理　※直ちに砂等で充填する　・　(3.3.3) 山留の存置　・行う（存置範囲等　※図示） ・行わない
	④．騒音振動の防止	低騒音型、低振動型建設機械指定要項に基づき指定された建設機械を使用する。
④ 地業工事	①床下防湿層	下記以外は構造関係特記仕様書による。 ※適用する　(4.6.5) （⊙ポリエチレンフィルム厚さ0.15ｍｍ以上　・　） ・適用しない 施工範囲　(4.6.5) ⊙図示による
⑤ 鉄筋工事	①加工及び組立て	下記以外は構造関係特記仕様書による。　(5.3.1) 鉄筋には、点付け溶接を行わない。また、アークストライクを起こしてはならない。
⑥ コンクリート工事	①．コンクリートの仕上り	下記以外は構造関係特記仕様書による。 合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上　(6.2.5)（表6.2.4）

種　別	適　用　箇　所
・Ａ種	・図示
⊙Ｂ種	⊙図示
・Ｃ種	・図示

コンクリート仕上りの平たんさの種別　(6.2.5)（表6.2.5）

種　別	適　用　箇　所
・a 種	・図示
⊙b 種	⊙図示
・c 種	・図示

章	項　目	特　記　事　項
⑦ 鉄骨工事	①．錆止め塗装	下記以外は構造関係特記仕様書による。 塗料の範囲　(7.8.2) 耐火被覆材の接着する面の塗装範囲 ・図示による　・ 耐火被覆材の接着する面以外の塗装範囲 ※標準仕様書7.8.2（1）による ・図示による 下記以外の塗料の種別は、標準仕様書１８章による ・鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたものの内側の錆止めの塗料の種別　(表18.3.1) ※Ａ種　・Ｂ種 ・耐火被覆が接着する面の種別 ・
	2．耐火被覆材	、材料、工法等　(7.9.2～7.9.8)

種　類	材料・工法	耐火性能（時間）	適用箇所（部位・部分）
・耐火材吹付け	・乾式吹付け ロックウール		
	・半乾式吹付け ロックウール		
	・湿式 ロックウール		
	・		
	・		
・耐火板張り	・繊維混入けい酸カルシウム板		
	・		
・耐火材巻付け	・高断熱 ロックウール		
	・		
・ラス張りモルタル塗り	—		
・耐火塗料			

章	項　目	特　記　事　項
⑧ コンクリートブロック・ALCパネル・押出セメント板工事	1．補強コンクリートブロック造	材料　(8.2.2) 断面形状及び圧縮強さによる区分 / 正味厚さ（mm） / モジュール呼び寸法（mm）長さ・高さ / 化粧の有無 / 適用箇所 / 備考 ・空洞ブロック　C(16)　・有・無 ・空洞ブロック　D(20)　・有・無 ・　・有・無 モルタルの調合（容積比）　(8.2.3) ブロックの区分がA（08）、B（12）、C（16）の場合で、目地幅が10mm程度の場合 ※標準仕様書　表8.2.1による 上記以外の場合　・ 各部の配筋　・ 図示による ・　(8.2.5) 目地の仕上げ　・押し目地仕上　・化粧目地仕上　(8.2.7) まぐさを受ける開口部両端のブロックにおいて、モルタル又はコンクリートで充填するブロックの範囲　・図示による ・　(8.2.8)
	2．コンクリートブロック帳壁及び塀	材料　(8.3.2)（表8.3.1） 断面形状及び圧縮強さによる区分 / 正味厚さ（mm） / モジュール呼び寸法（mm）長さ・高さ / 化粧の有無 / 適用箇所 / 備考 ・空洞ブロック　C(16)　・有・無　※表8.3.1 ・　・120　・150　・有・無　・有・無　※塀 ・ モルタルの調合（容積比）　(8.3.3) ブロックの区分がA（08）、B（12）、C（16）の場合で、目地幅が10mm程度の場合 ※標準仕様書　表8.2.1による 上記以外の場合　・ 鉄筋の継手、定着及び末端部の折り曲げ形状　・図示による ・　(8.3.4) 各部の配筋　・ 図示による ・　(8.3.4)
	3．ＡＬＣパネル	パネルの種類　(8.4.2～8.4.5)(表8.4.2～8.4.4)

種　類	単位荷重（N/㎡）	厚　さ（mm）	長　さ（mm）	耐火性能	工法種別
・ 外壁パネル（意匠パネル）		・100・		有（1）時間	・Ａ種 ・Ｂ種
・ 外壁パネル（平パネル）		・100・		有（1）時間	・Ａ種 ・Ｂ種
・ 間仕切壁パネル		・100・		・有（1）時間・無	・Ｃ種 ・Ｄ種 ・Ｅ種
・ 屋根パネル		・100・		有（0.5）時間	・Ｆ種
・ 床パネル		・100・		有（　）時間	・Ｆ種

章	項　目	特　記　事　項
⑧ コンクリートブロック・ALCパネル・押出セメント板工事	4．押出し成形セメント板	パネルの相互の接合部に挿入する耐火目地材　(8.4.2) ・図示による　・ ・外壁パネル構法、屋根及び床パネル構法　(8.4.3)（8.4.5） 耐風圧性能（　） 耐震性能（　） ・間仕切壁パネル構法 耐震性能（　） パネルの最小幅　※300以上　(8.4.3)（8.4.4）（8.4.5） パネルの短辺小口相互の接合部、出隅及び入隅のパネル接合部並びにパネルと他部材との取り合い部の伸縮目地の目地幅（mm）　(8.4.3)（8.4.4） ※10～20　・図示による 伸縮目地への耐火目地材の充填　(8.4.3)（8.4.4） ・適用する　・適用しない パネルの種類　(8.5.2～8.5.4)(表8.5.1)(表8.5.2)

種　類	表　面　形　状	厚　さ（mm）	工法種別
・ 外壁パネル	・Ｆ フラットパネル	・50 ・60	・Ａ種
	・Ｄ デザインパネル（図示）	・50 ・60	・Ｂ種
	・Ｔ タイルベースパネル	・60	
・ 間仕切壁パネル	・Ｆ フラットパネル	・50 ・60	・Ｂ種
	・Ｄ デザインパネル（図示）	・50 ・60	・Ｃ種
	・Ｔ タイルベースパネル	・60	

・外壁パネルの工法　耐風圧性能（　）　耐震性能（　）　(8.5.3)
・間仕切パネル工法　耐震性能（　）　(8.5.4)
パネルの最小幅　※300以上　・　(8.5.3)（8.5.4）
耐火構造以外の目地、隙間の処理　(8.5.3)（8.5.4）
※ パネル製造所の仕様　・
パネル相互の目地幅（mm）　(8.5.3)（8.5.4）
長編の目地幅　・１０以上　・図示による
短辺の目地幅　・１５以上　・図示による
出隅、入隅部の伸縮目地の目地幅（mm）　(8.5.3)（8.5.4）
※ 15程度（シーリング材を充填）　・図示による
やむを得ず開口を設ける場合のパネル開口寸法等の限度　(8.5.5)
・ 図示による　・

章	項　目	特　記　事　項
9 防水工事	1．アスファルト防水	屋根保護防水 防水層の種類　(9.2.2)(9.2.3)(表9.2.3～9.2.6)

種　別	施工箇所	断熱材 G	絶縁用シート	立上り部の保護
・A-1			※ポリエチレンフィルム 厚さ0.15mm以上 又はフラットヤーンクロス 70ｇ/㎡程度 ・	・ 乾式保護材 ・ コンクリート押え ・
・A-2				
・A-3				
・B-1				
・B-2				
・AI-1		（材質）※JIS A 9521に基づく押出法ポリスチレンフォーム断熱材 熱材３種bA（スキン層付き） （厚さ）・25mm ・	※フラットヤーンクロス 70ｇ/㎡程度 ・	
・AI-2				
・AI-3				
・BI-1				
・BI-2				

立上り部への絶縁シートの設置　・適用する　・適用しない

屋根露出防水
防水層の種類　(9.2.2)(9.2.3)(表9.2.7～9.2.8)

種　別	施工箇所	断熱材 G	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率防水の適用 G
・D-1			・製造所の仕様による ・	・製造所の仕様による ・	・
・D-2					・
・DI-1		（材質）※JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材とする （種類）※ 図示 （厚さ）・25mm ・			・
・DI-2					・

屋内防水
防水層の種類　(9.2.3)（表9.2.9）

種　別	施　工　箇　所	種　別	施　工　箇　所
・E-1		・E-2	
保護層	・設ける（図示）　・設けない		

立上り部の保護工法　(9.2.2)
・ 乾式保護材（材料：　）
・ コンクリート押え
・ モルタル押え（屋内等）
・ レンガ押え（材料等図示による）
押さえ金物の材質、形状寸法　(9.2.2)
※ アルミニウム製、Ｌ－30×15×2.0程度 ・
防水層の下地モルタル塗り　(9.2.4)
・適用する（施工範囲　・図示 ・　）
・適用しない
防水層下地、立上りコンクリート打放し仕上げの種類　(9.2.4)
・B種　・
平場の保護コンクリートの厚さ　こて仕上げ　※水下80mm以上　・　(9.2.5)
床タイル貼　※水下60mm以上　・
屋上露出防水絶縁断熱工法の場合の、ルーフドレイン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置　※図示による
立上り部防水層保護方法　・ 乾式保護材　・ コンクリート押え ・　(9.2.5)
屋上排水溝　・設けない　・設ける（図示）　(9.2.5)

章	項　目	特　記　事　項
9 防水工事	2．改質アスファルトシート防水	防水層の種類　(9.3.2)(9.3.3)(表9.3.1～9.3.3)

種　別	施工箇所	断熱材 G	防湿用シート	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量
・AS-T1				・	・改質アスファルトシートの製造所の仕様 ・
・AS-T2					
・AS-T3					
・AS-T4					
・AS-J1					
・ASI-T1		（材質）※JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材とする （種類）※ 図示 （厚さ）・25mm ・	・設ける（改質アスファルト製製造所の仕様による）		
・ASI-J1			・設けない		

紫波警察署桜町宿舎解体ほか工事			検　図	製図	設計年月 令和7年 1月 (2025年)	図面内容　（仮眠室棟新築） 新築工事　特記仕様書（１）	縮尺 A1: A3:
設計図							図面番号 A－ 02

建築意匠
計画　消防　構造適判　省ｴﾈ適判

9-2 防水工事

3．合成高分子系ルーフィングシート防水

改質アスファルトシートの種類及び厚さ　(9.3.2)
※標準仕様書9.3.1～9.3.3による
・

防水層の種別　(9.4.2～4)（表9.4.1～2）

種　別	施工箇所	可塑剤移行防止シートの材質	断熱材 G	仕上塑料 種類	仕上塑料 使用量	歩行の仕様
・S-F1				・	※製造所の仕様による	※ 非歩行用 ・軽歩行用
・S-F2						・非歩行用 ・軽歩行用
・S-M1				・	※製造所の仕様による	※ 非歩行用 ・軽歩行用
・S-M2						・非歩行用 ・軽歩行用
・SI-F1			※標準仕様書9.4.2(3)（エ)(b）による (種類)・ (厚さ)・　mm	・	※製造所の仕様による	
・SI-F2						
・SI-M1			※標準仕様書9.4.2(3)（エ)(a）による (種類)・ (厚さ)・　mm	・	※製造所の仕様による	
・SI-M2		※発泡ポリエチレンシート ・				

防水層の種別(屋内防水)　(9.4.2～4)(表9.4.3)

種　別	施工箇所	保護層 平場のモルタル塗り 塗り厚	平場のモルタル塗り 工法	立上り部の保護モルタル塗り厚さ
・S-C1		・　mm	・床塗り ・下地モルタル塗り	※7mm以下 ・　mm

固定金具の材質及び形状　(9.4.2)
※厚さ0.4mm以上の防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はそれらの鋼板の片面及び両面に樹脂を積層加工したもの
・

断熱工法（SI-M1,SI-M2の場合）の防湿用フィルム　(表9.4.2)
・設置する　・設置しない

接着工法においてＰＣコンクリート部材下地の目地処理　(9.4.4)
・行う（・図示　・　　）　・行わない

ＰＣコンクリート（Ｓ-Ｆ1、ＳＩ-Ｆ1の場合）下地の入隅部の増張り　(9.4.4)
・行う(・図示　・　　)　・行わない

機械式固定工法の場合の一般部のルーフィングシートの張付け　(9.4.4)
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
・図示による　・

4．塗膜防水

塗膜防水の種別　(9.5.3)(表9.5.1～2)

種　別	施工箇所	仕上塑料 種　類	仕上塑料 使用量	保護層
・Ｘ－１		・	※製造所の仕様による ・	
・Ｘ－２		・	※製造所の仕様による ・	
・Ｙ－１	・地下外壁防水 ・			
・Ｙ－２	・屋内防水 ・			・適用する ・適用しない

5．ケイ酸質系塗布防水

防水の種別　(9.6.1～3)(表9.6.1)

種別	施工箇所	種別	施工箇所
・C-SUI		・C-SUP	

下地処理　コンクリートの打ち継ぎ箇所の処理
※標準仕様書9.6.4（2）（ア）による　・図示

6．脱気装置

(9.2.3)(9.3.3)（9.5.3）

防水種別	脱気装置の種類	設置数量
D-1 D-2 DI-1 DI-2 AS-T3 AS-T4 ASI-T1 ASI-J1	※ アスファルトルーフィング類及びシート製造所の仕様による ・	※ アスファルトルーフィング類及びシート製造所の仕様による ・
X-1	※ 防水材の主材料の製造所の仕様による ・	※ 防水材の主材料の製造所の仕様による ・

7．シーリング

シーリング材の種類、施工箇所　(9.7.2)(表9.7.1)
下表以外は、標準仕様書（表9.7.1））による。但し、外壁タイル接着剤張りの場合のシーリング材は11章に、カーテンウォールの場合のシーリングは17章による。

施　工　箇　所	種　類（記号）

シーリング材の目地寸法　(9.7.3)

箇　所	コンクリート打継ぎ目地 ひび割れ誘発目地	ガラス回り 目　地	左　記　以　外
幅　(mm)	※20mm以上　・	※5mm以上　・	※10mm以上・
深　さ(mm)	※10mm以上　・	※5mm以上　・	※10mm以上・

接着性試験　(9.7.5)
※ 簡易接着性試験
・ 引張接着性試験(部位　　)

8．防水施工保証書

※提出する　・提出しない

10 石工事

1．施　工

石材の割付　※標準仕様書10.1.3(1)(ア)(イ)による　・ 図示による　(10.1.3)
粗面仕上げののみ込み部分の仕上げ　・ 標準仕様書0.1.3(2)(ア)による　(10.1.3)
・

取り付用モルタル、既調合の目地用モルタル、浸透性吸水防止剤　(10.2.3)
石裏面処理剤、裏打ち処理剤、金物の固定に使用する充填材料
※専門工事業者の指定する製品　・

2．石　材

天然石　(10.2.1)(表10.2.1～2)

施工箇所	石材の種類	品　質	形状・寸法(mm)	厚さ(mm)	表面仕上げ	備　考
・床石 ・	・	・等品　※2等品	・ ※正方形に近い矩形（1枚の面積が0.8㎡以下）	・	・	

テラゾーブロック　(10.2.1)(表10.2.2)

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	形状	仕上面	寸法	表面仕上げ
	※大理石 ・花こう岩	※1.5～12.0 ・	・平もの ・役もの	・片面 ・両面	・	

10-2 石工事

テラゾータイル　(10.2.1)(表10.2.2)

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	寸法による区分	表面仕上げ	備考
	※大理石 ・花こう岩	※1.5～12.0 ・	・300×300 ・400×400		

3．外壁湿式工法

石材の厚さ（mm）　・　(10.3.2)
石裏面処理　・適用する　・適用しない
裏打ち処理　・適用する　・適用しない
下地ごしらえ　※・あと施工アンカー・横流し筋工法　(10.3.3)
・流し筋工法　・あと施工アンカー工法
受け金物　材質　※ステンレス SUS304　・　(10.2.2)
形状および寸法　※Ｌ－75×75×6の加工（長さ　・100mm　・150mm）
・
ドレインパイプの材質　※樹脂ネット製パイプ　クロスメッシュ巻　25～35φ　(10.2.3)
・　(10.2.2)
アンカーの材質及び径　※ SS400 Ｍ12　・
あと施工アンカーの材質及び寸法
・種類、材質（　　）・寸法（　　）
目地　一般目地　目地幅　※6mm以上　・　(10.3.3)
シーリング材　・適用する　・適用しない
伸縮目地　位置　※標準仕様書表11.1.1による　・図示
シーリング材の目地寸法　※幅、深さとも10mm　・図示

4．内壁空積工法

石材の厚さ（mm）・　(10.4.2)
石裏面処理　・適用する　・適用しない
裏打ち処理　・適用する　・適用しない
下地ごしらえ　※あと施工アンカー・横流し筋工法　(10.4.3)
・あと施工アンカー工法
受け金物　材質　※ステンレス SUS304　・　(10.2.2)
形状および寸法　※Ｌ－75×75×6の加工（長さ　・100mm　・150mm）
・
アンカーの材質及び径　※ SS400 Ｍ12　(10.2.2)
あと施工アンカーの材質及び寸法
・種類、材質（　　）・寸法（　　）
目地　一般目地　目地幅　※6mm以上　・　(10.4.3)
シーリング材　・適用する　・適用しない
伸縮目地　位置　※6mごと　・図示
シーリング材の目地寸法　※幅、深さとも10mm　・図示

5．外壁乾式工法

取付け工法　・スライド方式　・ロッキング方式
石材の厚さ（mm）・　(10.5.2)
石裏面処理　・適用する　・適用しない　(10.5.2)
裏打ち処理　・適用する　・適用しない
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法　(10.5.3)
・図示による　・
アンカーの材質及び径　※**ステンレス（SUS304）　Ｍ10**　(10.5.3)
あと施工アンカーの材質及び寸法　(10.5.3)
・材質（　　）・寸法（　　）
目地　目地幅　※8mm以上　・　(10.5.3)
シーリング材　・適用する（※標準仕様書9.7による　・図示　）
・適用しない

6．床及び階段の石張り

石材の厚さ　・床　mm　・階段　mm　(10.6.2)（10.6.3）
石張りの裏面処理　床　・適用する　・適用しない
階段　・適用する　・適用しない
浸透性吸水防止剤　床　・適用する　・適用しない
裏打ち処理　床　・適用する　・適用しない
目地　一般目地　目地幅(mm)　・図示　・屋外4以上　・屋内3～6
シーリング材　・適用する　・適用しない
伸縮調整目地　※標準仕様書10.3.3(5)(イ)(b)(c）による　・図示

7．笠木、甲板等の石張り

取付け工法　・湿式工法　・乾式工法　(10.7.2)（10.2.2）
石材の厚さ　・　mm
石裏面処理　・適用する　・適用しない
石裏の補強用モルタル　・適用する　・適用しない
取付け金物、ファスナーの方式　※標準仕様書10.2.2.(1)～(3)による。
乾式工法の場合の取付け代　・70mm程度　・
あと施工アンカーの材質及び寸法（　　）

8．アーチ、上げ裏等の石張り

取付け工法　・　内壁空積工法　・乾式工法
石材の厚さ　・　mm
石裏面処理　・適用する　・適用しない
裏打ち処理　・適用する　・適用しない
取付け金物、ファスナーの方式　※標準仕様書10.2.2.(1)～(3)による。
吊金物及び仮称吊ボルト　・設ける（※図示）　・設けない
あと施工アンカーの材質及び寸法（　・　　）
目地　一般目地　目地幅　※6mm以上　・
伸縮調整目地　位置　※床面積30㎡程度ごと、細長い通路の場合6mごと、他の部材と取合う箇所
・図示

11 タイル工事

1．伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地

位置　※標準仕様書表11.1.1による　・図示　(11.1.3)
目地寸法　※標準仕様書表9.7.3による　・図示

2．ｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙによるｾﾗﾐｯｸﾀｲﾙ張り

タイルの種類、寸法　(11.2.2～3)（11.2.6）

施工箇所	種類	形状 寸法(mm)	再生材の適用 G	吸水率による区分 小類	吸水率による区分 中類	吸水率による区分 大類	うわぐすり 施釉	うわぐすり 無釉	役物 有	役物 無	色 標準	色 特注	耐凍害性 有	耐凍害性 無	耐滑り性	備考
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

試験張り　・ 行う　・ 行わない　(11.1.4)
見本焼き　・ 行う　・ 行わない　(11.1.4)
張付けモルタル　・現場調合モルタル　・既調合モルタル　(11.2.3)
下地モルタル塗りのコンクリート素地面の下地処理方法　(11.2.6)
・目荒し工法　・ＭＣＲ工法
壁タイル張りの工法　(11.2.6)
内外装タイル　・密着張り　・改良圧着張り
内装タイル以外のユニットタイル　・マスク張り　・モザイクタイル張り

3．有機系接着剤によるタイル張り

タイルの種類、寸法　(11.3.2～4)（11.3.7）

施工箇所	種類	形状 寸法(mm)	再生材の適用 G	吸水率による区分 小類	吸水率による区分 中類	吸水率による区分 大類	うわぐすり 施釉	うわぐすり 無釉	役物 有	役物 無	色 標準	色 特注	耐凍害性 有	耐凍害性 無	耐滑り性	備考
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

試験張り　・ 行う　・ 行わない　(11.3.2)
見本焼き　・ 行う　・ 行わない　(11.3.2)
内装壁タイル接着剤のホルムアルデヒド放散量　※Ｆ☆☆☆☆　(11.3.3)

11-2 タイル工事

外装タイルにおける目地詰め　・行う　・行わない　(11.3.3)（11.3.5）
目地のシーリング材　(11.3.4)
打継目地　※ポリウレタン系シーリング材　・
ひび割れ誘発目地　※ポリウレタン系シーリング材　・
伸縮調整目地・その他の目地　※変性シリコーン系シーリング材
・
下地調整塗材塗りを行うコンクリート素地面の下地処理方法　(11.3.5)
・目荒し工法　・ＭＣＲ工法

12 木工事

1．共通事項

表面仕上げ　(12.1.4)
見え係り面の表面仕上げの程度は、プレーナー加工のうえ、超自動機械かんな、サンダー等により、使用箇所、樹種、仕上等に適したものとする。
継手及び仕口　(12.1.5)
継手及び仕口が明示されていない場合は、適切な工法を定め、監督院に報告する。
間伐材等の適用　・適用する
ホルムアルデヒド放散量　(12.2.1)
※標準仕様書12.2.1（ウ）のいずれかによる。　・

2，施工一般

3．製　材 G

・下地用製材　(12.2.1)（表12.2.1）

施工箇所	寸法（mm）	等　級	含水率	保存処理	備考
	・図示	※2級 ・	※A種 ・B種	・適用する ・適用しない	
	・図示	※2級 ・	※A種 ・B種	・適用する ・適用しない	

・造作用製材　(12.2.1)（表12.2.1）

施工箇所	寸法（mm）	等　級	含水率	保存処理	備考
見え掛り面	・図示	※上小節 ・	※A種 ・B種	・適用する ・適用しない	
見え掛り面以外	・図示	※小節以上 ・	※A種 ・B種	・適用する ・適用しない	
			※A種		

・広葉樹製材　(12.2.1)（表12.2.1）

施工箇所	寸法（mm）	等　級	含水率	保存処理	備考
	・図示	※1等 ・	※10%以下 ・A種　・B種	・適用する ・適用しない	
		※1等	※10%以下	・適用する ・適用しない	

・「製材の日本農林規格」以外の製材　(12.2.1)（12.3.2）（表12.21）（表12.2.2）

施工箇所	寸法(mm)	材面の品質	防虫処理	含水率	備考
	・図示	(　　) 造作材の場合 （※A種　・B種）	・適用する ・適用しない	※A種 ・B種 ・	
	・図示	(　　) 造作材の場合 （※A種　・B種）	・適用する ・適用しない	※A種 ・B種 ・	

4．造作用集成材等 G

・造作用集成材　(12.2.1)

施工箇所	品名	樹種	寸法（mm）	見付材面数	見付け材面の品質
			・図示		※1等　・2等
			・図示		※1等　・2等

・化粧ばり造作用集成材　(12.2.1)

施工箇所	品名	樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付材面数	見付け材面の品質
		化粧薄板： 芯材：	・図示			※1等　・2等
		化粧薄板： 芯材：	・図示			※1等　・2等

・「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材　(12.2.1)

施工箇所	樹種	寸法（mm）	見付け材面の品質	含水率
		・図示		※15%以下 ・
		・図示		※15%以下 ・

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材　(12.2.1)

施工箇所	樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	含水率
	化粧薄板： 芯材：	・図示			※15%以下 ・
	化粧薄板： 芯材：	・図示			※15%以下 ・

5．造作用単板積層材

・「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材　(12.2.1)（12.3.2）

施工箇所	品名	厚さ(mm)	表面の品質（表面の化粧加工）	防虫処理
		・	・有　（加工：・天然木化粧加工 ・塗装加工　） ・無（等級：・1等・2等・3等）	・適用する ・適用しない
		・	・有　（加工：・天然木化粧加工 ・塗装加工　） ・無（等級：・1等・2等・3等）	・適用する ・適用しない

12-2 木工事

6．直交集成板

・「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材　(12.2.1)（12.3.2）

施工箇所	厚さ(mm)	表面の品質（表面の化粧加工）	含水率	防虫処理
		・有　（加工：・天然木化粧加工 ・塗装加工　） ・無（　　）	※14%以下 ・	・適用する ・適用しない
		・有　（加工：・天然木化粧加工 ・塗装加工　） ・無（　　）	※14%以下 ・	・適用する ・適用しない

・ＣＬＴ（直交集成板）G　(12.2.1)

施工箇所	品　名	強度等級	種別	接着性能(使用環境)	樹種名	寸法(mm)
						・図示
						・図示

7．合板等

下地用合板
・普通合板 G　(12.2.1)

施工箇所	品名	厚さ(mm)	単板の樹種名	接着の程度	表板の品質	防虫処理
		※5.5 ・		※1類 ・2類	広葉樹　※2等以上 ・1等 針葉樹　※C-D以上 ・	・適用する ・適用しない
		・				

・構造用合板 G　(12.2.1)

施工箇所	品名	等級	単板の樹種名	板面の品質	厚さ(mm)	保存処理の適用	防虫処理	強度等級
		※2級以上 ・1級		※C-D以上 ・	※12 ・	・適用する ・しない	・適用する ・適用しない	・適用する （　） ・適用しない
		・2級 ・1級		・	・	・適用する ・しない	・適用する ・適用しない	・適用する （　） ・適用しない

接着の程度　常温湿潤状態となる場所での使用　※特類　・
その他の場合　※1類以上　・

・化粧ばり構造用合板 G　(12.2.1)（12.3.2）

施工箇所	品名	厚さ（mm）	単板の樹種名	接着の程度	防虫処理
				・1類 ・特類	・適用する （　　）
				・	・

・天然木化粧合板 G　(12.2.1)（12.3.2）

施工箇所	厚さ(mm)	化粧板に使用する単板の樹種名	接着の程度	防虫処理
			・1類 ・2類	・適用する （　　）
			・	・

・特殊加工化粧合板 G　(12.2.1)（12.3.2）

施工箇所	品名	厚さ（mm）	接着の程度	単板の樹種名	化粧加工の方法	防虫処理
			・1類 ・2類		・オーバーレイ ・プリント ・塗装	・適用する （　　）
			・		・	・

・パーティクルボード G　(12.2.1)

施工箇所	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	耐水性による区分	難燃性による区分	厚さ（mm）
	・	※13ﾀｲﾌﾟ ・	・HR1(N)又は HR2(P)タイプ ・	・	※ 15 ・
	・	・	・	・	・

・構造用パネル　(12.2.1)

施工箇所	品　名	厚さ（mm）
	・	・
	・	・

・ミディアムデンシティーファイバーボード（ＭＤＦ）G　(12.2.1)

施工箇所	厚さ(mm)	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分
	・	・	・	・	・
	・	・	・	・	・

8．接合具等

造作材の化粧面の釘打ち　・適用する（※隠し釘打ち　・　　）　(12.2.2)
・適用しない
諸金物の形状、寸法及び材質　(12.2.2)（表12.2.3～表12.2.5）
※標準仕様書12.2.2（ア）による
接着剤（木れんが用接着剤を含む）の ホルムアルデヒド放散量　※Ｆ☆☆☆☆

9．防腐、防蟻処理

・防腐・防蟻処理を省略できる製材　(12.3.1)
適用部位：（　　）
・薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理　(12.3.1)

適用部材	保存処理性能区分
	・Ｋ２　・Ｋ３　・Ｋ４
	・Ｋ２　・Ｋ３　・Ｋ４

・薬剤の塗布による防腐・防蟻処理　(12.3.1)

適用部材	処理の方法	薬剤の種類
	※薬剤の製造所の仕様による	・
	・	・

・薬剤の接着剤への混入による防腐・防蟻処理　(12.3.1)
適用部位：（　　）
・合板等の加圧注入による防腐・防蟻処理　(12.3.1)
適用部位：（　　）

10．製材の樹種

・間仕切に用いる木材　※杉又は松　・　(12.4.1)
・床組に用いる木材　※杉又は松　・　(12.4.1)
・窓、出入り口、その他に用いる木材　・　(12.5.1)
※吊元枠、水掛りの下枠及び敷居はひのき、その他は松又は杉
・
・縁甲板及び上りかまちに用いる木材　※ひのき　・　(12.6.1)
・壁及び天井に用いる木材　※杉又は松　・　(12.7.1)

紫波警察署桜町宿舎解体ほか工事	検　図	製図	設計年月	図面内容　（仮眠室棟新築）	縮尺	図面番号	建築意匠
設計図			令和7年 1月 （2025年）	新築工事　特記仕様書（２）	A1: A3:	A- 03	計通　消防　構造適判　省ｴﾈ適判

1.3 屋根及びとい工事

1．長尺金属板葺

(13.2.2)

施工箇所	板及びコイルの種類	塗膜の耐久性の種類 めっき付着量等	葺板の寸法 厚さ（mm）	屋根葺形式	備考
	※JIS G 3322の屋根用コイル ・			・立平葺 ・瓦棒葺（心木なし） ・横葺 ・	

下葺材料　・アスファルトルーフィング940
・改質アスファルトルーフィング下葺材
（・一般タイプ　・複層基材タイプ　・粘着層付タイプ）

工法 (13.2.3)
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
・図示による　・
横葺の場合のケラバ納め　・つかみ込み納め　・けらば包み納め
雪止め　・設置する（施工箇所　・図示　・　　）

②.折版葺

(13.3.2)（表13.2.1）

施工箇所	形式	山高、山ピッチによる区分 山高	山ピッチ	耐力による区分	材料による区分	厚さ（mm）	軒先面戸板	
屋根	※ はぜ締め型 ⊙ 図示			・（　）種	※ 鋼板製 ・		・有 ・無し	
	・			・	・		・	

材質の種類：（　　）
塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号：（　　）
断熱材　・有り（種別：　　厚さ（mm）：　防火性能：　時間）
⊙無し

工法 (13.3.3)
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
・図示による　・
積雪荷重に対応した工法　・適用する（・図示　・　　）・適用しない
折板のけらば納め　※けらば包みによる方法　・

3.粘土瓦葺

材料 (13.4.2)

施工箇所	種類 製法による区分	形状による区分	寸法による区分	大きさ	産地	役物瓦の種類	雪止め瓦
							・適用する ・適用しない
							・適用する ・適用しない

JAS A 5208に基づく凍害試験　・行う　・行わない
瓦桟木　材質　※杉　・
寸法　※幅21×高さ15（mm）以上　・
棟補強用心材　材質　※杉　・
寸法　※幅40×高さ30（mm）以上　・
瓦緊結用釘又はねじ　種類　・　径　・　長さ　・
棟補強に使用する金物等　材質　・ｽﾃﾝﾚｽ製　・亜鉛めっき処理鋼製
形状・寸法・留付け方法　※ 図 示　・

工法 (13.4.3)
建築基準法に基づき定まる風圧力又は地震力に対応した瓦の緊結方法などの工法
風圧力　・図示による　・
地震力　・図示による　・
瓦緊結用釘又はねじの有効長さの最小値　（　　）mm
瓦桟木の留付け工法　・図示による　・
棟の工法　・7寸丸伏せ棟又はＦ型用冠瓦伏せ棟
・のし積み棟
面戸、雀口、葺土の露出する瓦接合部に仕上をする場合
・モルタルによる　・瓦葺き用しっくいによる

④.と　い

材料
といの材種　・配管用鋼管　・硬質ポリ塩化ビニル管　⊙ 図示　（表13.5.1）
・表面処理鋼板（・表面及び裏面の塗装の種類：　・耐酸被覆鋼管）
とい受金物 (13.5.2)
とい受金物の在主、経常、取り付け間隔
※標準仕様書　表13.5.2による　・
足金物の材種、形状、取り付け金物
※標準仕様書　表13.5.2による　・
多雪地域の場合の軒といの取付け間隔　0.5m以下　・図示による

5，ルーフドレイン

JCW 301によるルーフドレインの種類及び呼び (13.5.2)（表13.5.1）

種類		呼び	施工箇所
・ろく屋根用たて形Ⅰ型	ねじ込み式	・	
・ろく屋根用横形Ⅰ型	ねじ込み式	・	
・バルコニー中継用	・ねじ込み式　・差し込み式	・	
・バルコニー用	・ねじ込み式　・差し込み式	・	

1.4 金属工事

1．アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理

表面処理 (14.2.1)(表14.2.1)

種　別	色合い等	施工箇所(成形板、笠木、建具以外)
・AB－1種		
・AB－2種		
・AC－1種		
・AC－2種		
・BA－1種		
・BA－2種		
・BB－1種		
・BB－2種		
・BC－1種		
・BC－2種		
・C　種		

・常温乾燥形の塗装の場合（　　）
陽極酸化被膜の着色方法　※二次電解釈色　・三次電解着色

2．鉄鋼の亜鉛めっき

(14.2.2)(表14.2.2)

表面処理方法	種　別	施工箇所(手すり、タラップ以外)
・溶融亜鉛めっき	・Ａ種	
	・Ｂ種	
	・Ｃ種	
・電気亜鉛めっき	・Ｄ種	
	・Ｅ種	
	・Ｆ種	

4.5 金属工事

③．軽量鉄骨天井下地

野縁等の種類 (14.4.2)(表14.4.1)
屋外　※ 25型　・19型　　屋内　※ 19型　・25型
・屋外の場合の形式及び寸法 (14.4.3)
野縁受、つりボルト、インサートの間隔及び周辺端部からの距離
・図示による　・
野縁の間隔　・図示による　・
工法 (14.4.4)
・吊ボルト間隔が900mmを超える場合の補強方法　・図示　・
・天井のふところが3.0mを超える場合　・図示　・
・天井下地材における耐震性を考慮した補強
補強箇所、補強方法　・図示による　・
・屋外の軒、ピロティ等の天井における耐風圧を考慮した補強
補強箇所、補強方法　・図示による　・

④.軽量鉄骨壁下地

スタッド、ランナーの種類 (14.5.3)(表14.5.1)
※標準仕様書表14.5.3によるスタッド高さによる区分に応じた種類　・ 図示
スタッドの高さが５ｍを超える場合　※ 図示　・
出入口及びこれに準ずる開口部の補強
※標準仕様書14.5.4.（5）による　・図示による

5．金属成形板張り

(14.6.2)（表14.2.1）

種別	製法	形状	寸法(mm)	板厚(mm)	表面処理 種　別	色合い等
アルミニウム	・押出し ・ロール	・スパンドレル形	・図示	・図示	・ ・	・ ・
	・プレス ・	・パネル形			・ ・	・ ・
	・				・	・

取付用下地　※標準仕様書14.4による　・図示 (14.6.3)
伸縮調整継手　・設ける（施工箇所・図示による）
・設けない

6．アルミニウム製笠木

部材の種類 (14.7.2)(表14.7.1)
・250形　・300形　・350形
上記以外　・　形(最小肉厚　mm)
表面処理　種別（　　）種 (14.7.2)（表14.2.1）
色合等　・標準色（　　）
・特注色（　　）
笠木の固定金具の工法等 (14.7.3)
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
・図示による　・

7．インサート

※床面で断熱材打込み部分は断熱材用インサートとする

4.5 左官工事

1.下地

ラス系下地の種類 (15.2.4)
・通気構法　（・単層下地　・二層下地）
・直張り工法（・ラスモルタル下地　・ラスシートモルタル下地）
・外断熱工法で断熱材の外側に野縁を施工する通気構法を行う場合　（・図示による）
ラス材及び補強用平ラス
材料記号（※Ｋ　・　　）
種類及び単位面積当たりの質量
・二層下地通気構法　（・波形ラス(W700)・こぶラス(K800)・力骨付きラス(BP700)）
・単層下地通気構法　（・リブラス(RC800)にターボン紙などの裏打ち材と一体化したラス）
ラスシートの山高、山ピッチ、質量及び溶接ピッチによる区分
※LS4（耐力壁の場合）・
建築基準法に基づく耐力壁として使用する場合のラスシートの施工　・図示による
こまい下地　建築基準法に基づく耐力壁の指定　・あり　・なし (15.2.6)
材料　⊙現場調合材料　・既調合材料 (15.3.2)
既製目地材　・設ける　施工箇所（　　）　形状(※図示　・　　)
・設けない
床目地　・設ける（工法：※押し目地　・　　）　・設けない (15.3.5)
外装タイル張り下地のモルタル塗り及び下地調整塗材塗りの接着力試験 (15.3.5)
・適用する　・適用しない

2．モルタル塗り

3．セルフレベリング材塗り

種類　・せっこう系　・セメント系 (15.5.2)(表15.5.1)
品質　※表15.5.1による

4．仕上塗材仕上げ

ホルムアルデヒド放散量　※Ｆ☆☆☆☆ (15.5.2)

仕上塗材の種類 (15.6.2)(表15.6.1)(表15.6.2)

種　類	呼　び　名	防火材料	吸放湿性	仕上げの形状及び工法等 形状	工法	凡例
・薄付仕上塗材	・外装薄塗材Ｓｉ	・適用する ・しない				形状 A 砂壁状 B ゆず肌状 C さざ波状 D 平たん状 E 凹凸状 F 着色骨材砂壁状 G 砂壁状じゅらく H 京壁状じゅらく 工法 A 吹付 B ローラー塗り C こて塗り
	・可とう形外装薄塗材Ｓｉ	・適用する ・しない				
	・外装薄塗材Ｅ	・適用する ・しない				
	・可とう形外装薄塗材Ｅ	・適用する ・しない				
	・防水形外装薄塗材Ｅ	・適用する ・しない				
	・外装薄塗材Ｓ	・適用する ・しない				
	・内装薄塗材Ｃ ・内装薄塗材Ｌ	・適用する ・しない	・適用する ・しない			
	・内装薄塗材Ｓｉ ・内装薄塗材Ｅ	・適用する ・しない	・適用する ・しない			
	・内装薄塗材Ｗ	・適用する ・しない	・適用する ・しない			
		・適用する ・しない	・適用する ・しない			
・厚付仕上塗材	・外装厚塗材Ｃ	・適用する ・しない				形状 A 吹放し B 凸部処理 C 平たん状 D 凹凸状 E ひき起こし F かき落とし 工法 A 吹付 B ローラー塗り C こて塗り
	・外装厚塗材Ｓｉ ・外装厚塗材Ｅ	・適用する ・しない				
		・適用する ・しない				
	・内装厚塗材Ｃ	・適用する ・しない	・適用する ・しない			
	・内装厚塗材Ｌ	・適用する ・しない	・適用する ・しない			
	・内装厚塗材Ｇ	・適用する ・しない	・適用する ・しない			
	・内装厚塗材Ｓｉ ・内装厚塗材Ｅ	・適用する ・しない	・適用する ・しない			

外装厚塗材Ｃにおける上塗材がセメントスタッコ以外の場合
（・　　）
外装厚塗材Ｓｉ、外装厚塗材Ｅにおける上塗材の適用
・適用する　・適用しない

5.7 左官工事

種　類	呼　び　名	防火材料	仕上の形状	工　法	耐候性
・複層仕上塗材	・複層塗材ＣＥ ・複層塗材ＲＥ ・複層塗材Ｓｉ ・複層塗材Ｅ	・適用する ・しない	・ゆず肌状 ・凸部処理 ・凹凸状	・吹付 ・ローラー塗り	・耐候形3種 ・
	・可とう形複層塗材ＣＥ	・適用する ・しない	・ゆず肌状 ・凸部処理 ・凹凸状	・吹付 ・ローラー塗り	・耐候形3種 ・
	・防水形複層塗材CE ・防水形複層塗材RE ・防水形複層塗材E	・適用する ・しない	・ゆず肌状 ・凸部処理 ・凹凸状	・吹付 ・ローラー塗り	・耐候形3種 ・
・軽量骨材仕上塗材	・吹付用軽量塗材	・適用する ・しない	・砂壁状	・吹付け	
	・こて塗用軽量塗材	・適用する ・しない	・平たん状	・こて塗り	

複合仕上げ塗材の仕上塗材 (15.6.2)（表15.6.2）
樹脂　・アクリル系　・シリカ系　・ポリウレタン系　・アクリルシリコン系　・ふっ素系
外観　・つやあり　・つやなし　・メタリック
溶媒　・溶剤系　・弱溶剤系　・水系

5.マスチック塗材塗り

種別　・Ａ種　・Ｂ種 (15.7.2)（表15.7.1）

6.しっくい塗

下地の種類（　　）
標準仕様書5.10.1による場合以外の下地への適用（　　）
材料　・標準仕様書15.10.2(1)(ア)、(イ)による (15.10.2)
色しっくい　・適用する　・適用しない
調合及び塗厚 (15.13.3)（表15.10.1～表15.10.4）
既調合しっくい　※標準仕様書15.10.3(1)による　・
現場調合しっくい　※標準仕様書15.10.3(1)による　・
既調合しっくいの上塗り仕上げ工法 (15.10.4)（表15.10.5）
・なで切り仕上げ　・パターン仕上げ）

7.こまい壁塗り

材料 (15.11.2)
土壁用ののりの種類　※つのまた　・ふのり　・ぎんなんそう　・粉末海藻
砂壁用ののりの種類　※ふのり　・つのまた　・こんにゃくのり　・にかわ　・合成高分子系混和剤
色土の種類　・土物仕上げ（　　）・大津仕上げ（　　）
色砂の種類　・天然砂と岩石の砕砂　・人工的に着色・製造したもの
建築基準法に基づく耐力壁の指定がある場合の塗厚　・図示による　・ (15.11.4)
工程　こまい壁の種別　※Ａ種　・Ｂ種 (15.11.5)（表15.11.9）
土物の仕上げの工法　・土物の仕上げ工法（・　　）
・砂壁仕上げ工法
・切返し仕上げ工法
大津仕上げの工法　・普通大津仕上げ工法　・大津みがき工法 (15.11.8)
ちりじゃくり　・図示による　・ (15.11.7)（15.11.8）

8.ロックウール吹付け

ロックウールのホルムアルデヒド放散量　※Ｆ☆☆☆☆ (15.12.2)
吹付厚さ（mm）　・図示　・25 (15.12.3)

16 建具工事

1.一般事項

防火戸 (16.1.3)（16.1.4）(16.1.6)
※建具表による　・
・防火戸の自動閉鎖機構及び防火戸について、連動させる装置等

建具見本の製作　・行う（建具符号：　　）　・行わない
特殊な建具の仮組　・行う（建具符号：　　）　・行わない
防犯建物部品の適用　・適用する（※建具表による）　・適用しない

②．アルミニウム製建具

外部に面する建具(ｺﾝｸﾘｰﾄ系及び鉄骨下地) (16.2.2)(表16.2.1)

種別	耐風圧性	気密性	水密性	建具符号
・Ａ種	※Ｓ-４　・	※Ａ-３	※Ｗ-４	※建具表による
・Ｂ種	※Ｓ-５　・			※建具表による
・Ｃ種	※Ｓ-６　・	※Ａ-４	※Ｗ-５	※建具表による

外部に面する建具(木下地) (16.2.2)(表16.2.2)

種別	耐風圧性	気密性	水密性	建具符号
・Ｄ種	※Ｓ-２　・	※Ａ-３	※Ｗ-３	※建具表による
・Ｅ種	※Ｓ-３　・			※建具表による

防音ドア、防音サッシ (16.2.2)
・遮音性の等級（　　）建具符号　※建具表による
断熱セット、断熱サッシ G (16.2.2)
・断熱性の等級（　　）建具符号　※建具表による
網戸等 (16.2.3)

種類	材　種	線　径	網　目
⊙防虫網	※ 合成樹脂製 ・ ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ ステンレス（SUS316）製	※ 0.25以上 ・	※ 16～18メッシュ ・
・防鳥網	・ ステンレス（SUS304）線材	1.5mm	網目寸法15mm

建具の枠　見込み寸法　※建具表による (16.2.2)（16.2.4）（16.2.5）
表面処理　外部に面する建具　種別　・ＢＢ－１種　・ＢＢ－２種
着色　⊙標準色　・特注色）
屋内の建具　種別　・ＢＣ－１種　・ＢＣ－２種
着色　⊙標準色・特注色）
結露水の処理方法　※図示 (16.2.4)
水切り板、ぜん板　※図示 (16.2.5)
木下地の内付け建具　・適用する（建具製造所の仕様）　・適用しない (16.2.5)

3.樹脂製建具

外部に面する建具 (16.3.2)（表16.3.1）

種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み寸法
・Ａ種	※Ｓ-４	※Ａ-４	※Ｗ-４	※建具表による
・Ｂ種	※Ｓ-５		※Ｗ-５	※建具表による
・Ｃ種	※Ｓ-６			※建具表による

外部に面する建具(木下地) (16.3.2)(表16.3.2)

種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み寸法
・Ｄ種	※Ｓ-２　・	※Ａ-４	※Ｗ-３	※建具表による
・Ｅ種	※Ｓ-３　・			※建具表による

防音ドア、防音サッシ
・遮音性の等級（・T-1　・T-2） (16.3.2)
断熱セット、断熱サッシ G 16.3.2)（表16.3.3）
・断熱性の等級（・　　）
外部に面する建具の日射熱取得性の等級　・ (16.3.4)
表面色　・標準色　・特注色
水切り板、ぜん板　※図示
木下地の内付け建具　・適用する（建具製造所の仕様）　・適用しない

4.鋼製建具

性能等級（建具符号は建具表による） (16.4.2～3)（表16.4.1）(表16.2.1)
簡易気密型ドアセット　・適用する（標準仕様書　表16.4.1による）
・適用しない
外部に面する建具の耐風圧性　・耐風圧性(・S-4　・S-5　・S-6)
耐震ドアとする場合　・面内変形追随性の等級（・　　）
防音ドア、防音サッシ　・遮音性の等級（・　　）
断熱セット、断熱サッシ G ・断熱性の等級（・　　）
点検口等のくつずりの材料　・鋼板　・ステンレス (16.4.3)
鋼板類の厚さ　※標準仕様書　表16.5.1による　・ (16.4.4)
標準型鋼製建具の有効内法寸法（表16.4.5による） (16.4.6)
・適用する（建具符号、形式及び寸法は建具表による）

5.鋼製軽量建具

性能等級（建具符号は建具表による） (16.5.2)(16.5.3)(表16.2.1)
簡易気密型ドアセットの気密性等級　・適用する（A-3）・適用しない
耐震ドアとする場合　・面内変形追随性の等級（・　　）
防音ドア、防音サッシとする場合　・遮音性の等級（・　　）
断熱ドア、断熱サッシとする場合 G ・断熱性の等級（・　　）
鋼板類　・亜鉛めっき鋼板　・ビニル被覆鋼板　・カラー鋼板　・ステンレス鋼板
召合せ、縦小口包み板の材質　※鋼板
鋼板類の厚さ　※標準仕様書　表16.5.1による　・図示による (16.5.4)
標準型鋼製軽量建具の有効内法寸法（表16.4.5による） (16.5.6)
・適用する（建具符号、形式及び寸法は建具表による）

6.ステンレス製建具

性能等級（建具符号は建具表による） (16.6.2)(16.6.3)(16.4.2)
耐風圧性等級、気密性等級、水密性等級　・建具表による　・
外部に面する建具の耐風圧性（表16.2.1による）　・Ｓ-４　・Ｓ-５　・Ｓ-６
耐震ドアとする場合　・面内変形追従性の等級（・　　）
防音セット、防音サッシとする場合　・遮音性の等級（・　　）
防音ドア、防音サッシとする場合　・遮音性の等級（・　　）
断熱ドア、断熱サッシとする場合 G ・断熱性の等級（・　　）
ステンレス鋼板　※SUS304、430J1L又はSUS443J1 (16.6.3)
表面仕上げ　※ＨＬ仕上げ　・鏡面仕上げ (16.6.4)
ステンレス鋼板の曲げ加工　※普通曲げ　・角出し曲げ (16.6.5)

⑦.木製建具

建具材の加工、組立時の含水率　※ Ａ種　・Ｂ種・ (16.7.2)
表面材及び接着剤のホルムアルデヒドの放散量　※Ｆ☆☆☆☆ (16.7.2)
枠、くつずりの材料　⊙建具表による (16.7.2)
⊙フラッシュ戸 (16.7.2)（表16.7.2）
表面材の合板の種類

合板の種類	表面材の品質等
・普通合板 G	接着の程度　※水掛り箇所１類、その他２類以上　・ 板面の品質　※広葉樹１等　・
・天然木化粧合板　G	接着の程度　※水掛り箇所１類、その他２類以上　・
・特殊加工化粧合板 G	
・ミディアムデンシティファイバーボード（MDF） G	表裏面の状態による区分（・DV　・DO　・DC） 曲げ強さによる区分（・30　・25　・15） 接着剤による区分（・U　・M　・P） 難燃性による区分（・難燃2　・難燃3）

表面材のホルムアルデヒド放散量　※標準仕様書16.7.2(イ)(a)による　・
正面板の厚さ　※標準仕様書　表16.7.6による　・ (16.7.3)
引戸の定規縁　・召し合せかまちをいんろう付きとする (16.7.4)
・かまち戸 (16.7.2)（16.7.3）（表16.7.7）
かまち樹種（　　）　鏡板樹種（　　）
見込み寸法　※36mm　・建具表による
・ふすま (16.7.2)（表16.7.3）（16.7.3）（表16.7.7）（16.7.4）（表16.7.10）
種別、工法　・Ⅰ型　・Ⅱ型
上張り　・鳥の子　・新鳥の子又はビニル紙程度
縁仕上　・塗り縁　・生地縁（素地）　・生地縁（ウレタンクリヤー塗装）
見込み寸法　※19.5mm　・建具表による
・戸ぶすま (16.7.2)（16.7.3）（16.7.4）（表16.7.7）
表面材の種類、品質等（　　）
戸ふすまの見込み寸法　※30mm　・建具表による
・紙張り障子 (16.7.3)（表16.7.7）
見込み寸法　※30mm　・建具表による

⑧.建具金物

金物の種類・見え掛り部の材質等 (16.8.2)
※標準仕様書表16.8.1及び適用（備考欄の特記事項とも）は建具表による
金属製建具に使用する丁番　※標準仕様書表16.8.2による
樹脂製建具に使用する丁番　※標準仕様書表 16.8.3による
木製建具に使用する丁番、戸車、レール　※標準仕様書表16.8.4～5による
握り玉、レバーハンドル、押板類、クレセントの取り付け位置　※建具表による (16.8.3)

⑨.鍵

マスターキー　⊙製作する　・製作しない (16.8.4)
鍵箱　※有　・無

10.自動ドア開閉装置

(16.9.2)（16.9.3）

自動ドア	性能値	防錆	開閉方式	凍結防止
・SSLD-1	※標準仕様書表16.9.1による	・適用する ・適用しない	・光線（反射）センサー ・熱線センサー ・音波センサー ・光電センサー ・電波センサー ・タッチスイッチ ・押しボタンスイッチ ・車椅子使用者用便房スイッチ	・行う （使用箇所は建具表による） ・行わない
・SSLD-2				
・DSLD-1				
・DSLD-2				
・	・			

戸の開閉方式　※建具表による　・
車椅子使用者便房スイッチ　・大型（開・閉）押し釦スイッチ　・非接触スイッチ

11.自閉式上吊り引き戸装置

性能　※標準仕様書表16.10.1による　・図示による (16.10.3)

12.重量シャッター

シャッターの種類 (16.11.2)
・ 管理用シャッター
・ 外壁用防火シャッター 耐風圧強度（　　）pa
・ 屋内用防火シャッター
・ 防煙シャッター
開閉機能による種類　※ 電動式（手動併用）　・ 手動式　（表（16.11.1）(16.11.2)
安全装置（急降下制御装置又は急降下停止装置）の設置個所 (16.11.2)
急降下制御装置又は急降下停止装置　※建具表による　・
障害物感知装置の設置個所　※建具表による　・
危害防止機構の設置個所　※建具表による　・
管理用シャッターのシャッターケース　・ 設ける　・設けない (16.11.2)
スラット及びシャッターケース用鋼板　めっき付着量　※Ｚ12又はＦ12　・ (16.11.3)
・JIS G 3302(溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯)
・JIS G 3312(塗装溶融亜鉛めっき鋼板鋼帯)

13.軽量シャッター

開閉形式　※　手動式　・　電動式（手動併用） (16.12.2)(表16.12.1)
耐風圧強度（　　）pa
電動式の場合の障害物感知装置の設置個所　※建具表による　・
スラット　材質　・JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板） (16.12.3)（16.12.4）
・JIS 3322（塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
形状　・ インターロッキング形　・ オーバーラッピング形

14.オーバーヘッドドア

区分・材料 (16.13.2)(16.13.3)

セクション材料による区分	耐風圧(Pa)	開閉方式による区分	収納形式による区分	ガイドレールの材質
※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ	・125 ・100 ・75 ・50	※ バランス式 ・ チェーン式 ・ 電　動　式	・ スタンダード形 ・ ローヘッド形 ・ ハイリフト形 ・ バーチカル形	※ 溶融亜鉛めっき鋼材 ・ ステンレス鋼板 ・

・電動式の場合の障害物感知装置は建具表による

15.ガラス

※特記仕様書に記載無き名称・種類・品質・厚さ・組合せ等は図示（建具表）による
・合わせガラス (16.14.2)

品　種	構成種類	落球衝撃はく離特性、ｼｮｯﾄﾊﾞｯｸ衝撃特性
※建具表による		・Ⅰ類　・Ⅱ－1類　・Ⅱ－2類　・Ⅲ類

・強化ガラス (16.14.2)

材料板ガラスによる種類	種　類	破片の種類、ｼｮｯﾄﾊﾞｯｸ衝撃特性
・フロートガラス	・フロート強化ガラス ・熱線吸収強化ガラス	・Ⅰ類 ・Ⅲ類
・型板ガラス	・型板強化ガラス	

紫波警察署桜町宿舎解体ほか工事 設計図		検　図	製図	設計年月 令和7年 1月 (2025年)	図面内容　（仮眠室棟新築） 新築工事　特記仕様書（３）	縮尺 A1: A3:	建築意匠 図面番号 A- 04 計通　消防　構造適判　省ｴﾈ適判

⑥-2 建具工事

・熱線吸収板ガラス (16.14.2)

品種	性能	色調
・熱線吸収フロート板ガラス	・1種 ・2種	・ブルー　・グレー　ブロンズ
・熱線吸収網入磨き板ガラス		

⊙複層ガラス　板ガラスの種類及び厚さの組合せ、複層ガラスの厚さは建具表による (16.14.2)

品類	断熱性の区分	日射取得性・遮へい性による区分	乾燥気体の種類
⊙断熱複層ガラス	⊙T1　・T3　・T5 ・T2　・T4　・T6	⊙G ・S	⊙空気 ・アルゴン
・日射熱遮へい複層ガラス	・T1　・T3　・T5 ・T2　・T4　・T6	・G ・S	・空気 ・アルゴン

・熱線反射ガラス (16.14.2)

品種	日射遮へい性	耐久性による区分	色調
・熱線反射ガラス ・高性能熱線反射ガラス	・1種	A種	・ブルー ・グレー ・ブロンズ ・シルバー
	・2種	・A種　・B種	
	・3種	B種	

反射被覆面　・内面　・外面
映像調整　・行わない　・行う (16.14.4)
・倍強度ガラス (16.14.2)

材料板ガラスによる種類の名称	厚さ	色調
・フロート倍強度板ガラス	※図示	―――
・熱線吸収倍強度板ガラス	※図示	・グレー　・ブルー　ブロンズ

ガラス留め材、溝の大きさ (16.14.2)(16.14.3)(図16.14.1)

建具の種類	ガラスの留め材	ガラス溝の大きさ（mm）
アルミニウム製	・シーリング材 ⊙建築用ガスケット ・グレイジングチャンネル	・建具製造所の仕様による ・
樹脂製	・建築用ガスケット ・グレイジングビード	・建具製造所の仕様による ・
鋼製及び鋼製軽量	・シーリング材 ・	・建具製造所の仕様による ・
ステンレス製	・シーリング材 ・	・建具製造所の仕様による ・

16.ガラスブロック

材料等 (16.14.5)

表面形状	呼び寸法	厚さ	色調 クリア	色調 乳白	色調 その他	目地幅(mm) 平積み	目地幅(mm) 曲面積み	伸縮目地目地位置
正方形	・125×125	・80	・	・	・図示	※8～15 ・15～25 ・	外側 ※15以下 ・ 内側 ※6以上 ・	※6m以下ごとに幅10～25mm ・図示 ・
	・160×160	・95　・125	・	・	・図示			
	・200×200	・95　・125	・	・	・図示			
	・320×320	・95	・	・	・図示			
長方形	・250×125	・80	・	・	・図示			
	・320×160	・95	・	・	・図示			

壁用金属枠及び補強材　・設ける（形状　※図示　・　　）
・設けない
力骨　材質　※ステンレス製（SUS304）
寸法　※径5.5mm
形状　※ほしご形状複筋及び単筋
化粧目地モルタルの色　（・　　）
シーリング材の種別　（・　　）
金属製化粧カバー　材質　・ステンレス製　・アルミニウム製
寸法　※図示　・　　形状　※図示　・
工法 (16.14.5)
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法　（・図示による　・　　）
木下地の場合の壁用金属枠の取付け間隔（・　　）
目地部の構力骨の納まり　※ガラスブロック製造所の仕様による　・図示による

17 カーテンウォール工事

1.取付方法、性能等

性能 (17.1.3)

耐震性能 水平方向	耐震性能 鉛直方向	耐風圧性	水密性	気密性	遮音性	断熱性	耐火性能	耐久性
※1.0KH	※0.5KV						・30分 ・1時間	・80 ・70 ・60 (℃)

性能の確認方法及び判定方法
※性能の確認及び判定方法が確認できる敵札な資料　・

2.メタルカーテンウォール

適用は以下によるほか、カーテンウォール図による
金属系材料の種類 (17.2.2)
・アルミニウム　・鋼材　・ステンレス鋼材
（アルミニウム材の場合）規格等　※標準仕様書16.2.3による
種別　・ (表14.2.1)
着色　・標準色　・特注色
シーリング材（ガラスの取り付けは除く） (17.2.2)
下表以外は標準仕様書　表9.7.1による

被着体の組合せ	シリング材の種類 記号	シリング材の種類 主成分による区分

ガラスの取付け材料　・シーリング（種類：　　） (17.2.2)
・構造ガスケット（材質、形状　・図示　・　　）
断熱材G　種類（　　） (17.2.2)
厚さ（・　mm）
施工箇所　・図示による　・
形状及び仕上 (17.2.3)
製品の寸法許容差　※標準仕様書　17.2.1による　・図示による
見え係り部の仕上げ　・
ガラス溝の寸法、形状等　※カーテンウォール製造所の仕様　・
取付け　躯体付け金物の取付け位置の寸法許容差 (17.2.5)
※標準仕様書　表17.2.2による　・図示による
カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差
※標準仕様書　表17.2.3による　・図示による
ガラスの取付け方法　（・　　） (17.2.6)

3.PCカーテンウォール

適用は以下によるほか、カーテンウォール図による
材料 (17.3.2)
コンクリート　※共通仕様書17.3.2(1)(ア)～(ウ)による　・図示

17-2 カーテンウォール工事

鉄筋　※SD295　・
補強鉄筋　径（mm）　・3.2　・4.0　・5.0　・6.0
網目寸法　・
シーリング材 (17.3.2)
下表以外は標準仕様書　表9.7.1による

被着体の組合せ	シリング材の種類 記号	シリング材の種類 主成分による区分

ガラスの取付け材料　・構造ガスケット（材質、形状　・図示　・　） (17.3.2)
耐火目地材　・ (17.3.2)
断熱材　種類（　　） (17.3.2)
厚さ（・　mm）
施工箇所　・図示による　・
先付けの材料　・先付け材料の仕上げ材 (17.3.2)
・石材（・花こう岩　・大理石　・　）
・セラミックタイル
・建具枠
・ゴンドラ用ガイドレール
形状及び仕上げ (17.3.3)(表17.3.1)
製品の寸法許容差　※標準仕様書　17.3.1による　・図示による
カーテンウォールの仕上げ　・
構造用ガスケットを用いる場合のアンカー溝の寸法及び寸法許容差（mm）　※図示
製作　配筋　・図示による　・ (17.3.4)
取付け　躯体付け金物の取付け位置の寸法許容差 (17.3.5)
※標準仕様書　表17.2.2による　・図示による
カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差
※標準仕様書　表17.2.3による　・図示による
ガラスの取付け方法　（・　　） (17.3.6)

18 塗装工事

1.材料

屋内で使用する場合のホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆ (18.1.3)
・防火材料　※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする
・次の箇所を除き防火材料とする（箇所：　　）

2.素地ごしらえ

種別 (18.2.2～7)(表18.2.1～7)

下地面等		種別
木部	不透明塗料塗りの場合	※A種　・B種
	透明塗料塗りの場合	※B種　・A種
鉄鋼面	耐候性塗料(DP)の場合	※B種　・A種　・C種
	上記以外の場合	※C種　・A種　・B種
亜鉛めっき鋼面		・A種　・B種
モルタル面及びプラスター面		※B種　・A種
コンクリート面(DP以外)、ALCパネル面及び押出成形セメント板面		※B種　・A種
コンクリート面(DP)の場合		※A種　・B種
石膏ボード面及び	目地：継目処理工法	※A種　・B種
その他ボード面	目地：継目処理工法以外	※B種　・A種

3.錆止め塗料塗り

(18.3.2～3)

下地面等		塗料の種別	工程の種別
鉄鋼面	SOP下地	・A種	見え掛り部分　※A種・B種　見え隠れ部分　※B種・A種
	EP-G下地	※B種　・A種	※A種　・B種
	DP下地	1回目C種　2,3回目D種	標準仕様書　表18.3.4による
亜鉛めっき鋼面	SOP下地	鋼製建具等　※A種・B種	鋼製建具等　※A種　・B種
		鋼製建具等以外　※B種・A種	鋼製建具等以外　※B種　・A種
	EP-G下地	・C種	鋼製建具等　※A種・B種　鋼製建具等以外　※B種　・A種
	DP下地	・B種	標準仕様書　表18.3.4による

4.塗料

種別 (18.4.1～18.12.2)(表18.4.1～表18.12.1)

塗装		種別
・合成樹脂調合ペイント塗り（SOP）	木部屋外	※A種　・B種
	木部屋内	※B種　・A種
	鉄鋼面	※B種　・A種
	亜鉛めっき鋼面	標準仕様書表18.4.3
・クリヤラッカー塗り（CL）		※B種　・A種
・アクリル樹脂系非水分散型塗料塗り（NAD）		※B種　・A種
・耐候性塗料塗り（DP）	鉄鋼面	標準仕様書表18.7.1
	亜鉛めっき鋼面	標準仕様書表18.7.2
	コンクリート面及び押出成形セメント板面	・A種　・B種　・C種
・つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り（EP-G）	コンクリート面、モルタル面等	※B種　・A種
	木部	標準仕様書表18.8.2
	屋内の鉄鋼面	※B種　・A種
	亜鉛めっき鋼面	標準仕様書表18.8.4
・合成樹脂エマルジョンペイント塗り（EP）		※B種　・A種
・ウレタン樹脂ワニス塗り（UC）		※B種　・A種
・ステイン塗り	・ピグメントステイン塗	―
	・オイルステイン塗（OS）	―
・木材保護塗料塗り(WP)	屋外	※B種　・A種

塗料の種類等
クリヤラッカー塗り（CL） (表18.5.1)
種別がA種の場合の、標準仕様書表18.5.1の工程2の塗料の種類（・　）
耐候性塗料塗り（DP） (表18.7.2)
上塗り塗料の等級　鉄鋼面（・　級）　亜鉛めっき鋼面　（・　級）
ウレタン樹脂ワニス（UC） (表18.10.1)
標準仕様書表8.10.1の工程1の着色　・適用する
オイルステイン塗り（OS）の仕様　・図示による　・ (表18.11.2)

5.塗装業者

・日本塗装工業会の会員　・監督員の承諾する塗装業者

⑲ 内装工事

① 接着剤等

接着剤のホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆ (19.2.2～19.9.3)
施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合のゴム床タ接着剤の主成分による区分　・図示による　・ (表19.2.2)
下地の施工　標準仕様書19.2.3(1)(ア)から(ウ)以外の下地の工法
・図示による　・ (19.2.3)

② ビニル床シートG

(19.2.2)

種類の記号	色柄	厚さ(mm)	備考
※FS（複層ビニル床シート） ・	・ ・	※2.0 ・	

目地処理する場合の工法　※熱溶接工法　・ (19.2.3)
(19.2.2)

3.ビニル床タイルG

JIS記号	色柄	厚さ(mm)	寸(mm)法	備考
※KT（コンポジションビニル床タイル） ・TT（単層ビニル床タイル） ・FT（複層ビニル床タイル） ・FOA（置敷きビニル床タイル） ・FOB（薄型置敷きビニル床タイル）	・無地 ・	※ 2.0 ・	・300角 ・450角 ・500角	

4,特殊機能床

材料 (19.2.2)

シート・タイルの種別	種類	性能	厚さ、寸法、形状(mm)
・帯電防止床シート			厚さ：
・帯電防止床タイル			厚さ：　・寸法
・視聴覚者用床タイル			形状：
・耐動荷重性床タイル			厚さ：
・防滑性床シート			厚さ：
・防滑性床タイル			厚さ：　・寸法

⑨-2 内装工事

⑤ ビニル幅木

6,ゴム床タイル

材質の種類　⊙軟質　・硬質 (19.2.2)
高さ（mm）：（※60　・70　・100）　厚さ（mm）：（※1.5以上　・　　） (19.2.2)

種類	厚さ(mm)	寸法(mm)	色柄
・単層品 ・積層品	・3.0　・4.5 ・6.0　・9.0	・	・

7.カーペット敷きG

織じゅうたん (19.3.2)(表19.3.1)

織り方	パイル形状	色柄	帯電性	備考
・ウィルトン ・ダブルフェース ・アキスミンスター	・カットパイル ・ループパイル ・カット、ループ併用	※無地 ・柄物 (標準品)	・適用する ・適用しない	

無地の織りじゅうたんの種別　・A種　・B種　・C種
下敷き　※反毛フェルト（JIS L 3204）の第2種2号　呼び厚さ8mm
見切り、押え金物　・適用する（材質、形状等　・図示　・　　）
・適用しない
織じゅうたんの接合方法　※ヒートボンド工法　・ (19.3.3)

タフテッドカーペット (19.3.2)(19.3.3)(表19.3.2)

パイル形状	パイル長さ(mm)	工法	帯電性	備考
・カットパイル　・	・	・ｸﾞﾘｯﾌﾟ工法 ・全面接着工法	・適用する ・適用しない	
・ループパイル	・			
・カット、ループ併用	・			
・	・			

下敷き材（グリッパー工法の場合）
※反毛フェルト（JIS L 3204の第2種2号　呼び厚さ　8mm　・
見切り、押え金物　・適用する（材質、形状等　・図示　・　　）
・適用しない

タイルカーペット (19.3.2)(19.3.3)

パイル形状	種類	寸法(mm)	総厚さ(mm)	施工箇所	備考
※　ループパイル	※第一種 ・第二種	※500×500 ・	※　6.5 ・		
・　カットパイル	・第一種 ・第二種	※500×500 ・	※　6.5 ・		
・カット、ループ併用	・第一種 ・第二種	※500×500 ・	※　6.5 ・		

見切り、押え金物　・適用する（材質、形状等　・図示　・　　）
・適用しない
タイルカーペットの敷き方
平　場　※　市松敷き　・模様流し　・
階段部分　※　模様流し　・市松敷き　・

8.合成樹脂塗床

塗床材のホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆ (19.4.2)
種類 (19.4.2)(19.4.3)(表19.4.1～8)

種別	工法	仕上げの種類	施工箇所
・厚膜型塗床材 （弾性ウレタン樹脂系塗床材）		※平滑仕上 ・防滑仕上 ・つや消し仕上	
・厚膜型塗床材 （エポキシ樹脂系塗床材）	・薄膜流し展べ工法 ・厚膜流し展べ工法 ・樹脂モルタル工法	・平滑仕上 ・防滑仕上	
・薄膜型塗床材 （エポキシ樹脂塗床材）		※平滑仕上	
・			

9.フローリング張り

フローリング及び接着剤のホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆ (19.5.2)

・単層フローリングG (19.5.2～19.5.5)

種類	工法	樹種	厚さ(mm)	幅及び長さ(mm)
・フローリングボード1等	・釘留め工法（根太張り）	・	・15 ・	※標準仕様書　表19.5.1による ・
	・釘留め工法（直張り）	・	・12以上 ・	※標準仕様書　表19.5.3による ・
	・接着工法	・	・8以上 ・	※標準仕様書　表19.5.5による ・
・フローリングブロック1等	・接着工法	・	・15	

・複合フローリングG (19.5.2～19.5.5)

種類	工法	樹種	厚さ、幅及び長さ
・複合フローリング（天然木化粧）	・釘留め工法（根太張り）	・	標準仕様書　表19.5.2による ・A種　・B種　・C種
	・釘留め工法（直張り）	・	標準仕様書　表19.5.4による ・A種　・B種　・C種
	・接着工法	・	標準仕様書　表19.5.6による ・A種　・B種　・C種

接着工法の場合の緩衝材　※合成樹脂発泡シート　・ (19.5.5)

10.畳敷き

種別 (19.6.2)(表19.6.1)
・A種　⊙B種　・C種
・D種（畳床：・KT-I　・KT-II　・KT-III　・KT-K　・KT-N）
・衝撃緩和型畳　畳表（JIS A 5902）　・C1　・C2
下地の種類　・標準仕様書　表12.6.1による床組
・ポリスチレンフォーム床下地（ノンフロンG）
畳表及び畳床はホルムアルデヒド、アセドアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。

⑨-2 内装工事

⑪ せっこうボードその他ボード及び合板張り

(19.7.2)（表19.7.1）

規格名称	種類	厚さ(mm),規格等
木質系セメント板	・硬質木毛セメント板G	・15　・20　・25　・
	・中質木毛セメント板G	・15　・20　・25　・
	・普通木毛セメント板G	・15　・20　・25　・
	・硬質木片セメント板G	・12　・15　・18　・21
	・普通木片セメント板G	・30　・
繊維強化セメント板	・けい酸カルシウム板	タイプ2(無石綿)　・6　・8
火山性ガラス質複合版(VSボード)	・火山性ガラス質複合板	・ ・
繊維板	・ミディアムデンシティファイバーボード(MDF)G	・3　・7　・9　・12
	・ハードボード(素地)G	・無研磨板(・スタンダード　・テンパード) ・研磨板（・スタンダード　・テンパード） ・2.5　・3.5　・5　・7
	・ハードボード(化粧)G	・内装用　・外装用 ・2.5　・3.5　・5　・7
	・インシュレーションボードG	A級(・天井仕上　・内装仕上　・　　) ・9　・12　・15　・18
パーティクルボード	・単板張りパーティクルボードG	・無研磨板　・研磨板 ・10　・12　・15　・18
	・化粧パーティクルボードG	・単板オーバーレイ　・プラスチックオーバーレイ ・塗装　・10　・12
吸音材料	・ロックウール化粧吸音板	・フラットタイプ(・9(不燃)・12(不燃)　・　) ・凹凸タイプ（・9(不燃)・12(不燃)　・　）
	・ﾛｯｸｳｰﾙ吸音ﾎﾞｰﾄﾞ1号	・25　・
	・ｸﾞﾗｽｳｰﾙ吸音ﾎﾞｰﾄﾞ32K	・25(ガラスクロス包み)　・
石膏ボード製品	⊙せっこうボード	⊙12.5(不燃)　・15(不燃)　・
	・不燃積層石膏ボード	・化粧無(下地張り用) ・化粧有(トラバーチン模様) ・9.5（不燃）
	・シージング石膏ボード	・12.5(不燃)　・
	・強化せっこうボード	・12.5(不燃)　・15(不燃)
	・せっこうラスボード	・9.5　・
	・化粧せっこうボード（木目）	模様(・柾目　・板目) 専用下地材有り ・12.5(不燃)　幅440mm程度
	⊙化粧せっこうボード（トラバーチン模様）	9.5(準不燃)

MDF及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆
ボード表面への化粧張り仕上げの有無
・有り（種類：　　）　・
天井ボードの重ね張りに貼付け方法（ロックウール吸音板を除く） (19.7.3)
（・　　）
石膏ボードの目地工法 (19.7.3)
種類　⊙仕上表による　・
突付け工法、目透かし工法の場合のエッジの種類
⊙ベベルエッジ　・スクエアエッジ

材料

種類	規格	防虫処理
・普通合板	表板の樹種名（　　） 板面の品質（　　） 厚さ（mm）（　　）	・行う ・行わない
・天然木化粧合板	化粧板の樹種名（　　） 厚さ（mm）（　　）	・行う ・行わない
・特殊加工化粧合板	化粧加工の方法　・オーバーレイ　・プリント　・塗装　・ 表面性能（　　） 厚さ（mm）（　　）	・行う ・行わない

合板のホルムアルデヒド放散量
※標準仕様書19.7.2(2)(イ)のいずれかによる
合板の張付け　・A種　・B種 (19.7.3)(表19.7.3)

⑫ 壁紙張り

ホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆ (19.8.2)

施工箇所	壁紙の種類 紙	繊維	ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ	無機質	塩化ビニル	その他	防火性能	備考
	・	・	・	・	⊙	・	・不燃 ⊙準不燃 ・難燃	
	・	・	・	・	・	・		

施工
モルタル面及びプラスター面の吸込止めの塗布等の素地ごしらえ (表18.2.4)
※B種　・A種
コンクリート面の吸込止めの塗布等の素地ごしらえ (表18.2.5)
※B種　・A種
石膏ボード面の素地ごしらえ及びケイ酸カルシウム板面の吸込止めの塗布等の素地ごしらえ
※B種　・A種 (表18.2.7)

⑬ 断熱材G

断熱材打込み工法 (19.9.3)

種類 断熱材名	種類 種類（記号）	厚さ(mm)	施工箇所
・ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材		・	・
・押出法ポリスチレンフォーム断熱材（スキン層なし）		・	・
・硬質ウレタンフォーム断熱材		・	・
・フェノールフォーム断熱材		・	・

フェノールフォームを使用した断熱材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・
・断熱材現場発泡工法 (19.9.4)
断熱材の種類　・A種1　・A種1H
吹付厚さ（mm）・25　・30　・
施工箇所　・図示　・

⑭ 床束

⊙鋼製束　最大圧縮荷重：24.99KN以上　表面処理；めっき処理
大引受：L形状、ゴム板貼り

紫波警察署桜町宿舎解体ほか工事	検図	製図	設計年月	図面内容	縮尺	建築意匠
設計図			令和7年 1月 (2025年)	(仮眠室棟新築) 新築工事　特記仕様書（4）	A1: A3:	図面番号 A- 05 計通　消防　構造適判　省エ適判

⑳ ユニット及びその他工事

1．フリーアクセスフロア

(20.2.2)

施工箇所	構法	仕上り高(mm)	寸法	耐震性能	所定荷重	表面仕上げ材
	・支柱調整式 ・置敷式		・500×500 ・	・1.0G ・0.6G	・3000N ・5000N	・帯電防止床タイル ・タイルカーペット ・

帯電防止性能　・U値（クラス1）　・U値（クラス2）
漏えい抵抗　・R≧1×10Ω6　・
耐荷重性能、耐衝撃性能、ローリングロード性能、耐燃焼性能の試験方法
※標準仕様書20.2.2（2）（イ）による　・
寸法精度
※標準仕様書20.2.2（2）（オ）による　・

2．可動間仕切

材料等 (20.2.3)

構造形式	構成基材の種類 スタッド	構成基材の種類 パネル	パネル表面仕上げ	遮音性能(db/500Hz)
・スタッド式（内臓） ・スタッド式（露出） ・スタッド パネル式 ・パネル式			・メラミン樹脂焼付又はアクリル樹脂焼付 ・壁紙張り ・	・0 ・12 ・20 ・28 ・36

パネル材料のホルムアルデヒド放散量　※Ｆ☆☆☆☆　・
パネル内に取り付ける建具　・あり（※図示　・　）
・なし

3．移動間仕切

材料等 (20.2.4)

操作方法による種類	圧接装置の操作方法	パネル表面材 材質	パネル表面材 仕上げ	遮音性能(db/500Hz)
・手動式 ・電動式 ・部分電動式	・ブッシュ式 ・ハンドル式 ・	・鋼板 ・	・焼付塗装 ・壁紙張り ・	・36未満 ・36以上

ハンガーレールの取付け下地の補強
※標準仕様書20.2.4（3）（ウ）による　・図示による
パネルをランナーに取り付ける部品
※標準仕様書20.2.4（3）（エ）による　・図示による
ハンガーレール
※標準仕様書20.2.4（3）（オ）による　・図示による
ランナー
※標準仕様書20.2.4（3）（カ）による　・図示による
あと施工アンカー　・使用する（種類：　材質：　寸法：　）
・使用しない

4．トイレブース

材料等 (20.2.5)

パネル表面材の材質	脚部の種類	ドアエッジの材質
・メラミン樹脂系化粧板 ・ポリエステル樹脂系化粧板	※幅木タイプ ・支柱タイプ	※製造所の仕様による ・アルミニュウム製 ・ステンレス製 ・表面材と同材

パネル材料のホルムアルデヒド放散量　※Ｆ☆☆☆☆　・

5．手すり

材料等 (20.2.6)

材種	表面仕上げ	直径(mm)	取付箇所	備考
・集成材	・クリアラッカー ・	・35 ・45 ・		
・ステンレスパイプ	・HL ・			
・鋼製パイプ	・EP−G ・SOP ・			
・ビニル製ハンドレール				

6．階段滑り止め

材料等 (20.2.7)

材種	形状	寸法(mm)	取付工法
・ステンレス製(SUS304) ・黄銅製押出型材 ・アルミニウム製押出型材	・ひも形 ・タイヤ型	・ ・	※接着構法 ・埋込工法

7．黒板及びホワイトボード G

黒板 (20.2.9)

黒板の種類	区分	寸法	色彩	特記
・鋼製 ・ほうろう	※焼付け ・	※図示	※緑 ・黒	

ホワイトボード　・図示による　・

8．鏡

厚さ　※ 5mm　・　寸法、取付箇所　・図示による　・ (20.2.10)

9．表示

材料等 (20.2.11)

区分	材質	寸法・形状	厚さ(mm)	備考
・衛突防止表示	・ステンレス製 ・	・30Φ ・	・市販品 ・	・両面　・片面
・室名札	・アクリル板 ・	・図示 ・	・5 ・	
・ピクトグラフ	・アクリル板 ・	・図示 ・	・5 ・	
・案内板	・アクリル板 ・	・図示 ・	・5 ・	
・	・	・	・	

・色、書体、印刷の種別、取付け形式等　※図示による　・
・非常用進入口等の表示等　※消防法に適合する市販品　・
案内用図記号はJIS Z 8210による。

10．タラップ

材料の種類　※ステンレス製（SUS304）　・ (20.2.12)
仕上げ　※研磨等の仕上げを行わない　・

11．煙突ライニング

煙突用成型ライニング材 (20.2.13)
・適用安全使用温度（・　℃）

12．ブラインド

材料等　（※幅・高さは図示による） (20.2.14)

形式	種類	スラット等の材質		スラット幅(mm)	備考
⊙横型	※ギヤ式 ・コード式 ・操作棒式	スラット	※アルミニウム合金製 G	※25 ・	
		ヘッドボックス	※鋼製　・		
		ボトムレース	※鋼製　・		
・縦型	※ 2本操作コード式 ・1本操作コード式	スラット	・アルミスラット ・クロススラット	・	開閉方式 ・片開き　・両開き

アルミスラット：焼付塗装仕上　クロススラット：消防法による防炎性能の表示がある特殊樹脂加工

⑳-1 ユニット及びその他工事

13．ロールスクリーン G

材料等 (20.2.15)

材種	品質	操作方法	幅、高さ	取付箇所
・ポリエステル ・	・	・電動式 ・スプリング式 ・チェーン式	・図示 ・	・図示 ・

巻取りパイプ、ウェイトバー、操作コード又は操作チェーンその他の材料
※製造所の仕様による　・

14．カーテン

材料等 (20.2.16)（表20.2.1）

形式		開閉操作	ひだの種類	生地の種別、品質特殊加工等	取付箇所	備考
・シングル ・ダブル	・片引 ・引分	・手引き ・ひも引き ・電動	・つまみひだ（三つ山ひだ、二つ山ひだ） ・箱ひだ、片ひだ ・プレーンひだ	・ ・ ・	・図示 ・	
・	・	・	・		・図示	暗幕

暗幕用カーテンの両端、上部及び召合せの重なり　※30mm以上　・

材料等 (20.2.16)
レール及びブラケットの強さによる区分　※10-90　・
レールの材料による区分　※アルミニウム及びアルミニウム合金の押出成形品
・ステンレス製
レールの仕上げ　※アルマイト　・
レールの形状　※角型　・
ーテンの付属物　フック（ひるかん）　※鋼製　・樹脂製

16．ブラインドボックス及びカーテンボックス

材質　・集成材（仕上：　）
・アルミニュウム製　押出し形材（市販品）
種別（標準仕様書表14.2.1）　・BC-1種　・BC-2種
色合い　・標準色　・特注色
・鋼製（仕上：　）
溝幅×深さ（mm）　・90×150　・120×80　・120×150　・150×180　・図示

17．プレキャストコンクリート

補強鉄線の径及び網目寸法　・図示による　・ (20.3.2)
製作 (20.3.3)
コンクリートの設計基準強度
※ 水セメント比55%以下、単位セメント量の最小値300kg／m3を満足する調合強度
・図示による
配筋　・図示による　・
取付方法　・図示による　・ (20.3.4)

18．間知石及びコンクリート間知ブロック積み

材料等 (20.4.2)

材料	材種	種類	質量区分	備考
・間知石	・花こう岩 ・凝灰岩	—	—	
・コンクリート間知ブロック	—		・A ・B	

工法 (20.4.3)
積み方　※谷積み　・布積み
目塗り　・図示　・
伸縮調整目地　材種　・図示　・
厚さ　・図示　。

⑲ 点検口

天井点検口

材種	寸法	形式		外枠	内枠
⊙アルミニウム製 ・	⊙450×450 ・600×600 ・	⊙一般型	・屋内外用 ⊙屋内用	⊙額縁タイプ ・目地タイプ	⊙額縁タイプ ・目地タイプ
		・			

床点検口

材種	寸法	形式		備考
⊙アルミニウム製 ・ステンレス鋼製 ・鋼製	⊙450×450 ・600×600 ・	⊙一般型 ・密閉形	・屋内外用 ⊙屋内用	・鍵付き ・ ・

20．耐震スリット

耐震スリット

方向	タイプ	耐火性能	防水性能	備考
・垂直方向 ・水平方向	・完全（全貫通型） ・部分	・耐火型 ・非耐火型	・有り ・無し	

目地

目地	内壁	外壁
目地材	・シーリング材（見え掛り部のみ） ・	・シーリング材（見え掛り部のみ） ・シーリング材（内外共）
目地寸法（mm）	・幅20×深さ10 ・	・幅20×深さ10 ・

目地材の材質は標準仕様書表9.7.2による。

21．エキスパンションジョイント金物

材質	クリヤランス(mm)	耐火性能	備考
・アルミニウム製 ・ステンレス製	・50　・100 ・150　・	・有り（　） ・無し	

外部は防水型とする。

22．止水版

形式　・差込式　・据置式　・壁張り式
施工箇所　・図示による

23．くつふきマット

水膨張性ゴム止水材　・膨張遅延型（W20×ｔ10）

材種	受枠	備考
・塩化ビニル又はゴム製 ・硬質アルミニウム合金製 ・ステンレス鋼（SUS304）製 ・	・ステンレス鋼(SUS304) ・硬質アルミニウム合金 ・	

24．旗竿及び旗竿受金物

		高さ(m)	操作方法	固定方法	備考
・アルミニウム合金製 ・	・テーパー式 ・同一断面式		・ハンドル式 ・ロープ式	・埋込式 ・ベース式 ・バンド式	

旗竿受金物　材種　・ステンレス製（SUS304）　・

20-2 ユニット及びその他工事

25．流し台ユニット

材種	寸法(mm) W	寸法(mm) D	寸法(mm) H	備考
・流し台	・1200 ・1500 ・1800	・550 ・600 ・650	・800 ・850	市販品 トラップ付き 天板ステンレス製
・コンロ台	・600	・550 ・600 ・650	・620 ・670	市販品 バックガード有り 天板ステンレス製
・吊戸棚	・1200 ・900	・450	・500 ・700	市販品
・水切り	・1200 ・900 ・600	—	—	市販品 ステンレス製 ・一段式　・

品質・性能　JIS A 4420による。　形状　※図示による　・

26．車止め支柱

形式		材質	柱径、肉厚(mm)	高さ(mm)
・上下式鎖内蔵式	・標準品 ・スプリング式	・ステンレス製 ・	・	・
・				

27．フェンス

フェンスの種類　・ビニル被覆エキスパンドフェンス
・樹脂塗装メッシュフェンス
・鋼管フェンス
・アルミフェンス
高さ　※図示による　・

28．鋼製書架及び物品棚

種類	規格等	耐荷重による種類
・鋼製書架	JIS S 1039による	・1種　・2種　・3種
・鋼製物品棚		・4種　・5種　・6種　・

29．屋内掲示板

枠の材質　※アルミニウム製　・
表面の材質　※塩ビ発泡シート張り　・

30．洗面カウンター

材種　・メラミン樹脂化粧板張り（心材：集成材）
奥行き（mm）・約450　・約600

31．防煙垂れ壁

・固定式

材質	厚さ（mm）	高さ（mm）	備考
※網入り磨き板ガラス ・縞入り磨き板ガラス	※6.8 ・	※500 ・	アルミ枠付き

・可動式

種類	材質	高さ（mm）	備考
・垂直降下式（巻取り型）	※不燃布 （不燃認定品）	※500 ・800	ガイドレール ※固定式（壁埋込み型）
・回転降下式	鋼板製又はアルミ製	※500 ・800 ・	表面仕上げ ※天井材張り ・

32．収納家具

降下機構　煙感知器連動及び手動開放装置（埋込み型）
材質形状、寸法　※図示による　・
合板、集成材、MDF、パーティクルボード等のホルムアルデヒド放散量　※Ｆ☆☆☆☆

33．屋外掲示板

照明器具　※有り　・無し
施錠　※有り　・無し

34．敷地境界石標

種類　※コンクリートブロック製（市販品）
・花こう岩類（文字記号等入り）

21 排水工事

1．屋外雨水排水

排水管用材料 (21.2.1)(表21.2.1)

材種	種類・記号	形状	呼び径	備考
・遠心力鉄筋コンクリート管	外圧管（１種）	・B形管 ・	・図示　・	
・硬質ポリ塩化ビニル管	・ＶＰ		・図示　・	
	・ＶＵ		・図示　・	
	・ＲＳ−ＶＵ G		・図示　・	
・硬質ポリ塩化ビニル管継手	・ＤＶ		・図示　・	
	・ＶＵ継手		・図示　・	

材料、施工 (21.2.1～21.2.2)
基床の厚さ及び種類　・図示　・
硬質ポリ塩化ビニル管の継手に用いる材料　※接着剤　・ゴム輪
側塊の形状及び寸法　・図示　・
排水桝の種類　・図示　・
砂地業に用いる材料　・シルト　・山砂　・川砂　・砕砂
砂利地業に用いる材料　・再生クラッシャラン　・切込砂利　・切込砕石
凍上抑制層に用いる材料　・図示
砂を用いる場合の粒度試験　・行う　・行わない
・標準仕様書21.2.2(6)(オ)の排水桝を現場打ちとする場合の足掛け金物
・幅400mm、径22mmのステンレス製
・径22mmの防錆処理を行った鋼製
・径19mmの合成樹脂被覆加工を行ったもの

鋳鉄製ふた (21.2.1)

名称	種類	適用荷重	鍵の有無	備考
鋳鉄製マンホール蓋	・水封形 ・簡易密閉型(パッキン式) ・密閉型(ﾁｰﾊﾞ・ﾊﾟｯｷﾝ式) ・中蓋付密閉型（ﾁｰﾊﾞ・ﾊﾟｯｷﾝ式）	・Ｔ−2用 ・Ｔ−6用 ・Ｔ−20用 ・	・有 ・無	左記以外の品質等は（公社）空気調和衛生工学会SHASE-S209による

グレーチング (21.2.1)

種類	形式	用途	適用荷重	ﾒｲﾝﾊﾞｰﾋﾟｯﾁ	亜鉛めっき(付着量)	上面形状
・鋼製	・受枠付ﾎﾞﾙﾄ固定 ・	・溝ふた(横断用) ・溝ふた(側溝用) ・桝ふた用 ・U字溝用	・歩行用	・細目 ・	・（　） ・	・凹凸形 ・
			・Ｔ−2用 ・Ｔ−6用 ・Ｔ−14用 ・Ｔ−20用	・普通目 ・細目	・（　）	・平形 ・
・ステンレス製	・受枠付ﾎﾞﾙﾄ固定 ・	・溝ふた(横断用) ・溝ふた(側溝用) ・桝ふた用 ・U字溝用	・歩行用	—	—	・凹凸形 ・
			・Ｔ−2用 ・Ｔ−6用 ・Ｔ−14用 ・Ｔ−20用	—	—	・平形 ・

2．街きょ、縁石及び側溝

材料 (21.3.1)（表21.3.1）

種類	形状、寸法
・縁石	・図示　・
・Ｌ形側溝	・図示　・
・Ｕ形側溝	・図示　・
・Ｕ形側溝蓋	・図示　・
・	・図示　・

砂地業の材料　・シルト　・山砂　・川砂　・砕砂 (21.3.1)
砂利地業の材料　・再生クラッシャラン　・切込砂利　・切込砕石 (21.3.1)
砂利地業の厚さ　※100mm　・図示 (21.3.2)
凍上抑制層に用いる材料　※標準仕様書21.2.1（10）による　・ (21.3.1)
砂を用いる場合の粒度試験　・行う　・行わない

22 舗装工事

1．路床

路床の材料 (22.1.3)（22.2.2）(22.2.3)

種別	材料	厚さ(mm)
・盛土	標準仕様書 表3.2.1により ・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種	・図示 ・
・凍上抑制層	・再生クラッシャラン G　・クラッシャラン ・切込み砂利　・砂	・図示 ・

透水性舗装に用いるフィルター層の厚さ　・図示による　・
路床安定処理　・適用する　・適用しない (22.2.2)（22.2.3）
安定処理の方法　・置き換え工法　・安定処理工法
安定処理用添加材料 (表22.2.1)
種類　・普通ポルトランドセメント　・高炉セメントＢ種 G
・フライアッシュセメントＢ種
・生石灰（・特号　・1号）　・消石灰（・特号　・1号）
添加量を定めるために用いるCBR（　） (22.2.4)
試験 (22.2.5)
路床土の支持力比（CBR）試験　・行う　・行わない
路床締固め度試験（現場密度）　・行う　・行わない
現場CBR試験　・行う　・行わない

2．路盤

路盤の厚さ　・図示　・ (22.3.2)
路盤材料 (22.1.3)（22.3.3）（表22.3.1）
※再生クラッシャラン G
・クラッシャラン　・粒度調整砕石
※再生粒度調整砕石 G　・クラッシャラン鉄鋼スラグ G
・粒度調整鉄鋼スラグ G　・水硬性粒度調整鉄鋼スラグ G

3．アスファルト舗装

ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装の構成及び厚さ　※図示　・ (22.4.2)
材料　・再生アスファルト G（種類：・60～80　・80～100 ）（22.1.3）（22.4.3）
・ストレートアスファルト
加熱アスファルト混合物の種類 (22.4.4)（表22.4.4）

区分	地域	種類
表層	・一般地域	・密粒度アスファルト混合物(13) ・細粒度アスファルト混合物(13)
	・寒冷地域	・密粒度アスファルト混合物(13Ｆ)

試験 (22.4.6)
アスファルト混合物等の抽出試験　・行う　・行わない
舗装の平たん性　※通行の支障となる水たまりを生じない程度 (22.4.2)
・

4．コンクリート舗装

コンクリート舗装の構成及び厚さ (22.5.2)

舗装の種類	部位	構成	厚さ(mm)
コンクリート舗装	車路及び駐車場	・図示	・図示　・
	歩行者用通路	・図示	※70　・

材料 (22.5.3)
コンクリート　※標準仕様書表22.5.3（1）及び表22.5.1による
・図示による
早強ポルトランドセメント　・使用する　・使用しない
注入目地材料　※低弾性タイプ　・高弾性タイプ
施工：目地 (22.5.4)
種類、間隔、構造　※標準仕様書表22.5.3及び図22.5.1による
・図示による
舗装の平たん性　※通行の支障となる水たまりを生じない程度 (22.5.2)
・

5．カラー舗装

・加熱系カラー舗装 (22.6.2～4)（表22.6.1）
構成・厚さ　・図示による　・
表層に用いる加熱系混合物の結合材　・アスファルト混合物
・石油樹脂系混合物　顔料の添加量（　%）
加熱系混合物に添加する材料　・着色骨材（　）
・自然石（　）
アスファルト混合物等の抽出試験　・行う　・行わない (22.6.6)
・常温系カラー舗装 (22.6.2～4)（表22.6.1）
工法　・コート工法　・塗布工法
着色部の下地　・ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装　・ｺﾝｸﾘｰﾄ舗装
ニート工法及び塗布工法の配合等　・
舗装の平たん性　※通行の支障となる水たまりを生じない程度
・

6．透水性アスファルト舗装

(22.7.2～6)
構成　・図示　・
アスファルトの材料　※再生アスファルト G（種類：・60～80　・80～100 ）
・ストレートアスファルト
開粒度アスファルト混合物等の抽出試験　・行う　・行わない
舗装の平たん性　※著しい不陸がないもの　・

7．ブロック系舗装

・コンクリート平板舗装 G (22.8.2～3)

種類	寸法（mm）	厚さ(mm)	目地材	クッション材
・普通平板（Ｎ） ・透水平板（Ｐ） ・保水性平板（Ｍ）	・300角 ・	・60 ・	・砂 ・モルタル	・砂 ・空練モルタル

・インターロッキングブロック舗装 G (22.8.2～3)

種類	部位	形状・寸法	厚さ(mm)	曲げ強度(N/mm²)	色彩、表面加工等
※普通ﾌﾞﾛｯｸ（Ｎ） ・透水性ﾌﾞﾛｯｸ（Ｐ） ・保水性ﾌﾞﾛｯｸ（Ｍ）	車路	・図示 ・	※80 ・	※5.0 ・	・標準品 ・
※普通ﾌﾞﾛｯｸ（Ｎ） ・透水性ﾌﾞﾛｯｸ（Ｐ） ・保水性ﾌﾞﾛｯｸ（Ｍ）	歩行者用通路	・図示 ・	※60 ・	※3.0 ・	・標準品 ・

インターロッキングブロックの割付け (22.8.4)
・図示による　・
仕上り面の平たん性 (22.8.2)
※歩行に支障ないものとし、コンクリート平板・ブロック間の段差3mm以内とする。
・

紫波警察署桜町宿舎解体ほか工事	検図	製図	設計年月	図面内容	縮尺	図面番号
設計図			令和7年 1月 (2025年)	(仮眠室棟新築) 新築工事　特記仕様書（５）	A1: A3:	建築意匠 A− 06 計画　消防　構造通判　省ｴﾈ通判

22-2 舗装工事

・舗石舗装 (22.8.2) (22.8.3)

種類	形状・寸法 (mm)	厚さ (mm)	割付け	基層 (mm)
・小舗石 ・ (花こう岩)	・図示 ・	・80 ・	・図示 ・	・ｺﾝｸﾘｰﾄ版 ※70 ・ ・ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物 ※50 ・

クッション材 ※砂 ・空練りモルタル (22.8.2)
仕上りの平たん性 ※歩行に支障のないものとし、舗石間の段差3mm以内とする ・ (22.8.2)

⑧砂利敷き
種別 (22.9.2) (表22.9.1)
・通路 ※A種 ・図示による
⊙建物周囲その他 ※B種 ・図示による
・

9.路面標示用塗料

路面標示用塗料はJIS K 5665による。

種類	施工	適用	色	幅 (mm)	塗布厚さ (mm)
※3種1号	溶融	粉体状	・白 ・	・150 ・100	・1.0 ・
・1種 G	常温	液状			
・2種 G	加熱				

G 低揮発性有機溶剤型の路面標示用水性塗料

23 植栽工事

1.植栽地の確認等
土壌の水素イオン濃度指標 (pH) 試験 ・行う ・行わない (23.1.3)
電気伝導度 (EC) の試験 ・行う ・行わない

2.植栽基盤の整備
整備内容 (23.2.2) (表23.2.1～2)

植栽	工法	有効土層の厚さ(cm)	整備範囲	・土壌改良材
・樹木	※A種 ・B種 ・C種 ・D種	樹高12m以上 (※100 ・120 ・150) 樹高7m以上～12m未満 (※80 ・100) 樹高3m以上～7m未満 (※60 ・80) 樹高3m未満 (※50 ・60)	・葉張り部分 ・植栽部分 ・図示 ・	・適用する ・適用しない
・芝、地被類	※ B種 ・	※ 20 ・	・植栽部分 ・図示 ・	・適用する ・適用しない

植栽基盤の排水設備 (23.2.2)
(暗きょ、開きょ、排水層縦穴排水等) ・設ける (※図示 ・)
・設けない

3.植込み用土
・現場発生土の良質土 ・客土 (23.2.3)

4.土壌改良材
種類、指定量 (23.2.3) (22.2.4)
・バーク堆肥 G
施工箇所 ・植栽範囲 ・図示
使用量 植栽基盤面積1㎡あたり (・50L ・)
・汚泥発酵肥料 (下水汚泥コンポスト) G
施工箇所 ・植栽範囲 ・図示
使用量 植栽基盤面積1㎡あたり (・10L ・)

5.植樹
樹木 樹種、寸法、株立数等 ・図示による ・ (23.3.2)
刈込みものの適用 ・適用する (数量:)
・適用しない
支柱 支柱の種類 ※丸太(間伐材) G ・真竹 ・ (23.3.2)
防腐処理方法 ※加圧式防腐処理丸太材 ・
形式 ・添え柱形 ・腕金形 ・八つ掛け形
・布掛け形 ・ワイヤ掛け形 ・地下埋設形
幹巻き用材料 ※幹巻き用テープ ・わら、こも (23.3.2)
新植、移植樹木、芝等の枯保証 (23.3.4) (23.4.7)
新植樹木(芝張り、吹付けは種及び地被類を含む)の枯保証の期間
※引渡の日から1年 ・無し ・
移植樹木の枯損処置を行う機関 (23.3.6)
※引渡の日から1年 ・無し ・

6.芝、吹付けは種地被類
芝 種類 ※コウライシバ ・ノシバ ・ (23.4.2～3)
芝張りの工法 (平地) ※目地張り ・べた張り
(法面) ・目地張り ※べた張り

吹付けは種 (23.4.2)

種子の種類	種子の量(g/㎡)	備考
※洋芝類 (採取後2年以内)		
・		

・地被類 (23.4.2)

植物の樹種	芽立数	径	単位面積当たりの株数
・	・	・	・
・	・	・	・

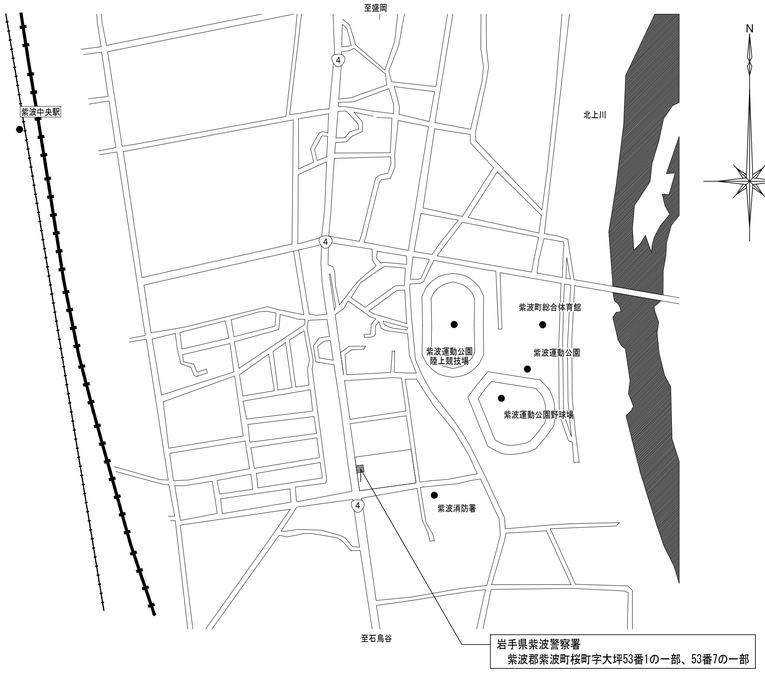
7.屋上緑化 G
植栽基盤及び材料 (23.5.2)
・屋上緑化システム
土壌層の厚さ ・図示による ・
排水層 ・軽量骨材(層の厚さ:)
・板状成形品
植込み用土 ※改良土 ・人工軽量土
・屋上緑化軽量システム
耐根層、耐根層保護層、排水層、透水層及び土壌層等植栽基盤工法
※システム製造所の仕様による ・

樹木、芝及び地被類 (23.5.3)
樹種、寸法、株立数等 ・図示による ・
刈込みものの適用 ・適用する (数量:)
・適用しない
見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等 (23.5.3)
・図示による ・
工法 (23.5.4)
平成12年建設省告示第1458号に基づく風圧力に対応した工法
・図示による ・
支柱 ・設置する (形式 ・図示 ・)
かん水装置 ・設置する (種類 ・図示 ・)

23-2 植栽工事

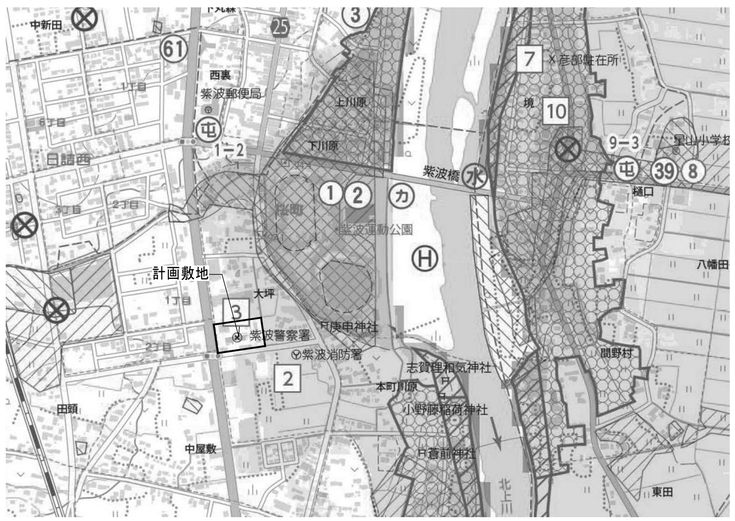
紫波警察署桜町宿舎解体ほか工事	検図	製図	設計年月	図面内容 (仮眠室棟新築)	縮尺	図面番号
設計図			令和7年 1月 (2025年)	新築工事 特記仕様書 (6)	A1: A3:	建築意匠 A- 07

計通 消防 構造適判 省ｴﾈ適判



付近見取図

用途地域



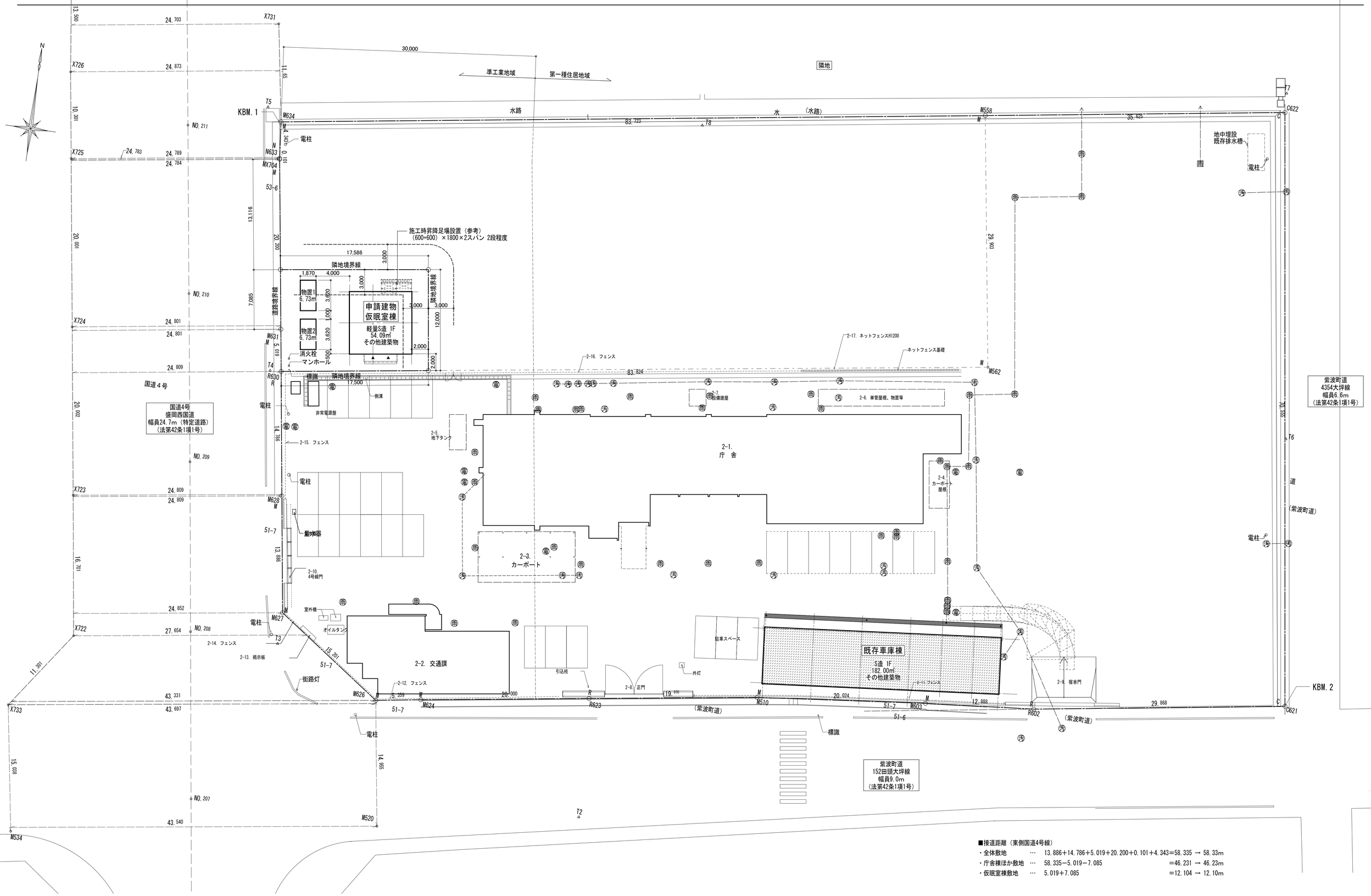
※敷地南側紫波町道東端部は、浸水深 0.5m未満 及び0.5m～3.0m未満の区域に僅かに含まれているが、
計画敷地内自体は、浸水区域に含まれていない。

紫波町防災マップ

【土地条件】

地名地番	紫波郡紫波町桜町字大坪53番1の一部、53番7の一部
都市計画区域	都市計画区域内
用途地域	~~第一種住居地域、~~準工業地域
特別用途地区	特別業務地区（準工業地域の範囲）
防火地域	指定なし
法22地域	該当
屋外広告物規制区域	市街地景観地区
許容建ぺい率	60% ~~（街区の角に該当）~~
許容容積率	200%
敷地面積	211.42 ㎡
その他	埋蔵文化財包蔵地外
	伝統的建造物群保存地区外
	山腹崩壊危険地区外
	崩壊土砂流出危険地区府外
	地すべり危険地区外
	地すべり防止区域外
	急傾斜地崩壊危険区域外
	自然環境保全地域の指定外
	自然公園地域外
	鳥獣保護区特別保護地区外
	環境緑地保全地域外
	国有林外
	民有林外
	砂防指定地外
	宅地造成工事規制区域外
	がけ地外（隣地との高低差2m以下）
	市街地開発事業の計画なし
	地区計画なし
	建築協定区域外
道路	東側：建築基準法第42条1項1号　紫波町道　4354大坪線　幅員6.6m
	西側：建築基準法第42条1項1号　国道4号　盛岡西国道　幅員24.7m（特定道路）
	南側：建築基準法第42条1項1号　紫波町道　152田頭大坪線　幅員9.0m
日影規制	5時間、3時間、測定面　4m
地質調査	令和5年9月12日～令和6年1月9日　実施済み

紫波警察署桜町宿舎解体ほか工事	検図		製図	設計年月	図面内容	縮尺	図面番号
設計図				令和7年 1月 (2025年)	（仮眠室棟新築） 付近見取図、土地条件	A1: A3:	建築意匠 A- 08 計通 ○ 消防 ○ 構造適判 ○ 省エネ適判 ○



■接道距離（東側国道4号線）

・全体敷地 … 13.886＋14.786＋5.019＋20.200＋0.101＋4.343＝58.335 → 58.33m

・庁舎棟ほか敷地 … 58.335－5.019－7.085 ＝46.231 → 46.23m

・仮眠室棟敷地 … 5.019＋7.085 ＝12.104 → 12.10m

紫波警察署桜町宿舎解体ほか工事	検 図	製図	設計年月	図面内容 （仮眠室棟新築）	縮尺	図面番号	建築意匠
設計図			令和7年 1月 (2025年)	配置図	A1: 1/200 A3: 1/400	A－ 09	計画 ○ 消防 ○ 構造適判 ○ 省ｴﾈ適判 ○

境界確認図

紫波郡紫波町桜町字大坪

求積表

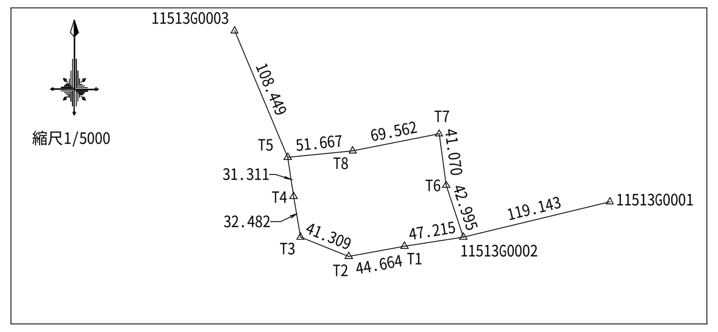
地　番	51-2				
測点	Xn	Yn	ΔX	ΔX×Yn	距　離
C622	-50047.142	28881.005	-64.553	-1864355.515765	70.555
C621	-50117.013	28890.809	-74.362	-2148378.338858	29.868
R602	-50121.504	28861.280	-5.598	-161565.445440	12.888
M603	-50122.611	28848.439	-3.186	-91911.126654	20.024
M510	-50124.690	28828.523	-4.982	-143623.701586	19.970
R623	-50127.593	28808.765	-5.832	-168012.717480	20.000
M624	-50130.522	28788.980	-3.748	-107901.097040	5.359
M626	-50131.341	28783.683	7.953	228916.630899	15.201
M627	-50122.569	28771.268	22.638	651323.964984	14.001
X702	-50108.703	28769.328	28.396	816933.837888	14.671
X701	-50094.173	28767.295	26.673	767310.059535	83.824
M562	-50082.030	28850.235	41.713	1203429.852555	29.903
M558	-50052.460	28845.779	34.888	1006371.537752	35.625
			倍　面　積	-11462.059210	
			面　積	5731.0296050	
			地　積	5731.02 ㎡	
			坪　数	1733.63 坪	

地　番	51-8				
測点	Xn	Yn	ΔX	ΔX×Yn	距　離
M627	-50122.569	28771.268	-0.127	-3653.951036	13.886
M628	-50108.830	28769.252	28.370	816183.679240	14.786
R630	-50094.199	28767.115	14.657	421639.604555	0.181
X701	-50094.173	28767.295	-14.504	-417240.846680	14.671
X702	-50108.703	28769.328	-28.396	-816933.837888	14.001
			倍　面　積	-5.351809	
			面　積	2.6759045	
			地　積	2.67 ㎡	
			坪　数	0.80 坪	

地　番	53-1				
測点	Xn	Yn	ΔX	ΔX×Yn	距　離
M634	-50064.828	28762.974	16.689	480025.273086	83.723
M558	-50052.460	28845.779	-17.202	-496205.090358	29.903
M562	-50082.030	28850.235	-41.713	-1203429.852555	83.824
X701	-50094.173	28767.295	-6.884	-198034.058780	5.321
X705	-50088.914	28766.480	25.024	719852.395520	20.000
N633	-50069.149	28763.419	24.086	692795.710034	4.343
			倍　面　積	-4995.623053	
			面　積	2497.8115265	
			地　積	2497.81 ㎡	
			坪　数	755.58 坪	

地　番	53-7				
測点	Xn	Yn	ΔX	ΔX×Yn	距　離
R630	-50094.199	28767.115	4.940	142109.548100	5.019
M631	-50089.233	28766.382	24.950	717721.230900	20.200
MX704	-50069.249	28763.434	20.084	577684.808456	0.101
N633	-50069.149	28763.419	-19.665	-565632.634635	20.000
X705	-50088.914	28766.480	-25.024	-719852.395520	5.321
X701	-50094.173	28767.295	-5.285	-152035.154075	0.181
			倍　面　積	-4.596774	
			面　積	2.2983870	
			地　積	2.29 ㎡	
			坪　数	0.69 坪	

多角点網図



※ 基準点測量年月日：令和５年７月７日　　世界測地系（測地成果 2011）
　一筆地測量年月日：令和 5年8月1０日　　平面直角座標系の番号又は記号：X

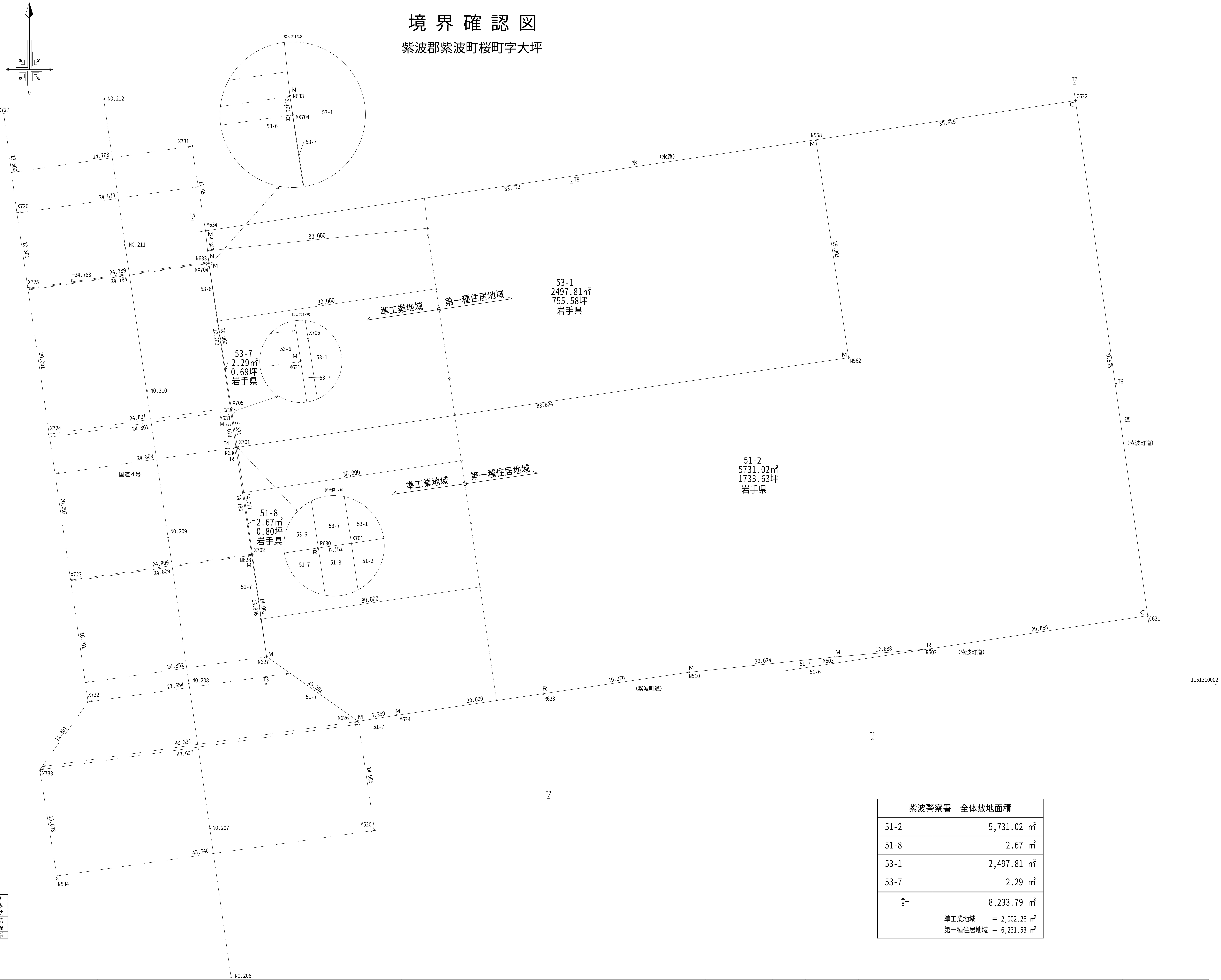
多角点座標

点　名	X座標	Y座標	備　考
321107	-52977.898	29709.092	1級登記基準点
321110	-47575.479	30671.197	1級登記基準点
11513G0001	-50098.328	29015.892	3級登記基準点
11513G0002	-50126.346	28900.090	3級登記基準点
11513G0003	-49963.327	28719.151	3級登記基準点
T1	-50133.750	28853.459	多角点
T2	-50141.725	28809.512	多角点
T3	-50126.295	28771.192	多角点
T4	-50094.264	28765.794	多角点
T5	-50063.291	28761.204	多角点
T6	-50085.553	28886.505	多角点
T7	-50044.869	28880.885	多角点
T8	-50058.282	28812.628	多角点

座標一覧表

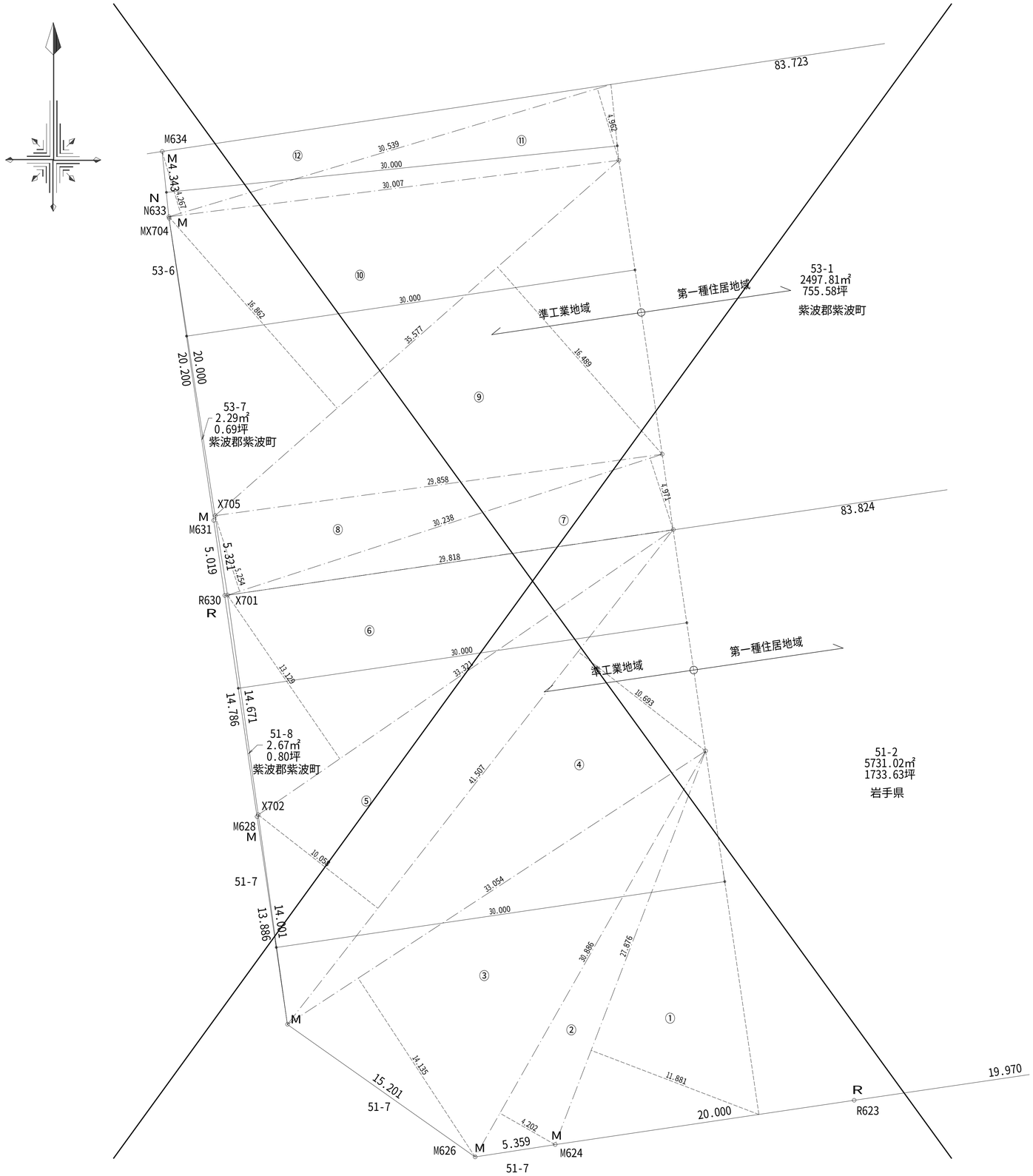
点　名	X座標	Y座標	備　考
C622	-50047.142	28881.005	コンクリート杭（新設）
C621	-50117.013	28890.809	コンクリート杭（既存）
R602	-50121.504	28861.280	金属鋲（新設）
M603	-50122.611	28848.439	金属標（新設）
M510	-50124.690	28828.523	金属標（既存）
R623	-50127.593	28808.765	金属鋲（新設）
M624	-50130.522	28788.980	金属標（新設）
M626	-50131.341	28783.683	金属標（既存）
M627	-50122.569	28771.268	金属標（新設）
X702	-50108.703	28769.328	計算点
X701	-50094.173	28767.295	計算点
M562	-50082.030	28850.235	金属標（既存）
M558	-50052.460	28845.779	金属標（既存）
M634	-50064.828	28762.974	金属鋲（新設）
X705	-50088.914	28766.480	計算点
N633	-50069.149	28763.419	刻み（新設）
M628	-50108.830	28769.252	金属標（既存）
R630	-50094.199	28767.115	金属鋲（既存）
M631	-50089.233	28766.382	金属標（新設）
MX704	-50069.249	28763.434	金属標（既存）
NO.206	-50165.981	28766.439	道路台帳図センター(図上点)
NO.207	-50145.985	28763.568	道路台帳図センター(図上点)
NO.208	-50126.313	28760.743	道路台帳図センター(図上点)
NO.209	-50106.332	28757.873	道路台帳図センター(図上点)
NO.210	-50086.551	28754.973	道路台帳図センター(図上点)
NO.211	-50066.748	28752.069	道路台帳図センター(図上点)
NO.212	-50046.946	28749.166	道路台帳図センター(図上点)
X722	-50128.726	28747.045	道路台帳図復元点(図上点)
X723	-50112.194	28744.671	道路台帳図復元点(図上点)
X724	-50092.402	28741.780	道路台帳図復元点(図上点)
X725	-50072.612	28738.878	道路台帳図復元点(図上点)
X726	-50062.419	28737.384	道路台帳図復元点(図上点)
X727	-50049.034	28735.620	道路台帳図復元点(図上点)
X731	-50053.322	28761.100	道路台帳図復元点(図上点)
X733	-50137.929	28740.486	道路台帳図復元点(図上点)
M520	-50146.132	28785.897	金属標(既存)
M526	-50158.144	28776.675	金属標(既存)
M534	-50152.777	28742.872	金属標(既存)

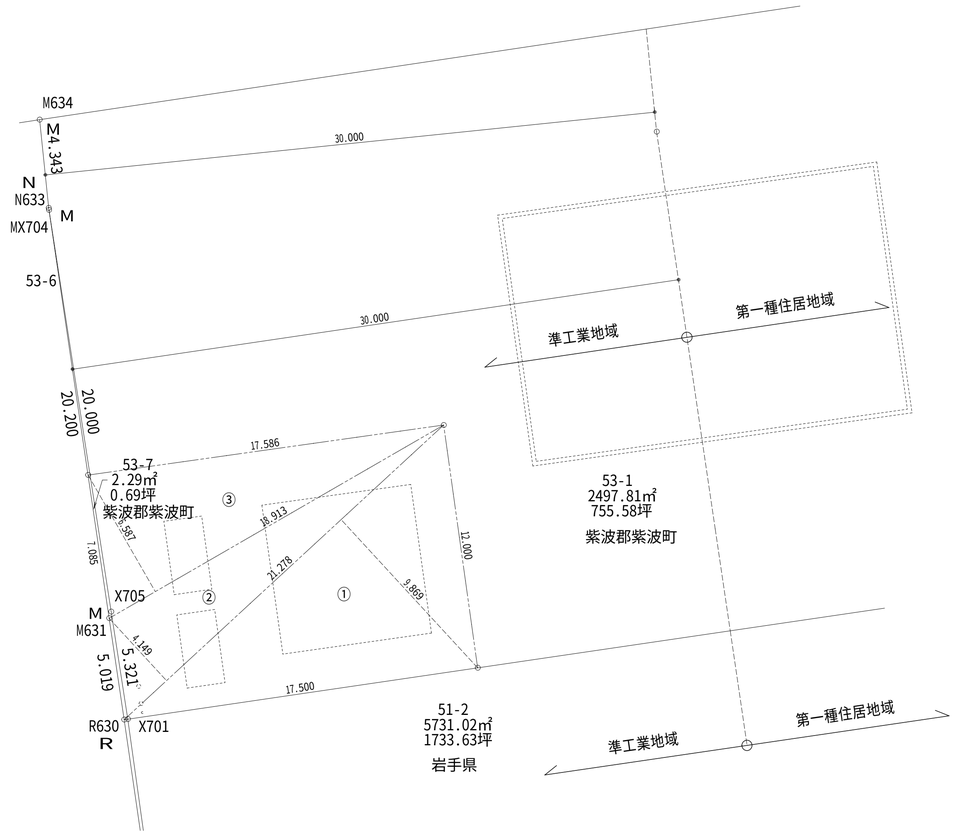
筆界点	境界標の種類
N	刻　　み
P	プラスチック杭
C	コンクリート杭
M	金　属　標
R	金　属　鋲



紫波警察署　全体敷地面積	
51-2	5,731.02 ㎡
51-8	2.67 ㎡
53-1	2,497.81 ㎡
53-7	2.29 ㎡
計	8,233.79 ㎡
	準工業地域　＝ 2,002.26 ㎡
	第一種住居地域　＝ 6,231.53 ㎡

紫波警察署桜町宿舎解体ほか工事		検　図	製図	設計年月	図面内容　（仮眠室棟新築）	縮尺	図面番号　建築意匠
設計図				令和7年 1月（2025年）	全体敷地求積図	A1: 1/250　A3: 1/500	A- 10　計通 ○　消防 ○　構造適判　省ｴﾈ適判





■準工業地域用地

①	27.876	×	11.881	=	331.194756
②	30.886	×	4.202	=	129.782972
③	33.054	×	14.135	=	467.218290
④	41.507	×	10.693	=	443.834351
⑤	41.507	×	10.058	=	417.477406
⑥	33.321	×	13.129	=	437.471409
⑦	30.238	×	4.971	=	150.313098
⑧	30.238	×	5.254	=	158.870452
⑨	35.577	×	16.489	=	586.629153
⑩	35.577	×	16.862	=	599.899374
⑪	30.539	×	4.962	=	151.534518
⑫	30.539	×	4.267	=	130.309913
倍面積					4,004.535692
面　積					2,002.267846
準工業地域　用地面積					2,002.26 ㎡

■第一種住居地域用地

8,233.79	−	2,002.26	=	6,231.53
第一種住居地域　用地面積				6,231.53 ㎡

■仮眠室棟　敷地面積

①	21.278	×	9.869	=	209.992582
②	21.278	×	4.149	=	88.282422
③	18.913	×	6.587	=	124.579931
倍面積					422.854935
面　積					211.427468
仮眠室棟　敷地面積					211.42 ㎡

■庁舎棟等新築　敷地面積

2,002.26	−	211.42	=	1,790.84
1,790.84	+	6,231.53	=	8,022.37
庁舎棟等新築　敷地面積			=	8,022.37 ㎡
（準工業地域　用地面積			=	1,790.84 ㎡）
（第一種住居地域　用地面積			=	6,231.53 ㎡）

紫波警察署桜町宿舎解体ほか工事			検　図	製図	設計年月	図面内容　（仮眠室棟新築）	縮尺	図面番号　建築意匠
設計図					令和7年 1月（2025年）	仮眠室棟敷地求積図	A1: 1/250 A3: 1/500	A- 11 計通 ○　消防 ○　構造適判　省エネ適判

設計概要

一般事項	工事名称	紫波警察署桜町宿舎解体ほか工事			地域指定	用途地域		その他指定
	工事場所	紫波郡紫波町桜町字大坪５３番1の一部、５３番7の一部				耐火建築物の種別		
建物概要	規　模	階数	平屋建て　新築	最高軒高　3.540M	最高高さ	3.720M		
		建築面積	本　体：7.355 × 7.355 ＝ 54.096025		延床面積	本　体：7.355 × 7.355 ＝ 54.096025		
			54.09 m2			54.09 m2		
構造概要	基礎形式	鉄筋コンクリート造布基礎　W190			内部軸組	床	床パネル：合板　t=12、中桟 90X30　2本+コンパネ t=12	
	軸　部	鉄骨造（X,Y方向共ブレース構造）				間仕切	ＬＧＳ下地　ＰＢボード t=12.5 ＋ ビニルクロス貼　X1.5通りグラスウール t=100（24kg／m3品）充填	
						天井	ＬＧＳ下地　化粧ＰＢボード t=9.5　グラスウール t=100（24kg／m3品）充填	

外部仕上表

屋　根	折版：ガルバリウム鋼板 t=0.6　色：素地　裏面：ペフ貼t=4	板　金	土台水切：カラーガルバリウム鋼板 t=0.35
			化粧幕板：カラーガルバリウム鋼板
外　壁	外壁パネル：サンドイッチパネル t=40　色：外部ホワイト、内部ホワイト	庇	屋根：ガルバリウム鋼板折版 t=0.6　色：素地　鼻隠し：カラーガルバリウム鋼板
	内外面：カラーガルバリウム鋼板 t=0.3、内部：硬質ウレタンフォーム t=40充填	軒　天	屋根裏現し
外部巾木	モルタル刷毛引き仕上げ		
開口部	アルミ製引違い窓	樋	軒樋：塩ビ製角樋 M型120
	アルミ製引違い戸		竪樋：塩ビ製 60φ
		塗　装	
		階　段	

室内仕上表

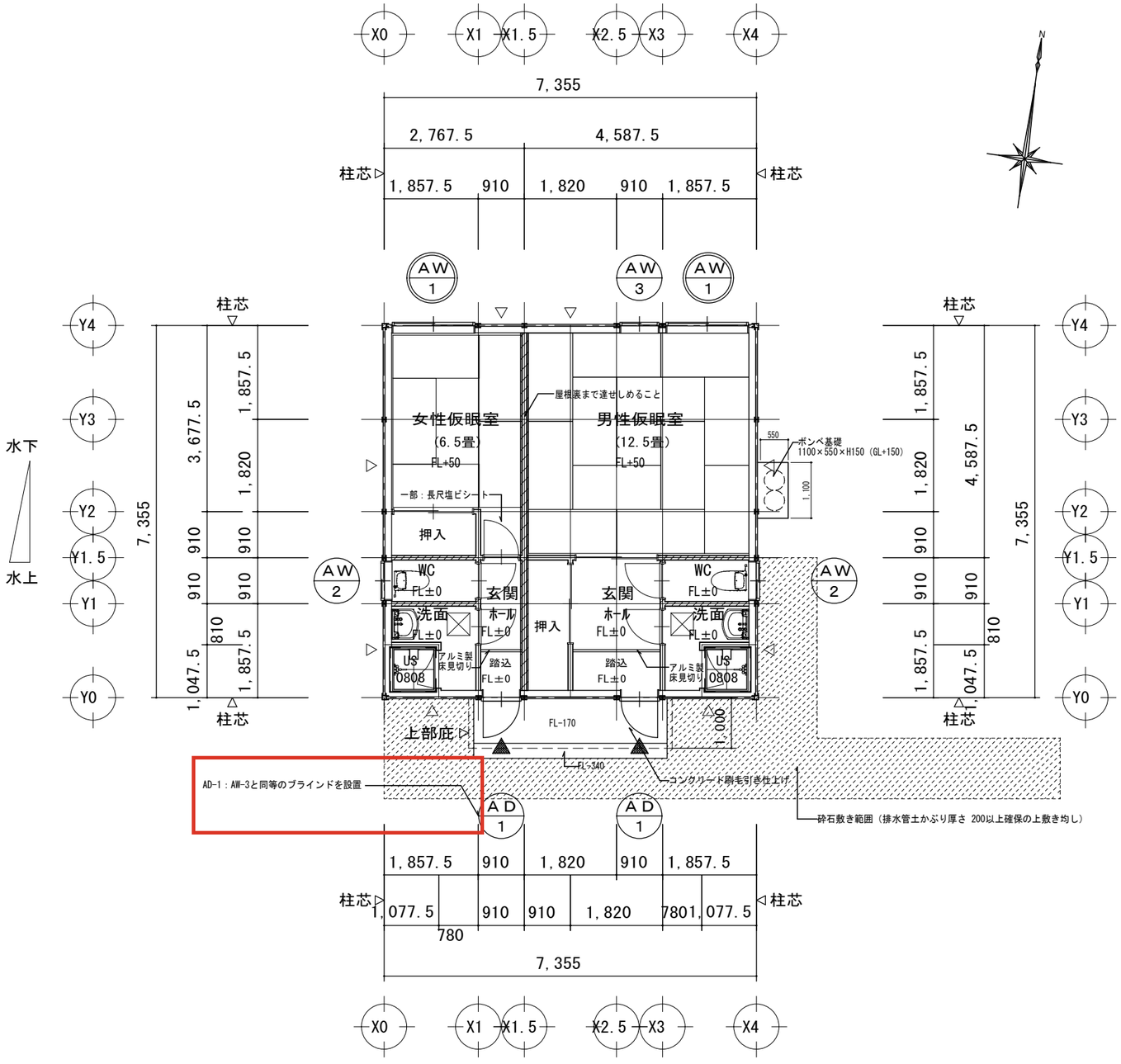
階名	室名	床（上段：仕上げ、下段：下地）	巾木	壁（上段：仕上げ、下段：下地）	天井（上段：仕上げ、下段：下地）	廻り縁	床高	天井高	備考
1階	男性仮眠室	畳敷き	畳寄せ	ＰＢボード t=12.5 ＋ ビニルクロス貼	化粧ＰＢボード t=9.5	塩ビ製	GL+561	2,400	ブラインド
		コンパネ t=12		外壁廻り：グラスウール t=50（24kg／m3品）	グラスウール t=100（24kg／m3品）				
		床パネル：合板 t=12、中桟90X30　2本		ＬＧＳ下地	ＬＧＳ下地				
		グラスウール t=100（24kg／m3品）							
	女性仮眠室	同　上	同　上	同　上	同　上	同　上	同　上	同　上	ブラインド
		一部：長尺塩ビシート貼り　t=2							
	押入	長尺塩ビシート貼り　t=2	雑巾摺	押入用化粧ＰＢボード t=12.5	化粧ＰＢボード t=9.5				
		コンパネ t=12		外壁廻り：グラスウール t=50（24kg／m3品）	グラスウール t=100（24kg／m3品）				
		床パネル：合板 t=12、中桟90X30　2本		ＬＧＳ下地	ＬＧＳ下地				
		グラスウール t=100（24kg／m3品）							
	WC	長尺塩ビシート貼り　t=2	ソフト巾木		同　上	同　上	GL+511	2,450	ブラインド
		コンパネ t=12	H=60						
		床パネル：合板 t=12、中桟90X30　2本							
		グラスウール t=100（24kg／m3品）							
	洗面	同　上	同　上	同　上	同　上	同　上	同　上	同　上	床下点検口　450X450
									天井点検口　450X450
	玄関ホール	同　上	同　上	同　上	同　上	同　上	同　上	同　上	アルミ製床見切り
		（踏込：防滑性長尺塩ビシート（屋外用）t2.5）							ブラインド（女性仮眠室のみ）
	US	ユニットシャワー							

共通事項

■シックハウス対策
石綿、クロルピリホス等の建築材料は、使用しない。
内装仕上げ　F☆☆☆☆認定製品（規制対象外製品）使用
小屋裏等々　F☆☆☆☆認定製品（規制対象外製品）使用

・長尺塩ビシート貼り　t=2
東リ：マチュアNW　同等品以上

紫波警察署桜町宿舎解体ほか工事			検　図	製図	設計年月	図面内容　（仮眠室棟新築）	縮尺	図面番号	建築意匠
設計図					令和7年 1月 (2025年)	設計概要・仕上表	A1: A3:	A- 12	計画○ 消防○ 構造適判○ 省エネ適判○



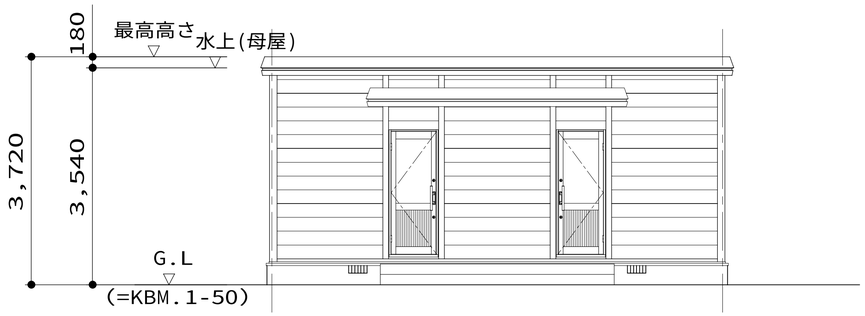
平面図　S=1/50

間仕切り：X1.5通り　グラスウール　t=100（16kg/m3品）充填
（屋根裏に達せしめる事）

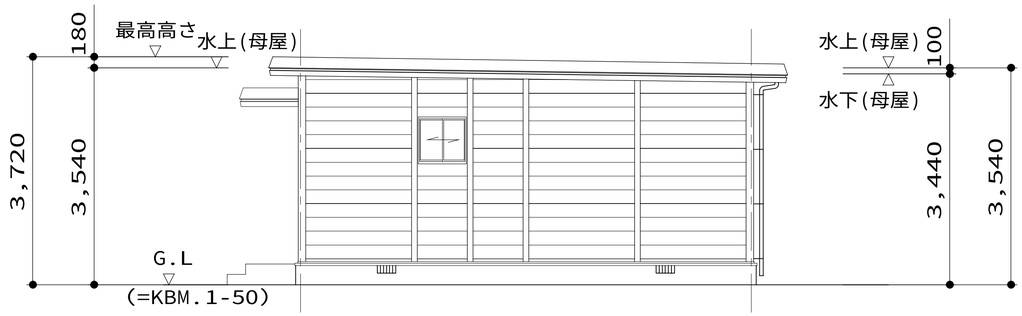
トイレ廻り　グラスウール　t=50（24kg/m3品）充填

床下点検口　450×450

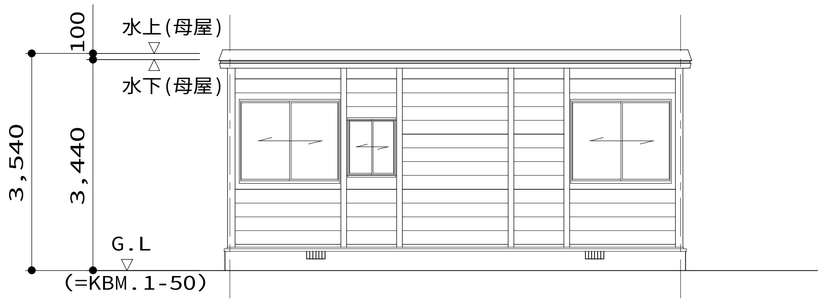
紫波警察署桜町宿舎解体ほか工事			検図	製図	設計年月	図面内容 （仮眠室棟新築）	縮尺	図面番号 建築意匠
設計図					令和7年 1月 (2025年)	平面図	A1: 1/50 A3: 1/100	A- 13
								計画 ○ 消防 ○ 構造適判 省ｴﾈ適判



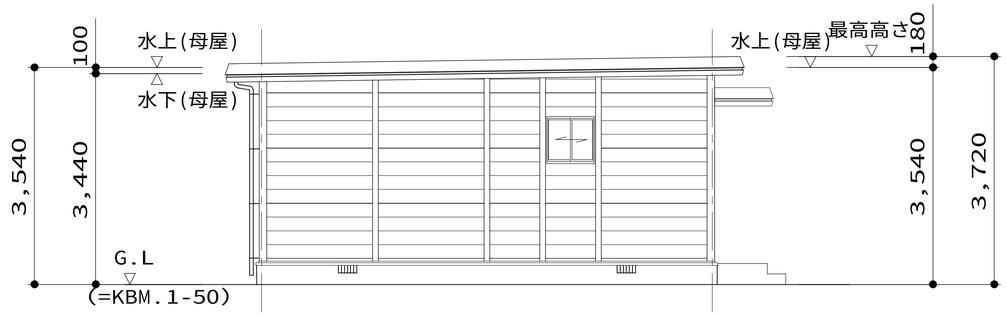
Y0 立面図 S=1/50



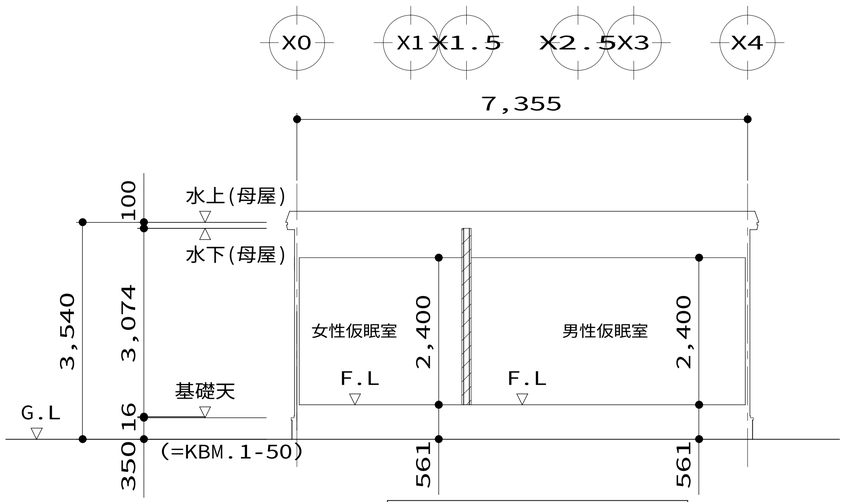
X4 立面図 S=1/50



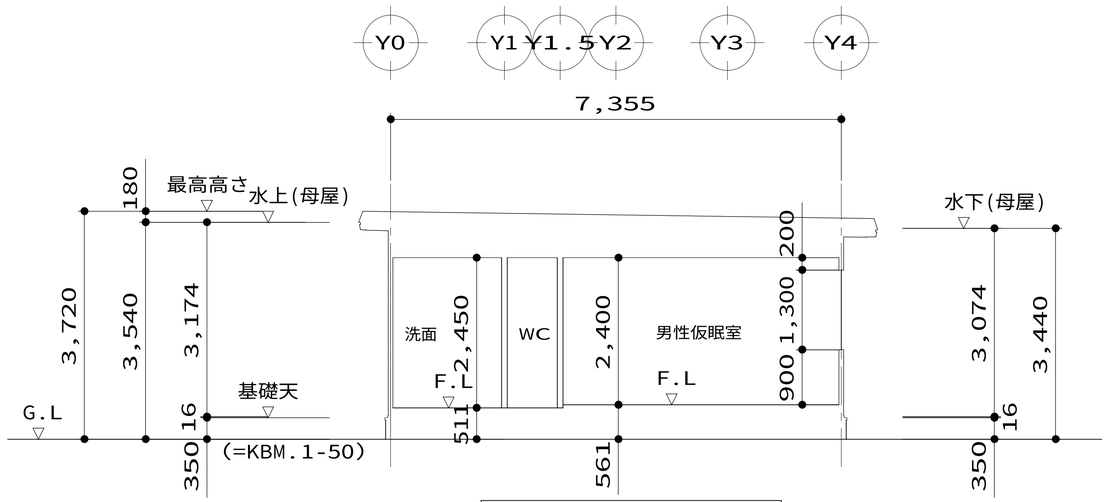
Y4 立面図 S=1/50



X0 立面図 S=1/50



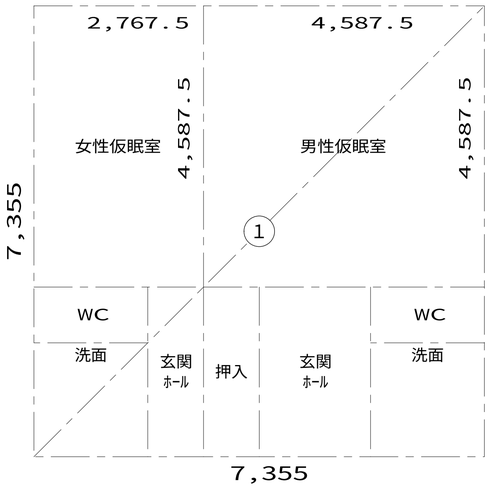
Y通り 断面図 S=1/50



X通り 断面図 S=1/50

間仕切り：グラスウール t=100（16kg/m3品）充填
屋根裏に達すること

紫波警察署桜町宿舎解体ほか工事 設計図			検 図	製図	設計年月 令和7年 1月 (2025年)	図面内容 (仮眠室棟新築) 立面図、断面図	縮尺 A1: 1/50 A3: 1/100	建築意匠 図面番号 A- 14 計通 ○ 消防 ○ 構造適判 省エ適判



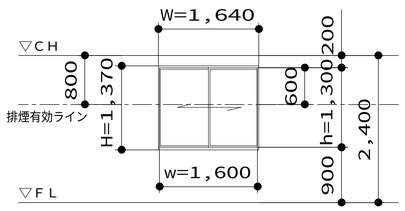
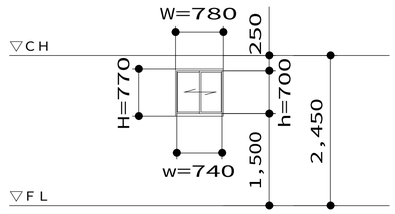
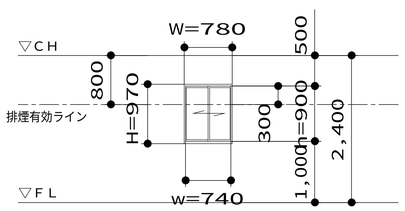
建物求積図　S=1/50

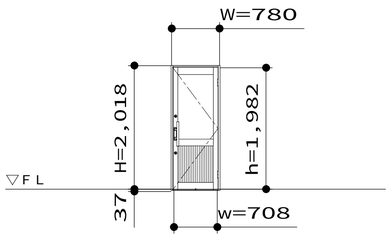
建物求積表

①	7.355　×7,355　＝54.096025	
延床面積	①	54.09 m2
建築面積	①	54.09 m2

居室床面積算定表		
男性仮眠室　床面積： 4.5875 ×4.5875＝21.045156	改め 21.04 m2	
女性仮眠室　床面積：4.5875 ×2.7675 =12.695906	改め 12.69 m2	

建具表

符号・数量	AW 1　2 ヶ所	AW 2　2 ヶ所	AW 3　1 ヶ所
形　式	アルミサッシ引違い窓	アルミサッシ引違い窓	アルミサッシ引違い窓
姿　図			
材質・仕上	半外付アルミ製サッシ	半外付アルミ製サッシ	半外付アルミ製サッシ
ガ ラ ス	型板ｔ=4　中空層ｔ=9　透明ｔ=3	型板ｔ=4　中空層ｔ=9　透明ｔ=3	型板ｔ=4　中空層ｔ=9　透明ｔ=3
金　物	クレセント 付属金物一式	クレセント 付属金物一式	クレセント 付属金物一式
備　考	網戸	網戸	網戸

符号・数量	AD 1　2 ヶ所
形　式	アルミサッシ片開きドア
姿　図	
材質・仕上	半外付アルミ製サッシ
ガ ラ ス	型ｔ=4　中空層ｔ=11　透明ｔ=3
金　物	ﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ、ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠、ｻﾑﾀｰﾝ、ﾄﾞｱﾁｪｯｸ、丁番 付属金物一式
備　考	腰板：アルミパネル 開き勝手は平面図参照

法規チェック

男性仮眠室　A ：21.04 m2　CH＝2.400 m				
	必要面積	有効面積	建具記号・計算式　h×w×n	判定
L：採光　(A/20)	1.05	2.74	AW-1　1.3×1.60×1＝2.08	OK
			AW-3　0.9×0.74×1＝0.666	
V：換気　(A/20)	1.05	1.37	AW-1　1.3×1.60×1×0.5＝1.04	OK
			AW-3　0.9×0.74×1×0.5＝0.333	
S：排煙　(A/50)	0.42	0.59	AW-1　0.6×1.60×1×0.5＝0.48	OK
			AW-3　0.3×0.74×1×0.5＝0.111	

女性仮眠室　A ：12.69m2　CH＝2.400 m				
	必要面積	有効面積	建具記号・計算式　h×w×n	判定
L：採光　(A/20)	0.63	2.08	AW-1　1.3×1.60×1＝2.08	OK
V：換気　(A/20)	0.63	1.04	AW-1　1.3×1.60×1×0.5＝1.04	OK
S：排煙　(A/50)	0.25	0.48	AW-1　0.6×1.60×1×0.5＝0.48	OK

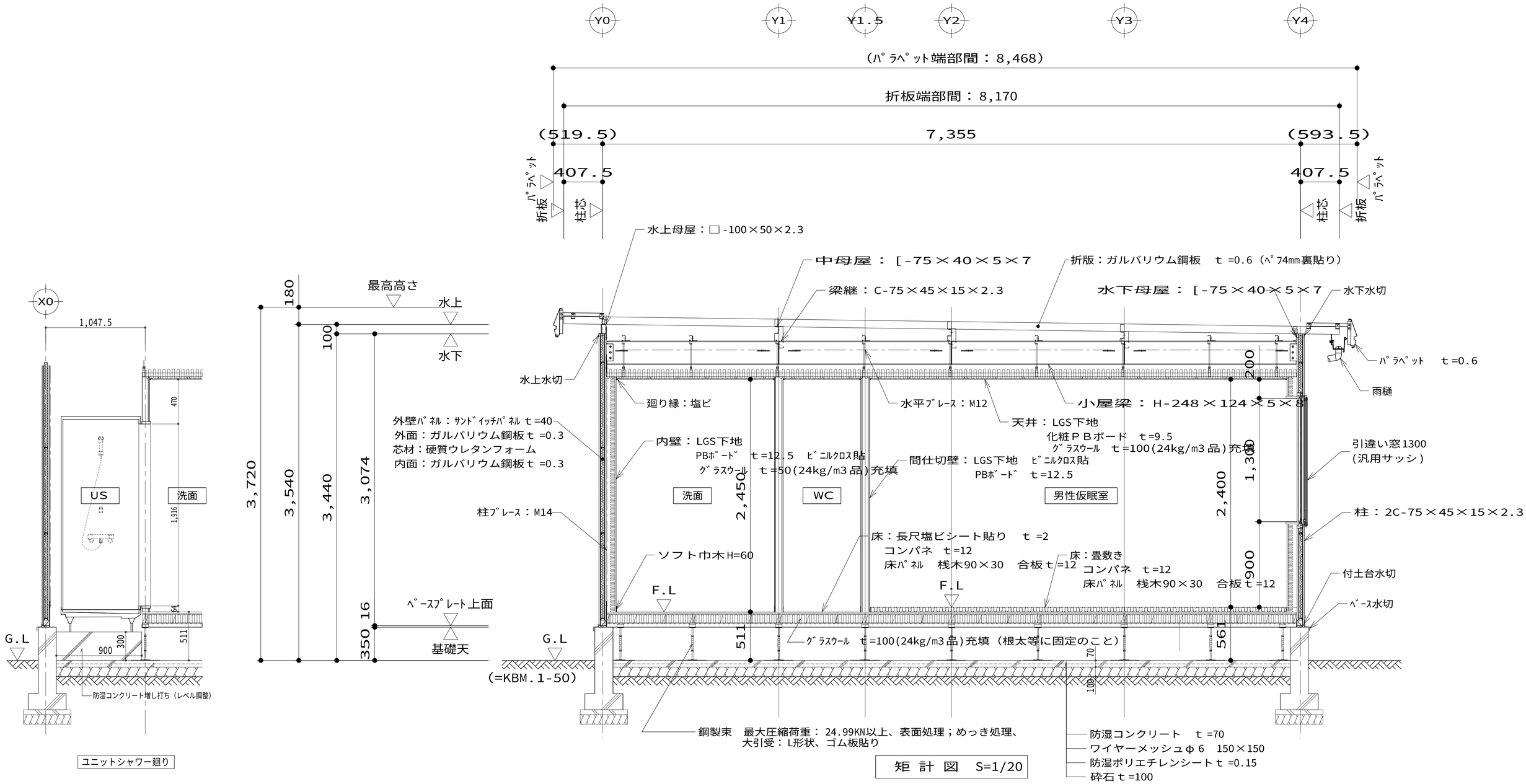
消防用無窓階算定		
1階床面積	必要開口面積　A/30	有効開口面積
54.09 m2	1.80 m2	2.08 m2

AW－1　1.3×1.60×2×0.5＝2.08

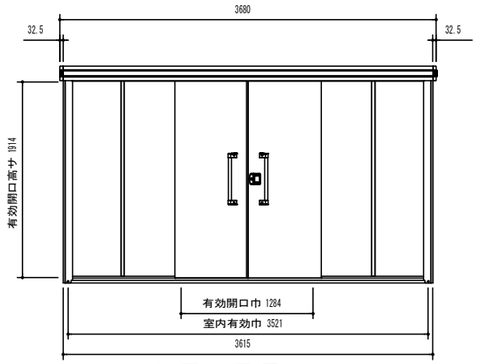
合計　2.08 m2　∴有窓階

対象部分は　　とする。

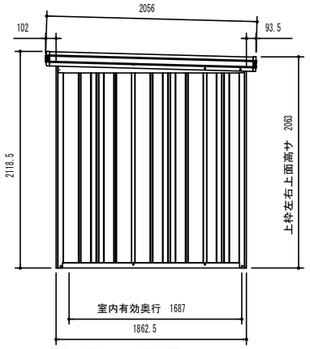
紫波警察署桜町宿舎解体ほか工事	検　図	製図	設計年月	図面内容　(仮眠室棟新築)	縮尺	図面番号	建築意匠
設計図			令和7年 1月 (2025年)	建物求積図、求積表、床面積算定、 建具表、法規チェック	A1:　1/50 A3:　1/100	A- 15	計通 ○　消防 ○　構造適判　省ｴﾈ適判



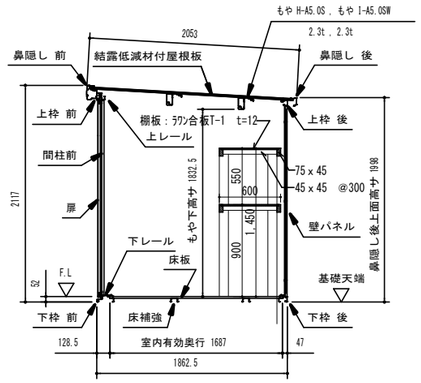
紫波警察署桜町宿舎解体ほか工事 設計図			検　図	製図	設計年月 令和7年 1月 (2025年)	図面内容　(仮眠室棟新築) 矩計図	縮尺 A1:　1/20 A3:　1/40	図面番号 A- 16 建築意匠 計通○　消防○　構造適判　省ｴﾈ適判



正 面 立 面 図 (S= 1/30)



側 面 立 面 図 (S= 1/30)

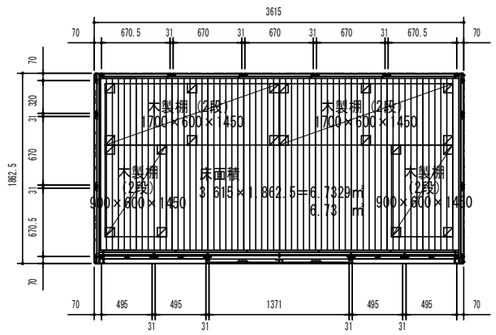


積雪型矩計図 (S= 1/30)

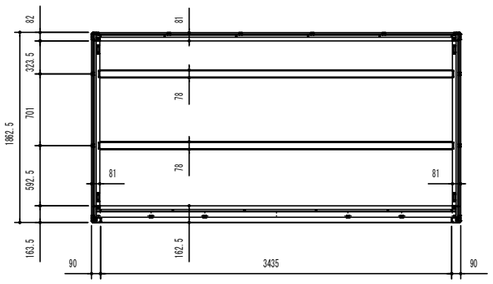
部　材　名	厚さ(t/m)	材　質
結露低減材付屋根板	0.4	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 GOLCC
床 補 強	1.2	JIS G3321 溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 SGLCC
<積雪型> もや H-A5.OS	2.3	JIS G3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 CGCC
<積雪型> もや I-A5.OSW	2.3	JIS G3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 CGCC
下枠前（側・後）	1.2（1.0）	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 GOLCC
上 枠 前（後）	1.0（0.8）	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 GOLCC
上 枠 左,右	0.8	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 GOLCC（ツートンカラー）
上枠補強（積雪型のみ）	1.6	JIS G3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 CGCC
上レール	1.2	アルミニウム合金押出形材
下レール	0.8	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 GOLCC
鼻 隠 し 前	0.5	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 GOLCC（ツートンカラー）
鼻 隠 し 後	0.5	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 GOLCC
柱	0.8	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 GOLCC
扉	0.6	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 GOLCC
壁 パ ネ ル	0.5	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 GOLCC
袖 壁	0.5	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 GOLCC
間 柱	1.0	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 GOLCC
床 板	0.6	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 GOLCC
アンカープレート（L）	2.3	JIS G3302 溶融亜鉛めっき鋼板 SGCC（後塗装仕上げ）

部　材　名	サイズ（巾×高サ）
扉 右 L-A	716 × 1938
扉 左 L-A	716 × 1938
壁パネル L-A	670 × 1870
壁パネル L-F	319.5 × 1870
袖 壁 L-B	495 × 1909

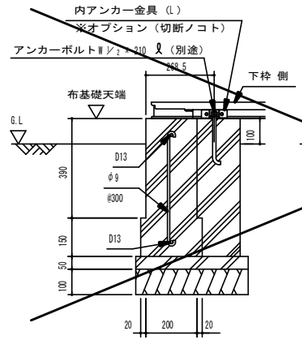
※結露低減材付屋根は、2mm発泡ポリエチレン裏貼りとする。



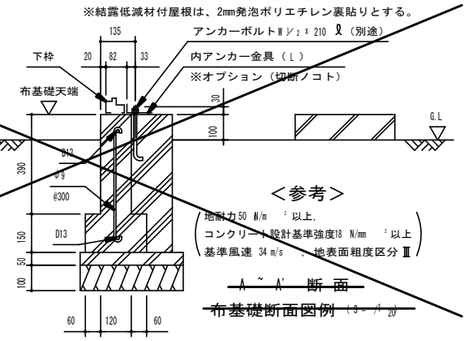
平 面 図 (S= 1/30)



床 伏 図 (S= 1/30)



D ~ D' 断 面

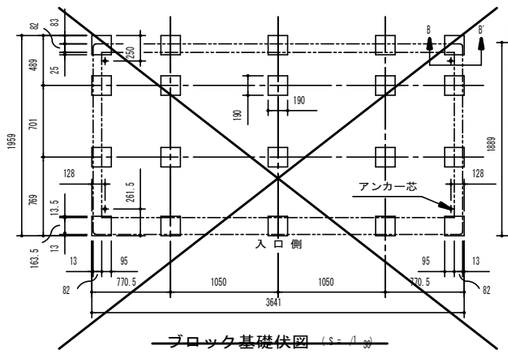


＜参考＞

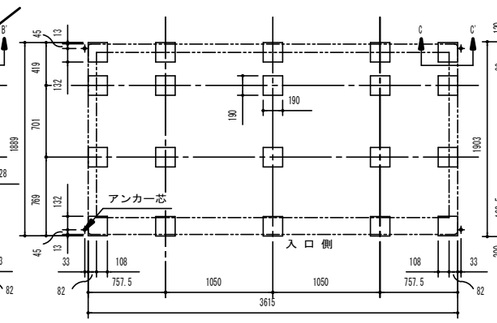
地耐力50 N/m² 以上、
コンクリート設計基準強度18 N/mm² 以上
基準風速 34 m/s　地表面粗度区分 Ⅲ

A ~ A' 断 面

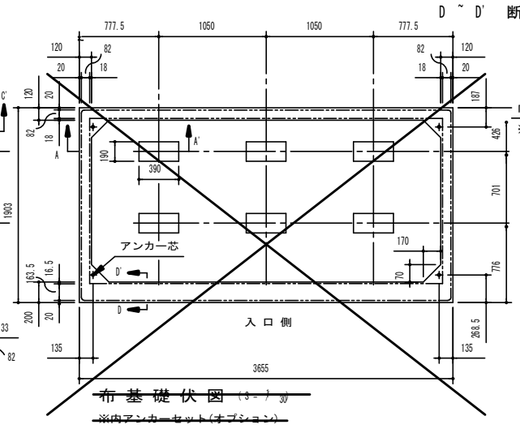
布基礎断面図例 (S= 1/20)



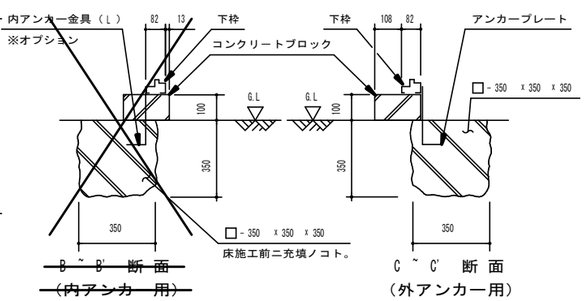
ブロック基礎伏図 (S= 1/30)
（内アンカー用）
※内アンカーセット（オプション）
別途必要



ブロック基礎伏図 (S= 1/30)
（外アンカー用）



布 基 礎 伏 図 (S= 1/30)
※内アンカーセット（オプション）
別途必要



B ~ B' 断 面
（内アンカー用）

C ~ C' 断 面
（外アンカー用）

ブロック基礎断面図例

紫波警察署桜町宿舎解体ほか工事	検　図	製図	設計年月	図面内容　（仮眠室棟新築）	縮尺	図面番号	建築意匠
設計図			令和7年 1月（2025年）	物置詳細図	A1: 1/30　A3: 1/60	A- 17	計通 ○　消防 ○　構造適判　省ｴﾈ適判

構造設計特記仕様

※修正箇所は下線を引くこと
適用は ■ 印を記入する。

1．建築物の構造内容

（１）工事名称　紫波警察署桜町宿舎解体ほか工事
建築場所　紫波郡紫波町桜町字大坪５３番１の一部、５３番７の一部
（２）工事種別　■ 新築　□ 増築　□ 増改築　□ 改築
（３）構造設計一級建築士の関与　□ 必要　■ 必要としない
□ 法第２０条第一号（高さ６０ｍ超）
□ 法第２０条第二号（□ ＲＣ造高さ ２０ｍ超□ Ｓ造 ４階建以上□ 木造高さ １３ｍ超 □ その他 ）
注(３)構造設計一級建築士の関与が義務づけられる建築物については解説書等を参照して確認する事。
（４）構造種別　□ 木造（Ｗ）　□ 補強コンクリートブロック造（ＣＢ）
■ 鉄骨造（Ｓ）　□ 鉄筋コンクリート造（ＲＣ）
□ 壁式鉄筋コンクリート造（ＷＲＣ）　□ 鉄骨鉄筋コンクリート造（ＳＲＣ）
□ 壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造（ＷＰＲＣ）
□ プレキャスト鉄筋コンクリート造（ＰＲＣ）
（５）階数　　棟　地下 －階　地上 １ 階　塔屋 －階
（６）主要用途　仮眠室
（７）屋上付属物　□ 高架水槽　－ｋＮ　□ キュービクル　－ｋＮ
□ 広告塔　□ 煙突
（８）特別な荷重　□ エレベータ　人乗（マシンルームレス　□ロープ式・油圧式）　□ リフト　－ｋＮ
□ ホイスト　－ｋＮ　□ 倉庫積載床用　－Ｎ／ｍ２　□ 受水槽　－ｋＮ
（９）付帯工事　□ 門塀　□ 擁壁　□ 駐輪場　□ 機械式駐車場
（１０）増築計画　□ 有（　　）　■ 無
（１１）構造計算ルート　Ｘ方向ルート　－（ １－２ ）Ｙ方向ルート　－（ １－２ ）
（１２）設定条件　最深積雪量　７５ｃｍ　単位積雪重量　２０Ｎ／ｍ２／ｃｍ
基準風速　３０ｍ／ｓ以下　地表面粗度区分 Ⅱ

2．使用建築材料表・使用構造材料一覧表

（１）コンクリート　（レディーミクストコンクリート　JIS Q 1001, JIS Q 1011, JIS A 5308）

適用箇所	種　類	設計基準強度 Ｆｃ＝Ｎ／ｍｍ２	品質基準強度 Ｆｑ＝Ｎ／ｍｍ２	スランプ ｃｍ	備　考
捨てコンクリート	■ 普通	１８	－	－	
土間コンクリート	■ 普通	２１	２１	１５	
基礎、基礎梁	■ 普通	２１	２１	１５	
柱、梁、床、壁	□ 普通　□ 軽量				比重
押えコンクリート	□ 普通　□ 軽量	－	－	－	比重
細骨材の種類	■ 砂　□ 山砂　□ 人工　□				
粗骨材の種類	■ 砂利　□ 砕石　□ 人工　□				
水の区分	■ 水道水　□ 地下水　□ 工業用水　□				
混和材料の種類（ JIS　）	□ ＡＥ減水剤　□ 高性能ＡＥ減水剤　□				
呼び強度を保証する材齢、養生	■ 材齢（■ ２８日　□ ５６日　□　　□　　）				
	■ 養生（□ 現場封かん　□ 現場水中　■ 標準　□　）				

■ 単位水量は １８５ｋｇ／ｍ３以下、単位セメント量は ２７０ｋｇ／ｍ３以上とする。
（２）コンクリートブロック（□ JIS A 5406）
□ Ａ種　□ Ｂ種　□ Ｃ種　厚 □ 100　□ 120　□ 150　□ 190　使用箇所（□　　□　　）
（３）鉄　筋

	種　類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋（JIS G 3112）	■ SD295	D16 以下	基礎	■ 重ね継手
	□			□ ガス圧接継手
	□ SD345	D19 以上		□ 溶接継手
	□ SD390			□ 機械式継手
高強度せん断補強筋	□ 材種			（　　）
	□ 大臣認定番号　MSRB－			各継手の使用詳細については本仕様5.（2）鉄筋の項の鉄筋継手等の■にて表示すること。
丸　鋼（JIS G 3112）	□ SR235			
溶接金網（JIS G 3551）				

（４）鉄　骨

種　類	使用箇所	現場溶接	JIS規格・認定番号等
■ SS400　□ SM400　□ SN400 A, B, C	梁	□ 有 ■ 無	JIS G3101
■ STKR400□ STKR490	柱	□ 有 ■ 無	JIS G3466
□ BCR295 □ BCP235 □ BCP325		□ 有 □ 無	大臣認定品 認定番号 MSTL－
□ SM490 A□ SN490 B□ SN490 C		□ 有 □ 無	JIS G
■ SSC400 □ SWH400□ SWH400	柱、母屋、継材/柱/梁	□ 有 ■ 無	JIS G3350/ JIS G3353
■ SNR400B	水平ブレース、柱ブレース	□ 有 ■ 無	JIS A 5540
溶接材料　□ JIS Z			

（５）ボルト　　○使用箇所の詳細については別図図示とする。
□ 高力ボルト
□ F10T（JIS B1186及び 国土交通大臣認定品（MBLT－0050同等品）（□M16□M20□M22□M24）
■ ボルト（JIS B1180）■ M12■ M16□M20　■ 強度区分4.6・4.8　■ 強度区分10.9
■ アンカーボルト
□ SS400　M24　L＝　mm　ナット　（□ シングル、□ ダブル）
□ SS400　M20　L＝　mm　ナット　（□ シングル、□ ダブル）
■ SS400　M16　L＝ 400 mm　ナット　（□ シングル、■ ダブル）
□ 頭付スタッドボルト
φ＝　L＝　mm　使用箇所（□ 柱　□ 大梁　□ 小梁）
φ＝　L＝　mm　使用箇所（□ 柱　□ 大梁　□ 小梁）
（６）屋根、床、壁

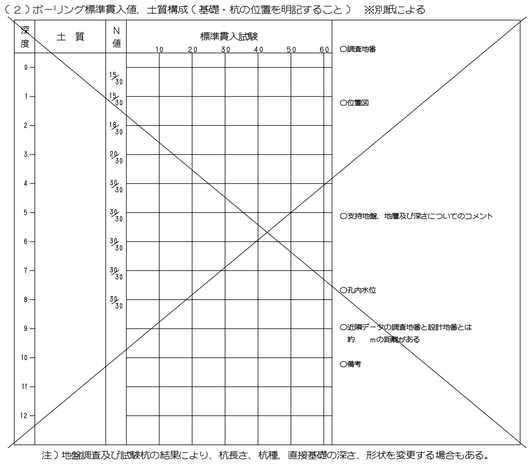
材　種	型式　厚　その他	使用箇所	仕様・構法
ALC　（JIS A 5416）	厚	□ 壁　□ 床版	□ スライド　□ ボルト止め □ □ ッキング　□
折版	H＝79　厚　0.6	■ 屋根 □	□
特殊デッキプレート（JIS G 3352）	型式　厚	□ 床版 □	□
デッキプレート（JIS G 3352）	型式　厚	□ 床版 □	□

3．地　盤

（１）地盤調査資料と調査計画
■ 有 （■ 敷地内　□ 近隣）　□ 無 （調査計画 □ 有 □ 無）

調　査　項　目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画
ボーリング調査	○		静的貫入試験			標準貫入試験		
水平地盤反力係数の測定			土質試験			物理探査		
試験堀（支持層の確認）			平板載荷試験			液状化判定		
スウェーデン式サウンディング			現場透水試験			ＰＳ検層		

注）上記表中の資料が有るもの、調査計画が有るものに○を記入する。
（２）ボーリング標準貫入値、土質構成（基礎・杭の位置を明記すること）　※別紙による



注）地盤調査及び試験杭の結果により、杭長さ、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある。

4．地業工事

（１）直接基礎　□ ベタ基礎　■ 布基礎　□ 独立基礎　試験堀　□ 有　□ 無
深さ　ＧＬ－0.45 ｍ、支持層　長期許容支持力度　５０ ｋＮ／ｍ２　載荷試験　□ 有　□ 無
（２）地盤改良　□ 浅層混合処理工法　□ 深層混合処理工法　■ 砕石パイル工法
深さ　ＧＬ－5.00 ｍ長期許容支持力度　５０ ｋＮ／ｍ２　載荷試験　□ 有　□ 無
注）「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針：日本建築センター２００２」を参考とする
（３）杭基礎　支持層　－

杭　種	材　料	施　工　法	備　考
□ RC　□ PRC	PRC □Ⅰ種 □Ⅱ種 □Ⅲ種）	□ 打ち込み	
□ PHC　□ H鋼	PHC □A種 □B種 □C種）	□ 埋込み　（セメントミルク工法）	
□ 鋼管　□ 摩擦杭	鋼材　□SS400　□SKK400	□	認定第　号
□ SC杭	□JIS	□	年　月　日
□ 場所打ち	コンクリート Ｆｃ＝　Ｎ／ｍｍ２	□ オールケーシング　□ 拡底杭	
コンクリート杭	Ｆｑ＝　Ｎ／ｍｍ２	□ リバースサーキュレーション	
	スランプ　ｃｍ以下	□ アースドリル　□ ミニアース	認定
	セメント量　ｋｇ／ｍ３	□ ＢＨ	第　号
	単位水量　ｋｇ／ｍ３	□ 深礎（□ 手堀　□ 機械堀）	年　月　日
	鉄　筋　主筋　SD		
	HOOP　SD		

杭仕様　□ 施工計画書承認　□ 杭施工結果報告書
試験杭　（□ 有　□ 無）　（□ 打ち込み　□ 載荷　□ 孔壁測定）　本

杭径（ｍｍ）	設計支持力（ｋＮ）	杭の先端の深さ（ｍ）	本数	特記事項
φ	－	ＧＬ－	－	

5．鉄筋コンクリート工事　（施工方法等計画書）

本構造設計特記仕様はコンクリートの設計基準強度（Ｆｃ）が
３６ Ｎ／ｍｍ２ 以下に適用し、鉄筋の材種は SD390 以下に適用する。

（１）コンクリート
■ コンクリートは JIS A 5308（レディーミクストコンクリート）に適合するJIS認証工場の製品とし、施工に関しては標準図に記載されている事項を除き、JASS 5 による。JASS 5は鉄筋コンクリート工事2009年度版とする。
■ 耐久設計基準強度　Ｆｄ　■ 短期（18Ｎ／ｍｍ２ 以 標準（24Ｎ／ｍｍ２ 以 長期（30Ｎ／ｍｍ２）
■ セメントは、JIS R 5210 の普通ポルトランドセメントを標準とする。
■ 調合計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。
■ 寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調合、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。
■ フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で（財）国土開発技術研究センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を１回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し承認を得る。
測定検査の回数は、通常の場合、１日１回以上とし、１回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて３回行い、その平均値を試験値とする。
■ 構造体コンクリートについて現場の圧縮強度試験方法はJASS 5T－603 によることとし、供試体は現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み工区ごと、打ち込み日ごととする。
また、打込み量が 150ｍ3 を超える場合は 150ｍ3 ごとまたは、その端数ごとに１回を標準とする。
１回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた３台の運搬車からその必要本数を採取する。
なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、１回当り６本以上とし、そのうち４週用に３本を用いる。
■ ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ち、コンクリートの自由落下高さはコンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継許容時間間隔の限度は、外気温が 25 ℃未満の場合は 150 分以内、25 ℃以上の場合は 120 分以内とする。
■ コンクリート打込み中及び打込み後５日間は、コンクリートの温度が２度を下らないようにする。
■ 乾燥、振動等によってコンクリートの凝結及び硬化が妨げられないように養生を行う。
（２）鉄筋
■ 鉄筋は JIS G 3112 の規格品を標準とする。施工は、標準図に記載されている事項を除き、コンクリートと同様に、JASS 5 による。
□ 高強度せん断補強筋は、JIS G 3137 に規定されるＤ種１号適合品とする。
■ 鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）（２）」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）（２）」による。

鉄筋継手工法	継手の位置等の設計条件による仕様・等級 （１） 引張力最小部位	（２）（１）以外の部位（注） Ａ級	Ｂ級	ＳＡ級	鉄筋の径
■ 重ね継手	■ 40ｄ　□ 35ｄ　□（　）ｄ				■ Ｄ（１９）以下
□ 圧接継手	□ 告示1463号第2項各号	□			□ Ｄ（　）以下
□ 溶接継手	□ 告示1463号第3項各号	□	□		□ Ｄ（　）以下
□ 機械式継手	□ 告示1463号第4項各号	□	□	□	□ Ｄ（　）以下

注）（１）以外の部位に設ける継手は、平成12年告示第1463号ただし書きに基づき、日本鉄筋継手協会、日本建築センター等の認定・評定等を取得した継手工法の等級で、構造計算にあたって『鉄筋継手使用基準（建築物の構造関係技術基準解説書 2007）』によって検討した部材の条件・仕様によること。
□ Ｄ１９未満は、すべて重ね継手とする。
□ 継手部分の施工要領は 社）日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書」（ガス圧接継手工事、溶接継手工事、機械式継手工事）による。
継手部の検査方法：・外観検査　□ 有 □ 無　・引張試験　□ 有 □ 無　・超音波探傷試験　□ 有 □ 無
ガス圧接部分の検査を超音波探傷試験によって行う場合、最初の数ロットについては引張試験も併用し、１回の試験は５本以上とする。
（１ロットは同一作業班が同一日に作業した圧接箇所で 200 箇所程度とする）
□ 柱の帯筋（ＨＯＯＰ）の加工方法は、□ Ｈ型（タダ型）　□ Ｗ型（溶接型）　□ Ｓ型（スパイラル型）とする。
■ コンクリート及び鉄筋の試験は下記の試験機関で行うこと。
試験機関名－工事監理者が指定する試験機関
代行業者名－工事監理者が指定する代行業者
代行業者とは、試験、検査に伴う業務を代行する者をいう。

（３）型　枠
■ 材料　合板厚 12 ｍｍ を標準とする。　■ 施工　JASS 5 による。
■ 型枠存置期間

種類 / 部位	せき板 基礎、梁側、柱、壁	せき板 スラブ下、梁下		支柱 スラブ下	支柱 梁下
セメントの種類	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントＡ種 シリカセメントＡ種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントＡ種 シリカセメントＡ種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントＡ種 シリカセメントＡ種	早強ポルトランドセメント 普通ポルトランドセメント 高炉セメントＡ種 シリカセメントＡ種
コンクリートの材令（Ｂ） 15 ℃以上	2	3	4	6	8	17	28
5 ℃～15 ℃	3	5	6	10	12	25	28
5 ℃未満	5	8	10	16	15	28	28
コンクリートの圧縮強度	5．0Ｎ／ｍｍ2	設計基準強度の５０％		設計基準強度の８５％		設計基準強度の１００％	

注）１　片持ち梁、庇、スパン９．０ｍ以上の梁下は、工事監理者の指示による。
注）２　大梁の支柱の盛りかえは行わない。また、その他の梁の場合も原則として行わない。
注）３　支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
注）４　盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
注）５　支柱の盛りかえは、小梁が終わってから、スラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。
注）６　直上階に著しく大きい積載荷重がある場合においては、支柱（大梁の支柱を除く）の盛りかえを行わないこと。
注）７　支柱の盛りかえは、養生中のコンクリートに有害な影響をもたらすおそれのある振動又は衝撃を与えないように行うこと。

6．鉄骨工事　（施工方法等計画書）

（１）鉄骨工事は指示のない限り下記による
■ 日本建築学会「ＪＡＳＳ６」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
■ 社）日本鋼構造協会「建築鉄骨工事施工指針」
□ 鉄骨製作管理技術者登録機構「突合せ継手の良い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」
（２）工事監理者の承認を必要とするもの
■ 製作工場　□ 製作要領書　□ 工作図　□ 施工計画書
■ 認定または登録工場（大臣認定　Ｓ　Ｈ　Ｍ　Ｒ　Ｊ　グレード　都登録　Ｔ１　Ｔ２　Ｔ３　ランク）
■ 材料規格証明書※、または試験成績書
■ 鋼材　□ 高力ボルト　□ 特殊ボルト　□ 頭付スタッド
※規格品証明書・原本相当規格品証明書・現品証明書
□ 社内検査表　□　□
（３）工事監理者が行う検査項目
（■印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること）
□ 現寸検査　□ 組立・開先検査　□ 製品検査　□ 建方検査
（４）接合部の溶接は下記こと
■ 平成12年建設省告示第1464年第二号 イ、□
■ 鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱
□ 日本建築学会「溶接工作基準、同解説 Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ」
■ 日本建築学会「鉄骨工事技術指針　工事現場施工編」
（５）接合部の検査
■ 溶接部の検査（検査結果は後日工事監理者に報告すること）

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数 工場自主検査	第三者受入検査	工事監理者	備　考
□ 完全溶込み溶接部（突合せ溶接）	外観検査（※）	－％ 個	－％ 個	－％ 個	※平成12年建設省告示第1464号第二号による（目視及び計測）
	超音波探傷試験	－％ 個	－％ 個	－％ 個	
□	内質検査（注） □ 硬さ試験	－％ 個	－％ 個	－％ 個	
	□ 示温塗料塗布	－％ 個	－％ 個	－％ 個	
□	マクロ試験・その他	－ 個	－ 個	－ 個	
■ 隅肉溶接部	外観検査（※）	100 ％ 個	－ ％ 個	－ ％ 個	
第三者検査機関名			（都知事登録　号）		

第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。
注１）知事が定めた重大な不具合が発生した場合は、是正前に対応策を建築主事等に報告すること
□ 高力ボルトの検査（検査結果は後日工事監理者に報告すること）
軸力導入試験　□ 要　■ 否　高力ボルトすべり係数試験　□ 要　■ 否
□ 一次締め後にマーキングを行い、二次締め後そのずれを見て、共回り等の異常が無いことを確認する。
□ トルシヤ形高力ボルトは二次締め後、ピンテールが破断していることを確認する。
（６）防錆塗装
■ 錆止めのペイント
□ JIS K 562■ JIS K 5674

7．設備関係

■ 建築設備の構造は、構造耐力上安全な構造方法を用いるものとする。
■ 建築設備の支持構造部および緊結金物には、錆止め等、防腐のための有効な措置を講じること。
□ 建築物に設ける屋上からの突出する水槽・煙突・その他これらに類するものは、風圧・地震力等に対して構造耐力上主要な部分に緊結され、安全であること。
□ 煙突は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを５ｃｍ以上とした鉄筋コンクリート造とすること。
□ 設備配管は、地震時等の建物変形に追従できること。また、地震力等に対して適切に支持されていること。
■ 設備機器の架台及び基礎については、風圧・地震力等に対して構造耐力上安全であること。
□ エレベーターの駆動装置等は、構造体に安全に緊結されていること。
■ 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。
■ 床スラブ内に設備配管等を埋込む場合は、スラブ厚さの１／３以下とし管の間隔を管径の３倍以上かつ５ｃｍ以上を原則とする。
■ 建築物に設ける給水、排水その他の配管設備（給湯設備を除く）は、
■ 風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。
■ 建築物の部分を貫通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。
■ 管の伸縮その他の変形により、当該管に損傷が生ずる場合において、伸縮継手又は可撓継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。
■ 管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。
■ 給湯設備は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。満水時の質量が15Ｋｇを超える給湯設備については、地震に対して安全上支障のない構造として、平成12年建設省告示第1388号第5に規定する構造方法によること。

8．その他

■ 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
■ 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
■ 必要に応じて記録写真を撮り保管すること。

紫波警察署桜町宿舎解体ほか工事	検　図	製図	設計年月	図面内容　（仮眠室棟新築） 構造設計特記仕様	縮尺	図面番号 建築構造
設計図			令和7年 1月 (2025年)		A1: A3:	S－ 01 計画 消防 構造適判 省エネ適判

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（1）

※修正箇所は下線を引くこと

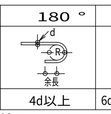
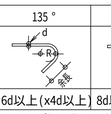
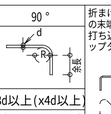
1．一般事項

（1）構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
（2）記号

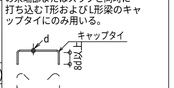
d･･･異形棒鋼の呼び名に用いた数値　丸鋼では径　　D･･･部材の成　　R･･･直径
@･･･間隔　r･･･半径　CL･･･中心線　Lo･･･部材間の内法距離　ho･･･部材間の内法高さ
ST･･･あばら筋　HOOP･･･帯筋　S.HOOP･･･補強帯筋　　φ･･･直径又は丸鋼

2．鉄筋加工、かぶり

（1）鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	180°	135°	90°
図			
鉄筋の余長	4d以上	6d以上(x4d以上)	8d以上(x4d以上)

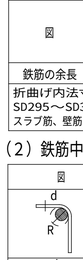
折まげ角度90°はスラブ筋・壁筋の末端部またはスラブと同時に打ち込むT形およびL形梁のキャップタイにのみ用いる。



折曲げ内法寸法Rは、SR235～SD345の径16およびD16以下は3d以上、SD295～SD345のD19～D38は4d以上、D41およびSD390は5d以上。
スラブ筋、壁筋には丸鋼は仕様しない。

*片持スラブ上端筋の先端

（2）鉄筋中間部の折曲げ形状　鉄筋の折曲げ角度 90°以下

図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲げ内のり寸法(R)
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	SR235、SR295 SD295A・B SD345	16φ D16 以下	3d以上
			19φ D19 以上	4d以上
	上記以外の鉄筋	SR295A・B SD345 SD390	16φ 以下	4d以上
			D19～D25	6d以上
			D29～D41	8d以上

（3）鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

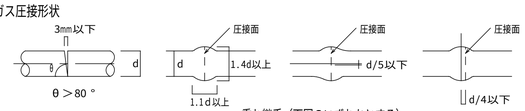
鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲 (N/mm2)	定着の長さ 一般（L2）	定着の長さ 下端筋（L3） 小梁	定着の長さ 下端筋（L3） スラブ	特別の定着及び重ね継手の長さ (L1)
SR235	21、24	35d フックつき	25d フック付き	150mmフック付き	35d フックつき
	18以下	45d フックつき			45d フックつき
SD295A SD295B SD345	27～36	30d または20dフック付き	25d または15d フック付き	10d かつ 150mm以上	35d または25dフック付き
	21、24	35d または25dフック付き			40d または30dフック付き
	18以下	40d または30dフック付き			45d または35dフック付き
SD390	27～36	35d または25dフック付き			40d または30dフック付き
	21、24	40d または30dフック付き			45d または35dフック付き

［注］許容応力度計算、許容応力度等計算、その他構造計算を要さない小規模建築物の場合は、梁主筋の柱への定着は 40d とする

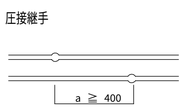
継　手

1. 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする
4. D29 以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない
5. 鉄筋径の差が 7mm を超える場合は、圧接としてはならない

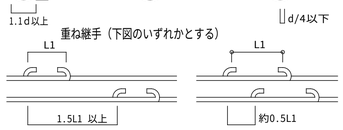
ガス圧接形状



圧接継手

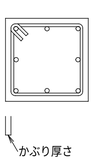


重ね継手（下図のいずれかとする）



（4）かぶり厚さ　（単位：mm）

ひびわれ誘発目地部など鉄筋のかぶり、厚さが部分的に減少する箇所についても最小かぶり厚さを確保する。

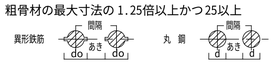


部位			設計かぶり厚さ (mm)	最少かぶり厚さ (mm)
土に接しない部分	屋根スラブ 床スラブ 非耐力壁	屋内	30	20
		屋外	40(1)	30(20)
	柱 はり 耐力壁	屋内	40	30
		屋外	50(2)	40(1)(30)
	擁壁		50(3)	40
土に接する部分	柱・はり・床スラブ・耐力壁及び布基礎の立上り部分		50	40(4)
	基礎・擁壁		70	60(4)

［注］（1）耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて30mmとすることができる。
（2）耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる。
（3）コンクリートの品質および施工方法に応じ、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる。
（4）軽量コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。
（5）（ ）内は仕上げがある場合。
（6）土に接する部分のかぶりは増加する厚さを打ち増しとする。

（5）鉄筋のあき

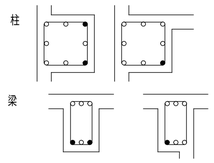
丸鋼では径、異形鉄筋では呼び名に用いた数値 1.5d以上
粗骨材の最大寸法の 1.25倍以上かつ25以上



（6）鉄筋のフック（a～fに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。）

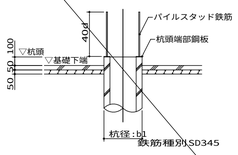
a．丸鋼　　b．あばら筋、帯筋　　c．煙突の鉄筋
d．柱、梁（基礎梁は除く）の出すみ部分の鉄筋（右図参照）
e．単純梁の下端筋
f．その他、本配筋標準に記載する箇所

図の ●印の鉄筋の重ね継手の末端にはフックが必要



3．杭　（地震力等の水平力を考慮して、別途検討すること。）

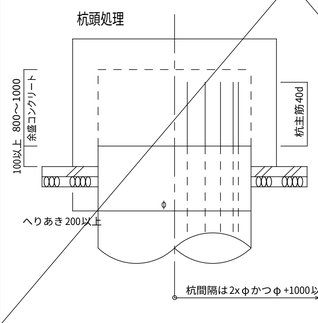
（1）PRC杭、又はPHC杭の全てに補強を行う

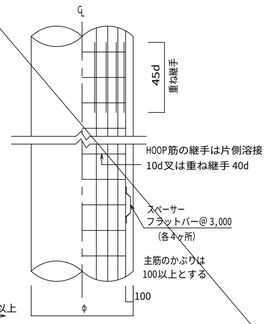


杭 径：b1	杭 種	パイルスタッド溶接
300φ (3045)	PHC	6－D13
	A	
	PHC	6－D16
	C	
400φ (4055)	PHC	6－D13
	A	
	PHC	8－D16
	B	

（2）現場打ちコンクリート杭

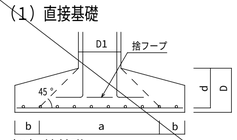
杭頭処理



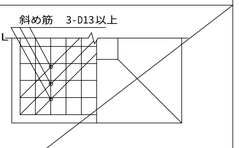


4．基　礎

（1）直接基礎

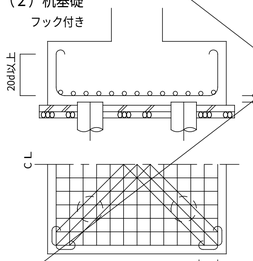


ベース筋
a=D1+2d の範囲
主筋間隔は 200以下
bの範囲
主筋間隔の 1.5倍かつ
300以下

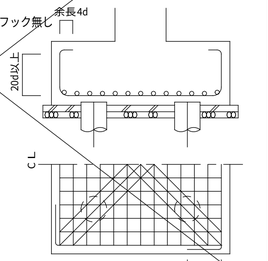


（2）杭基礎

フック付き

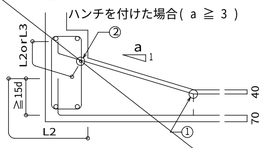


フック無し



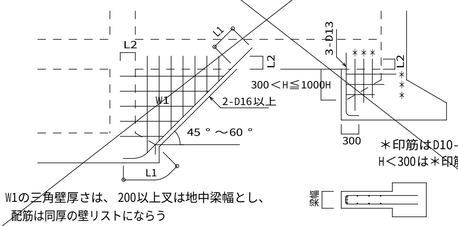
（3）べた基礎

ハンチを付けた場合（ a ≧ 3 ）



1.耐圧版鉄筋の継手位置は床スラブにならう
但し上筋と下筋を読みかえる
2.1の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする
3.2の鉄筋は D13以上
4.埋戻し土のある場合は４０を７０とする

（4）基礎接合部の補強



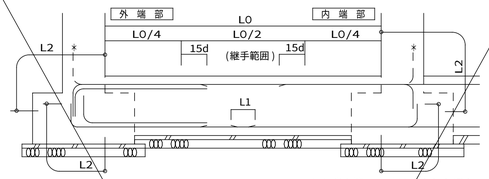
＊印筋はD10-@200とする
H＜300は＊印筋は不要とする

W1の三角壁厚さは、200以上又は地中梁幅とし、配筋は同厚の壁リストにならう

5．地中梁

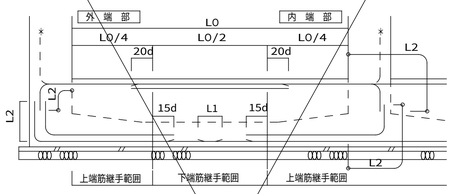
（1）独立基礎、杭基礎の場合　（定着、継手）

（長期荷重が支配的な場合の継手は７.（2）大梁継手位置とする）



（2）布基礎、べた基礎の場合　（定着、継手）

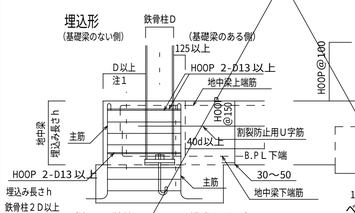
＊上端主筋の定着は、やむを得ない場合、上向きとすることができる



（3）小規模鉄骨造柱脚固定の配筋

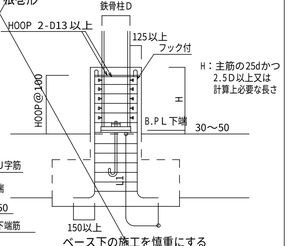
地中梁の主筋と頭付スタッドによる、おさまりに注意する。

埋込形（基礎梁のない側）



（注１　計算によらない場合である）

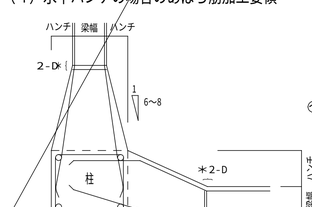
根巻形



H：主筋の25dかつ2.5D以上又は計算上必要な長さ

ベース下の施工を慎重にする

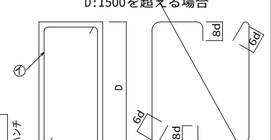
（4）水平ハンチの場合のあばら筋加工要領



＊一般のあばら筋と同様のものを２本束ねる

（5）せいの高い梁のあばら筋加工要領図

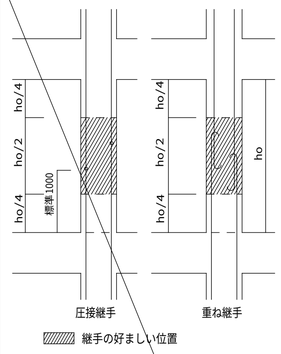
D:1500を超える場合



㋐ の拡大図

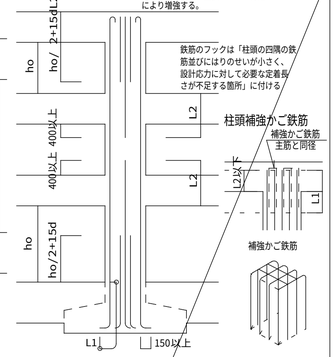
6．柱

（1）柱主筋の継手



（2）柱主筋の定着

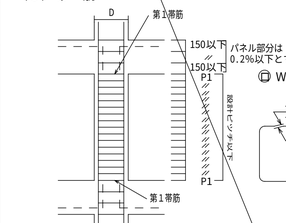
柱、梁の定着L2以上が確保されない場合はかご鉄筋で補強、または特記により増強する。

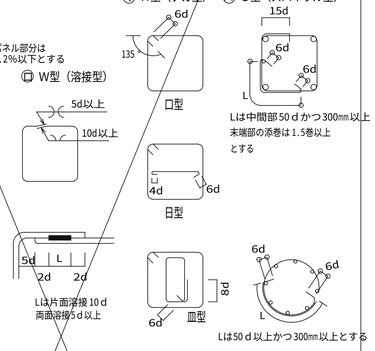


鉄筋のフックは「柱頭の四隅の鉄筋並びにはりのせいが小さく、設計応力に対しての必要な定着長さが不足する箇所」に付ける。

柱頭補強かご鉄筋
補強かご鉄筋
主筋と同径
補強かご鉄筋

（3）帯　筋

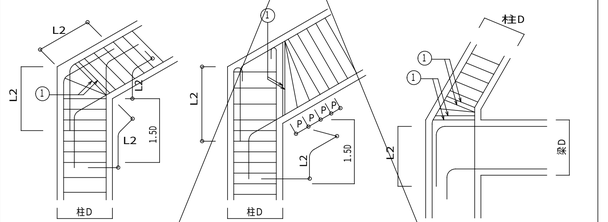




注1．第１帯筋は、梁づらに入れる
注2．W型で現場溶接をする場合は主筋の位置をさける
注3．フックおよび継手の位置は、交互とする

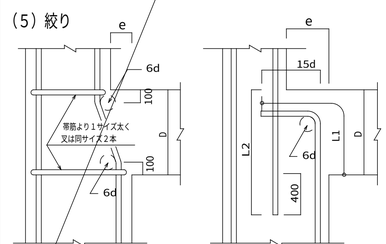
（4）斜め柱・斜め梁

○柱幅と斜材（柱又は梁）幅が同一　　○柱幅と斜材幅が異なる　　○柱脚で斜材となる



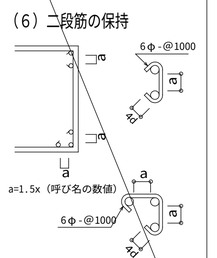
注1．1.5Dの範囲の柱の帯筋は一段太いものか、又はダブル巻きとし@ 100以下とする
注2．① の鉄筋は2-D13かつ、２本の一段太い鉄筋とする

（5）絞り



e ≦ D/6　　150≧e ＞ D/6

（6）二段筋の保持



紫波警察署桜町宿舎解体ほか工事	検　図	製図	設計年月	図面内容　（仮眠室棟新築）	縮尺	図面番号
設計図			令和7年 1月 (2025年)	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（1）	A1: A3:	建築構造 S- 02

計通　消防　構造適判　省エ適判

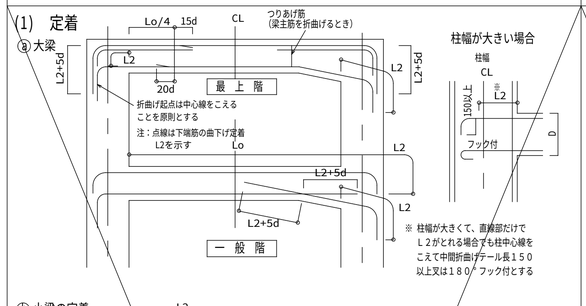
鉄筋コンクリート構造配筋標準図（2）

※修正箇所は下線を引くこと
L＝本構造配筋標準図(1)の2-(3)による。

7．大梁、小梁、片持梁

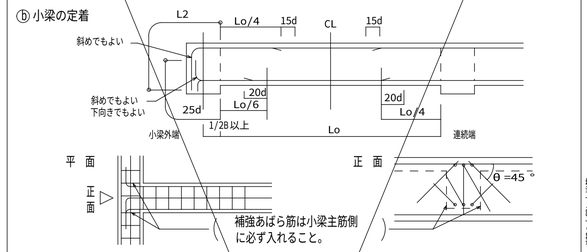
(1) 定着

ⓐ 大梁

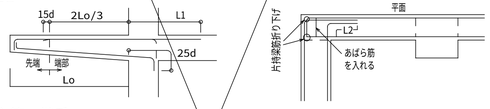


※ 柱幅が大きくて、直線部だけでＬ２がとれる場合でも柱中心線をこえて中間折曲げテール長１５０以上又は１８０°フック付とする

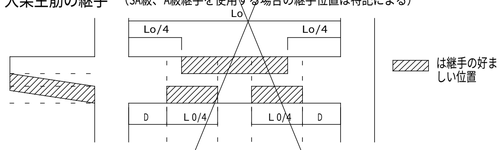
ⓑ 小梁の定着



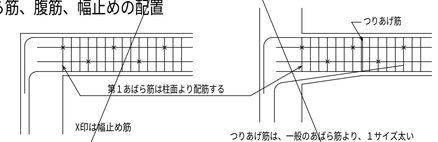
ⓒ 片持梁の定着



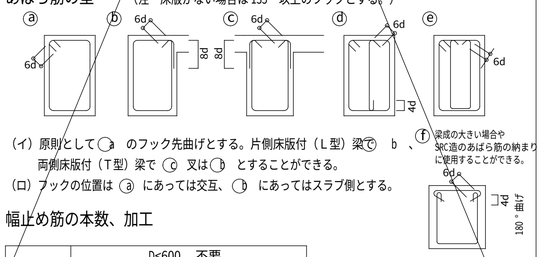
(2) 大梁主筋の継手 （SA級、A級継手を使用する場合の継手位置は特記による）



(3) あばら筋、腹筋、幅止めの配置



(4) あばら筋の型 （注 床版がない場合は135°以上のフックとする。）

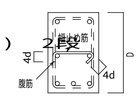


（イ）原則としてⓐ のフック先曲げとする。片側床版付（Ｌ型）梁ⓒ b 、両側床版付（Ｔ型）梁で ⓒ 又はⓑ とすることができる。
（ロ）フックの位置は ⓐ にあっては交互、ⓑ にあってはスラブ側とする。

ⓕ 梁成の大きい場合や SRC造のあばら筋の納まりに使用することができる。

(5) 幅止め筋の本数、加工

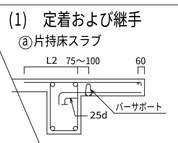
腹 筋	D<600 不要 600 ≦ D<900 2-D10（9φ） 1段 900 ≦ D<1200 4-D10（9φ） 2段 1200 ≦ D D10（9φ）@300以内
幅止め筋	D10（9φ）@1000以内で割り付ける



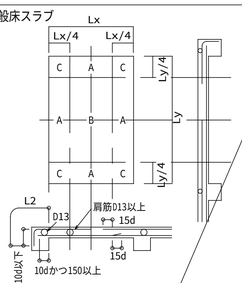
8．床 板

(1) 定着および継手

ⓐ 片持床スラブ



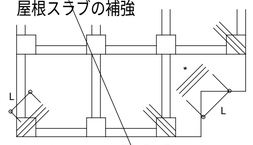
ⓑ 一般床スラブ



継手位置は原則として下表による。

		標準継手位置
上端部	短辺方向	B
	長辺方向	B
下端部	短辺・長辺方向	A C

(2) 屋根スラブの補強



ⓐ 補強筋は各3-D13又はスラブ主筋の同一径でL＝1,500とし、上端筋の下に配筋する
ⓑ ※の箇所（入隅）は各階補強する

(3) 片持ちスラブ出隅部補強

注）出隅部の補強筋は、計算により算出する。

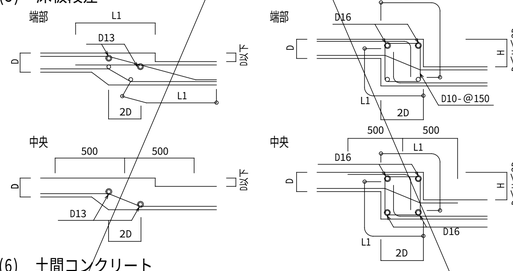
※）出隅受け部補強筋は、それぞれの方向に出隅補強筋として出隅部の同本数をハッチ部分に配置する。

(4) 床板開口部の補強 （開口の径５００程度の場合）

床板厚さD	周 囲	斜 め
D ≦ 150	各2－D13	各1－D13
150 < D ≦ 200	各2－D13	各2－D13
200 < D ≦ 300	各2－D19	各2－D16

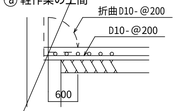
注）設備の小開口が連続してあく場合は縦、横、斜補強筋とは別に開口によって切られる鉄筋と同じ鉄筋を開口をさけて補強する。

(5) 床板段差

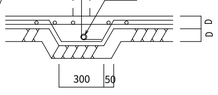


(6) 土間コンクリート

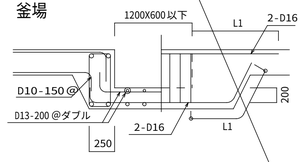
ⓐ 軽作業の土間



ⓑ 間仕切壁との交叉部



(7) 釜場



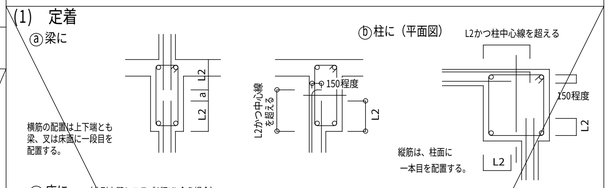
(8) 打継ぎ補強 （ダメ穴打継面について）

○ 設計配筋間隔の1/2ピッチ 長さ２xL1以上
○ 無筋部分D１０－@２００ 長さ８００以上

9．壁

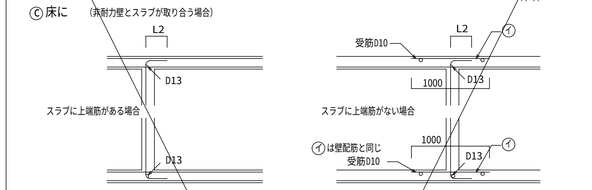
(1) 定着

ⓐ 梁に

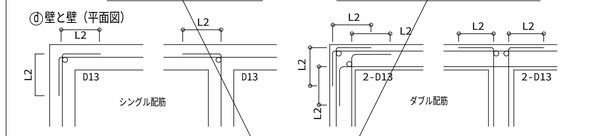


ⓑ 柱に（平面図）

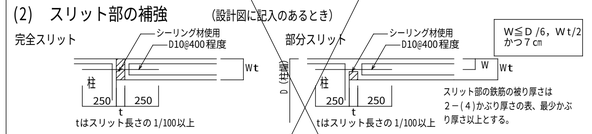
ⓒ 床に （耐力壁とスラブが取り合う場合）



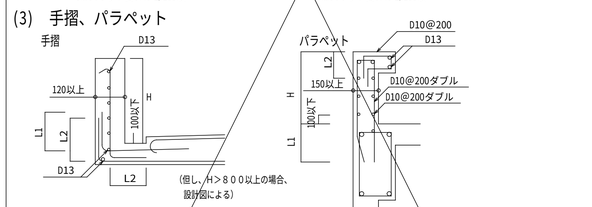
ⓓ 壁と壁（平面図）



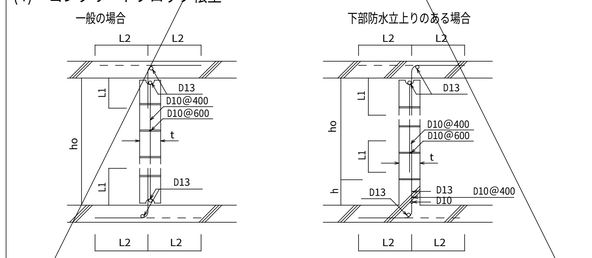
(2) スリット部の補強 （設計図に記入のあるとき）



(3) 手摺、パラペット



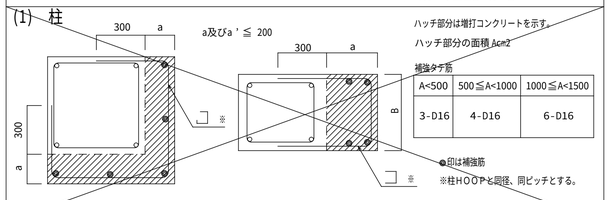
(4) コンクリートブロック帳壁



注）ho≦ 25tかつ3500以下とする。但し直交方向 25t以内に壁、又は柱がある場合は除く
注）hはコンクリートブロック段数調整寸法とする。但し、 200≦ h≦ 400
注）継手部は必ずモルタルを充填すること

１０．柱、梁増打コンクリート補強 （増打するときは事前に設計者、及び工事監理者と打ち合せのこと）

(1) 柱

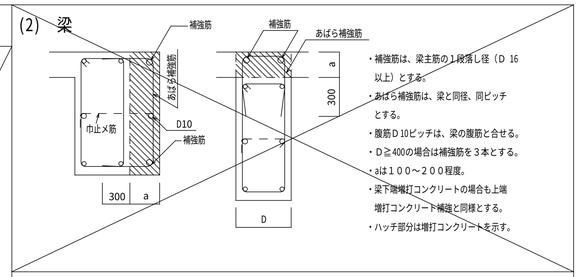


ハッチ部分は増打コンクリートを示す。
ハッチ部分の面積 Ac=2
補強タテ筋

A<500	500≦A<1000	1000≦A<1500
3-D16	4-D16	6-D16

●印は補強筋
※柱HOOPと同径、同ピッチとする。

(2) 梁

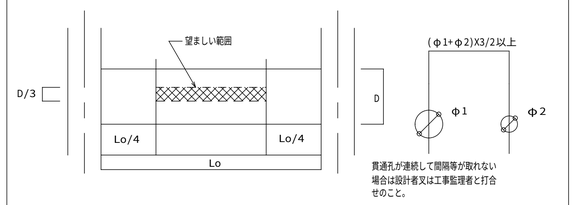


・補強筋は、梁主筋の1段落し径（D 16以上）とする。
・あばら補強筋は、梁と同径、同ピッチとする。
・腹筋D 10ピッチは、梁の腹筋と合せる。
・D≧400の場合は補強筋を３本とする。
・aは１００～２００程度。
・梁下端増打コンクリートの場合も上端増打コンクリート補強と同様とする。
・ハッチ部分は増打コンクリートを示す。

１１．梁貫通孔補強

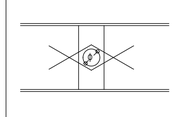
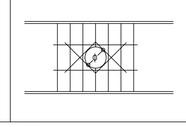
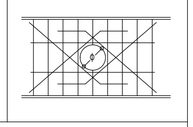
(1) 設置可能範囲

梁端部（スパンLo／１０以内かつ２D以内）は避ける

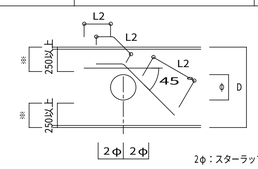


貫通孔が連続して間隔等が取れない場合は設計者又は工事監理者と打合せのこと。

(2) 鉄筋標準配筋 但し φ ≦ D／3とする

80 ≦ φ ≦ 100 折 筋 2-(2-D13) 縦 筋 ST 2-D13	100 < φ ≦ 150 折 筋 2-(2-D13) 縦 筋 ST 2-D13-@50 横 筋 2-(2-D13) 上下縦筋 ST 2-D13-@50	150 < φ ≦ 250 斜 筋 4-(2-D13) 縦 筋 ST 2-D13-@50 横 筋 2-(2-D13) 上下縦筋 ST 2-D13-@50
		

孔補強の有効範囲と定着長さのとり方



2φ：スターラップ補強範囲

※部分について計算で確認された場合は右記の位置、寸法によらなくて良い。

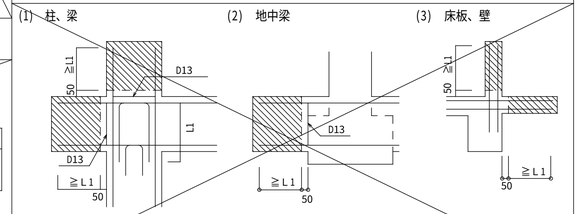
(3) 既製品 （使用する際には、設計者又は工事監理者と打合せのこと）

ウェブレン、ダイヤレン 等 日本建築センター評価取得品とする。
施工前に計算書を提出し、承認を得ること。
設計時に使用する評価取得品については計算書を提出すること。

□ リング型 □ パイプ型 □ 金網型 □ プレート型

１２．増築予定 （将来増築予定のコンクリート増打ち部分は、増築時の鉄筋継手工法を考慮して措置する）

(1) 柱、梁 (2) 地中梁 (3) 床板、壁



紫波警察署桜町宿舎解体ほか工事 設計図			検 図	製図	設計年月 令和7年 1月 (2025年)
図面内容 (仮眠室棟新築) 鉄筋コンクリート構造配筋標準図（2）	縮尺 A1: A3:	図面番号	建築構造 S- 03		
		計通	消防	構造適判	省ｴﾈ適判

鉄骨構造標準図

※修正箇所は下線を引くこと

１．一般事項

（１）材料及び検査

（ａ）　構造設計特記仕様による

（ｂ）　適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが　40mm以下のものとする
　　但し、ベースプレートの厚さは除く

（ｃ）　社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法・精度及びその他の結果を添付する

（２）工作一般

（ａ）　鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の承認を得る

（ｂ）　鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による

（ｃ）　高張力鋼の歪み矯正は、冷間矯正とする

（３）高力ボルト接合

（ａ）　本締めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない

（ｂ）　高力ボルトの摩擦面の処理は黒皮などを座金外径２倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した赤さび状態であること。但し、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面荒さが、　50μmRz以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。

（ｃ）　高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分に密着するよう注意して行う。

（４）溶接接合

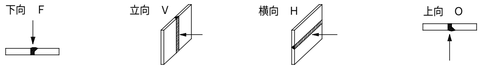
（ａ）　平成 12年建設省告示第 1464号第二号イ、ロによる、溶接部の性能、溶着金属の性能を満足すること。

（ａ）　溶接技能者
　　溶接技能者は施工する溶接に適応する JIS Z3801（手溶接）又はJIS Z3841（半自動溶接）の溶接術検定試験に合格し引続き、半年以上溶接に従事している者とする

（ｂ）　溶接機器
　（イ）　交流アーク溶接機　　300A～500A　　（ニ）　炭酸ガスアーク半自動溶接機
　（ロ）　アークエアーガウジング機（直流）　　（ホ）　溶接電流を測定する電流計
　（ハ）　サブマージアーク溶接機一式　　（ヘ）　溶接棒乾燥器

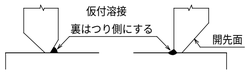
（ｃ）　溶接方法
　アーク手溶接（ＭＣ）　　ガスシールドアーク半自動溶接（ＧＣ）
　アークエアーガウジング（ＡＡＧ）　　セルフ（ノンガス）シールドアーク半自動溶接（ＮＧＣ）

（ｄ）　溶接姿勢



（ｅ）　組立溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う
　（イ）　仮付位置
　　組立溶接は溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける

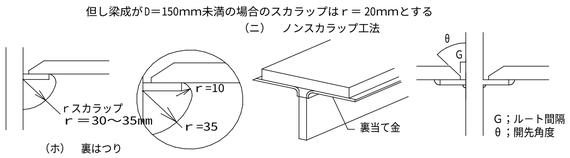
　（ロ）　完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する



（ｆ）　溶接施工
　（イ）　エンドタブ
　　Ⅰ）完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける
　　Ⅱ）エンドタブの材質は母材と同質とする
　　Ⅲ）エンドタブの長さは、ＭＣ：　35mm以上
　　ＮＧＣ、ＧＣ：40mm以上とし、特記のない場合は、溶接終了後、
　　母材より10mm程度残し切断して、グラインダー仕上げとする
　　Ⅳ）プレス鋼板タブ、固形タブ使用については、資料を提出し設計者または工事監理者の承認を得る

　（ロ）　裏当て金
　　材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で　6mm、半自動溶接で 9mm以上、巾は 25mm以上を原則とする。但し、溶接性能が確認できれば監理者の承認を得て変更することができる。

　（ハ）　スカラップ半径は 30～35mmと、10mmのダブルアールとする
　　但し梁成がD＝150mm未満の場合のスカラップはｒ＝ 20mmとする



　（ホ）　裏はつり
　　基準図の溶接においてＡＡＧと記載のある部分は全て、溶接監理者の確認を励行し、部材に確認マークをつける

　（ヘ）　現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先部をいためない様に養生を行う

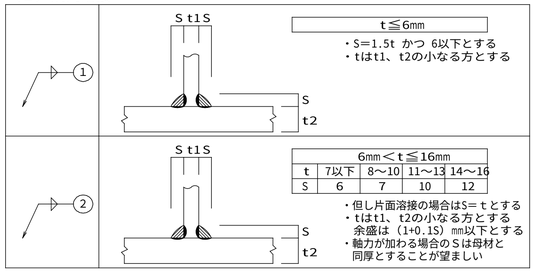
（５）塗装

コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない

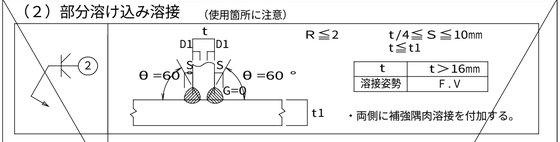
２．溶接基準図

（注）ｆ：余盛　Ｇ：ルート間隔　Ｒ：フェース　Ｓ：脚長　　（単位mm）

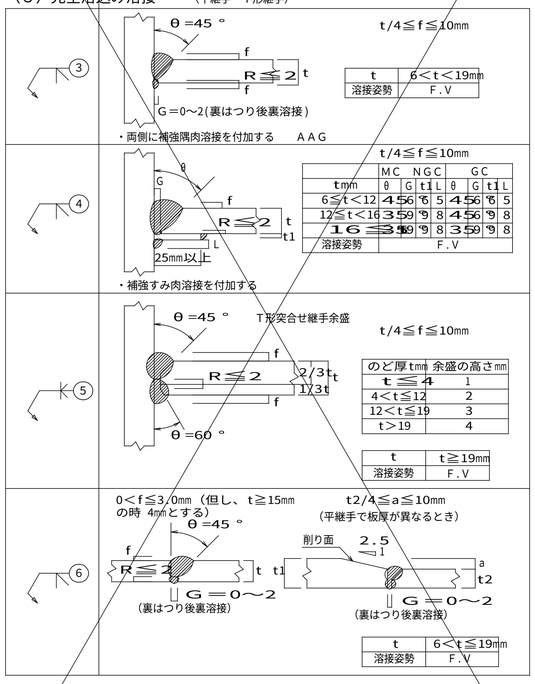
（１）隅肉溶接



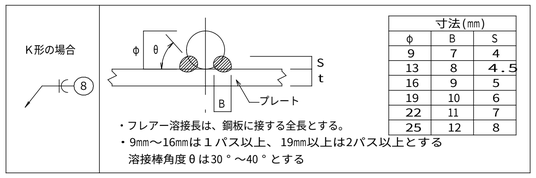
（２）部分溶け込み溶接　（使用箇所に注意）



（３）完全溶込み溶接　（平継手　Ｔ形継手）



（４）フレアー溶接



３．継手規準図、その他

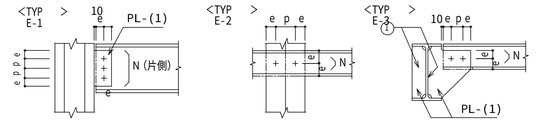
（１）ボルト、アンカーボルトのピッチ（P）

ボルト穴径・最小縁端距離　(mm)

	呼び径 d	ボルト穴径	最小縁端距離（e）（1）	（2）	(1)(2 の標準	ピッチ（P）最小	標準
ボルト	M12	13	22	18	20	30	45
	M16	17	28	22	30	40	60
	M20	21.5	34	26	40	50	60
	M22	23.5	38	28	40	55	60
	M24	25.5	44	32	45	60	70
アンカーボルト	M12	17	22	18			
	M16	21	28	22			
	M20	25	34	26			
	M22	27	38	28			
	M24	29	44	32			
	M27	32	49	36			
	M30	35	54	40			
	M3 以上	呼び径+5	9d/5	4d/3			

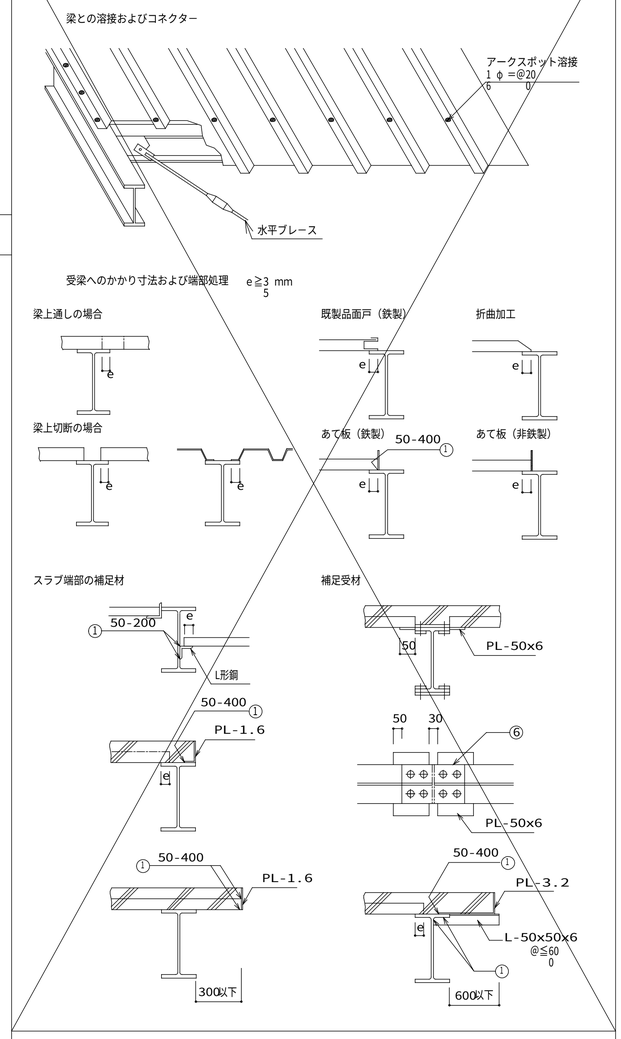
［注］（1）せん断縁・手動ガス切断縁の場合の縁端距離
　　（2）圧延縁・自動ガス切断縁・のこ引き縁・機械仕上縁の場合の縁端距離

（２）ピン接合梁継手リスト



符　号	タイプ	部　材	P －(1) L	P －(2 L	N－径
		別表リストによる			

（３）デッキプレート　（床剛性を考慮する合成床、合成梁のときは構造図参照）

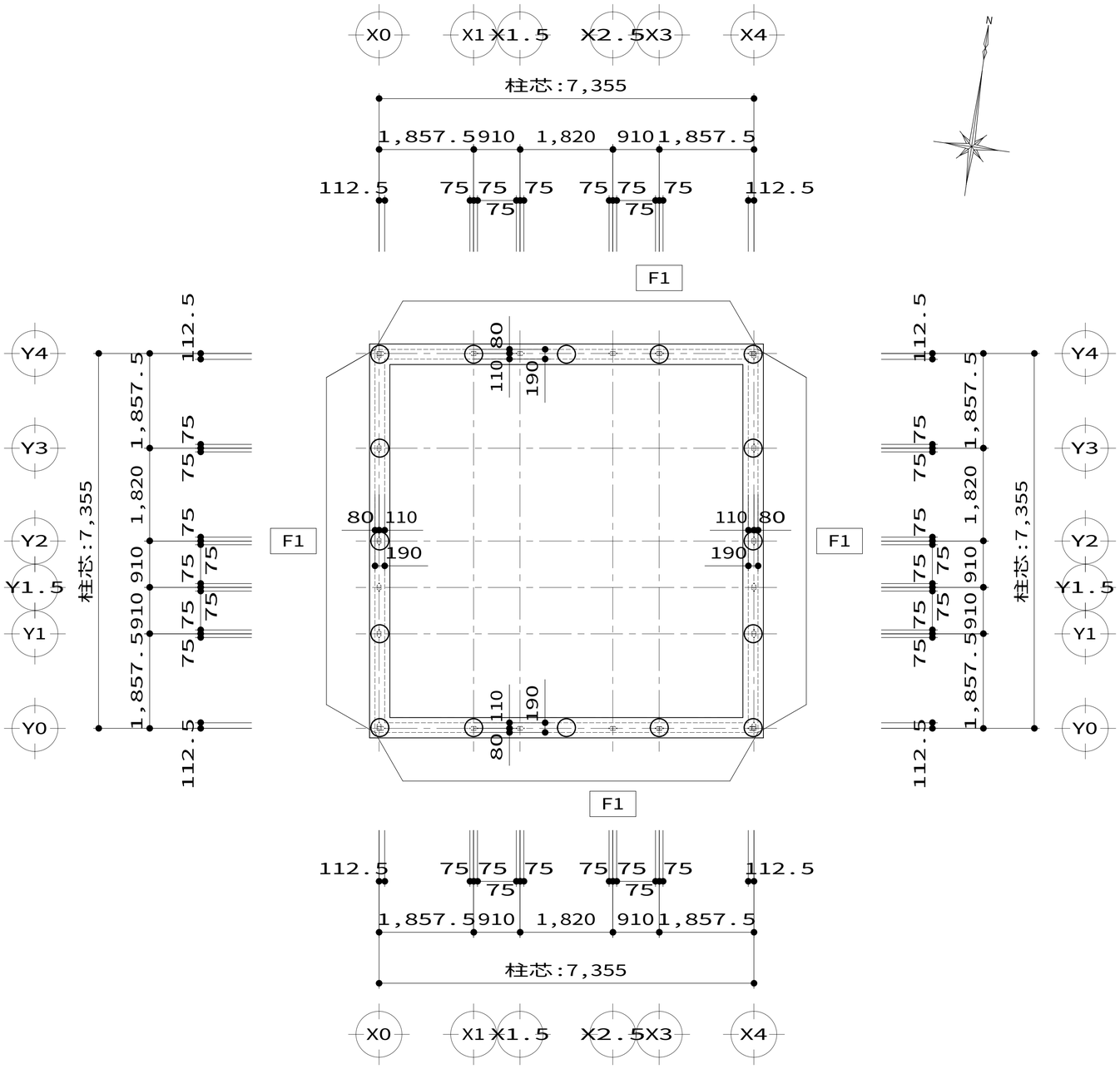


紫波警察署桜町宿舎解体ほか工事	検　図	製図	設計年月	図面内容　（仮眠室棟新築）	縮尺	図面番号	建築構造
設計図			令和7年 1月（2025年）	鉄骨構造標準図	A1: A3:	S- 04	計画　消防　構造適判　省ｴﾈ適判

■天然石砕石パイル工法（HySPEED（350）工法　同等以上）
（建築技術性能証明　ストーンコラム工法　GBRC性能証明 第17-30号）　改1

設　計　荷　重	：	50kN/㎡
基　礎　形　状	：	布基礎
砕石パイル径（設計径）	：	φ350㎜
補補強深度（パイル長）	：	○　5.00m　－　16本
砕石パイル負担面積	：	0.756㎡以内
換算パイルピッチ	：	1.890m以内（布基礎部分）

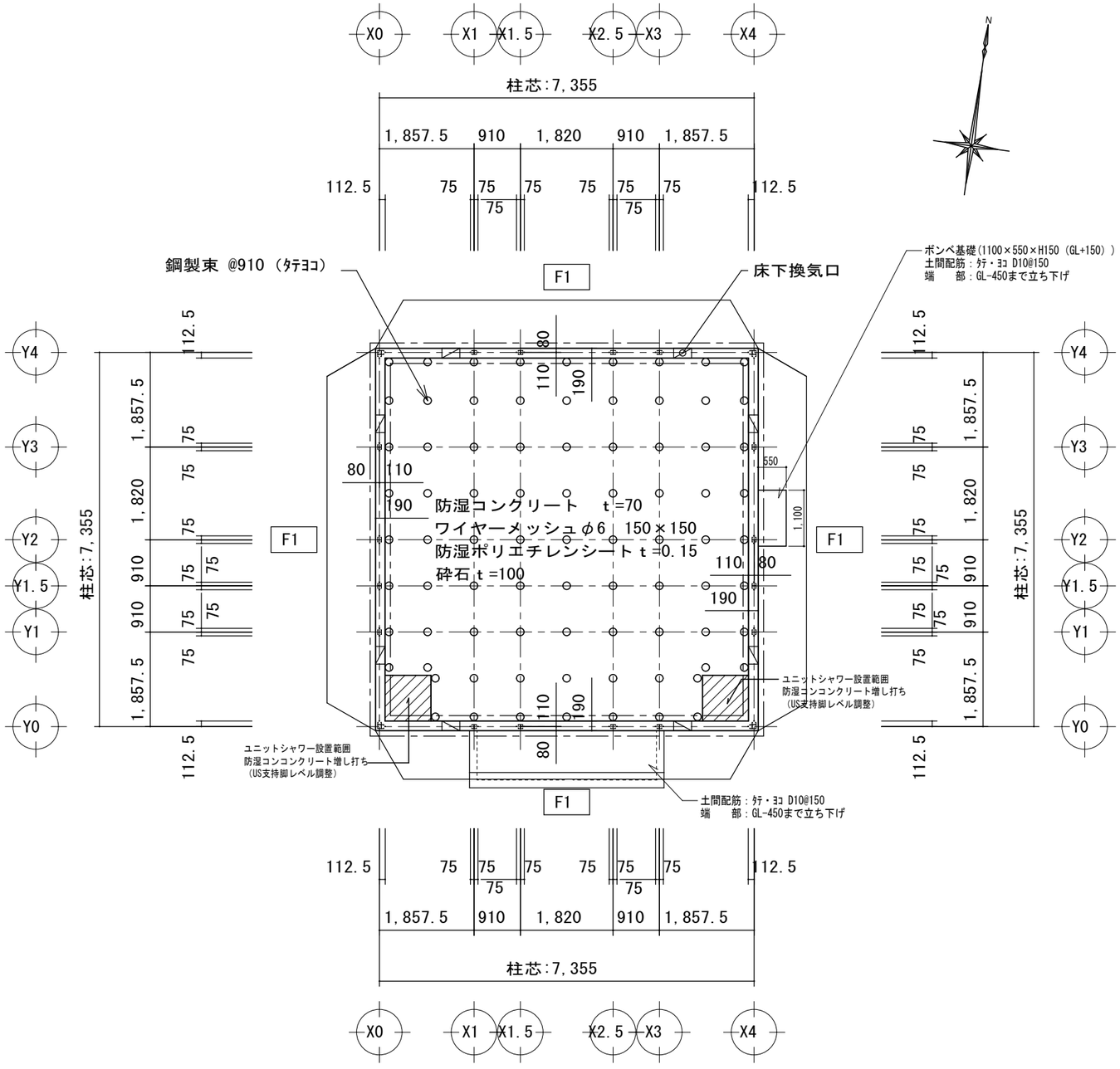
※注意事項　：　施工前に、事前にSWS試験を５ヵ所（四隅及び中央）を行う事。
その結果を基に、再度安定計算を行い、最終的な深度及び本数等を決定する事。



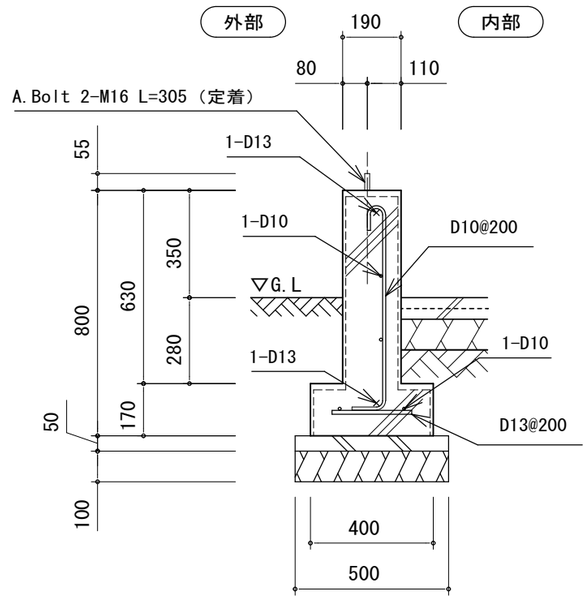
基礎伏図　S=1/50

紫波警察署桜町宿舎解体ほか工事			検　図		製図	設計年月	図面内容　（仮眠室棟新築）	縮尺	図面番号　建築構造
設計図						令和7年 1月	地盤改良　砕石パイル配置図	A1:　1/50	S-　05
						（2025年）		A3:　1/100	計画○　消防　構造適判　省ｴﾈ適判

・使用部材	
鉄筋	異形棒鋼　SD295
アンカーボルト	2-M16 L=305（定着）　SS400
	※ダブルナットにて固定
基礎コンクリート	設計基準強度　Fc=21 N/mm2
	所要スランプ　15 cm
・備考	
設計地耐力	50 kN/m2（長期）



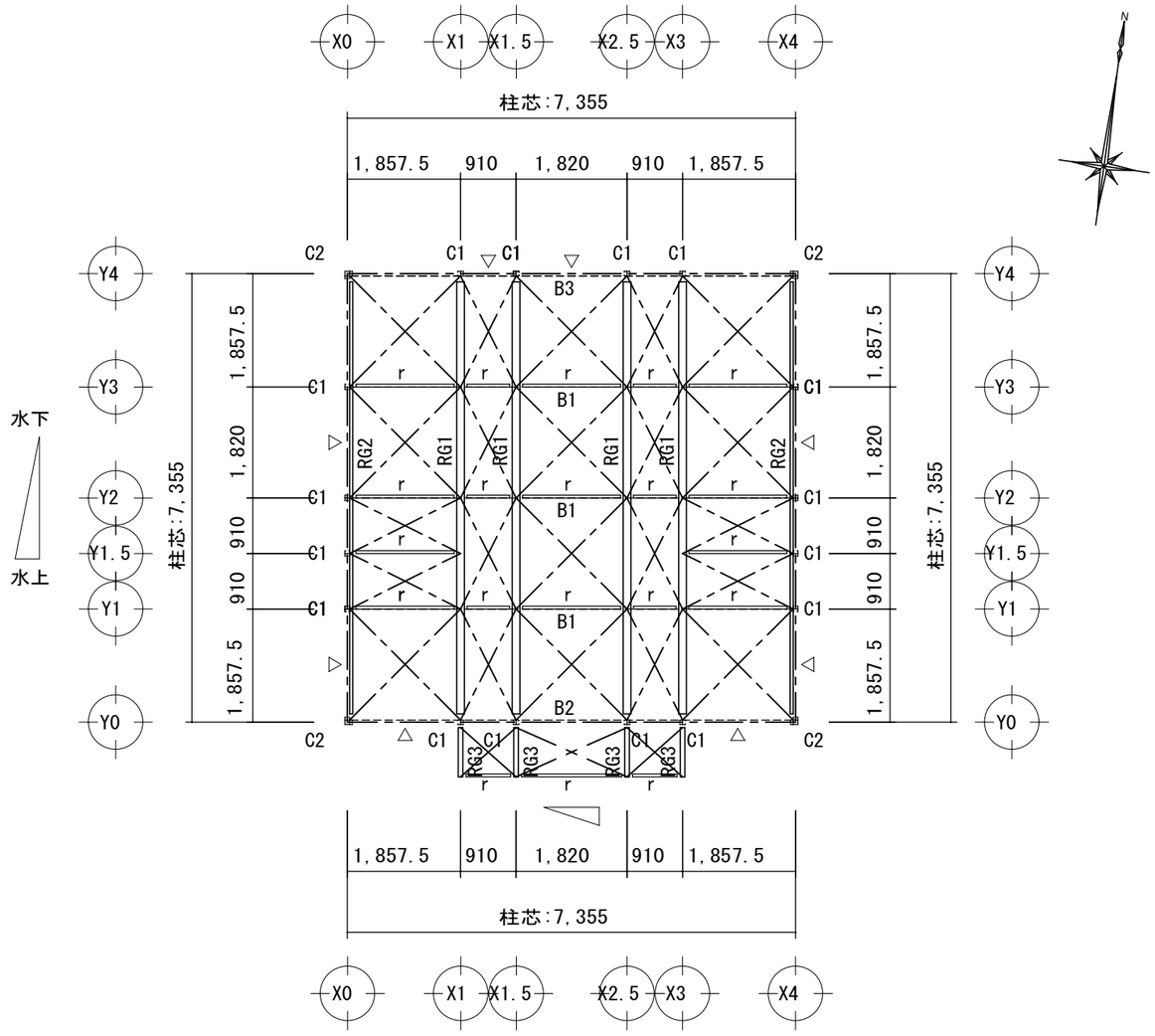
基礎伏図　S=1/50



F1 基礎詳細図　S=1/10

※基礎断面寸法は天端フカシ20mm・側面フカシ10mmを含んだ寸法とする。

紫波警察署桜町宿舎解体ほか工事	検　図	製図	設計年月	図面内容　（仮眠室棟新築）	縮尺	図面番号	建築構造
設計図			令和7年 1月（2025年）	基礎伏図、基礎詳細図	A1: 1/50 1/10　A3: 1/100 1/20	S- 06	計通 ○　消防　構造適判　省ｴﾈ適判



小屋伏図　S=1/50

——－—— は、水平ブレースを示す。

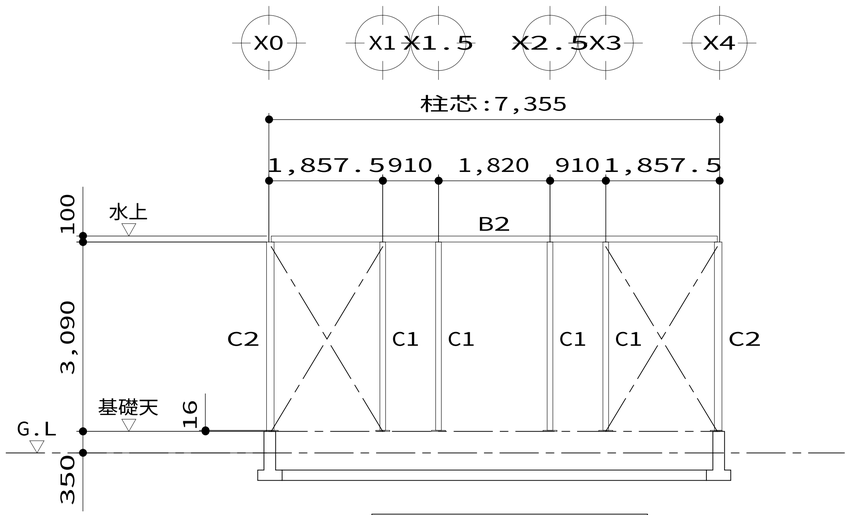
△　は、柱ブレース位置を示す。

部　材　リ　ス　ト

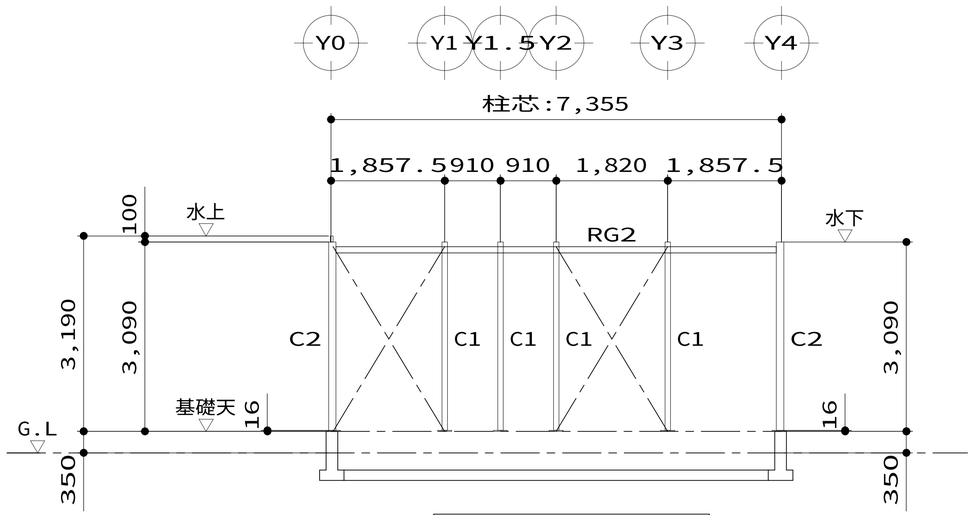
符　号	部　材	材　質			細長比	符　号	部　材	材　質			符　号	部　材	材　質		
C1	2C-75×45×15×2.3	SSC400	BPL-16	A.Bolt 2-M16	λ=126	RG1	H-248×124×5×8	SS400	GPL-6	中ボルト3-M16	r	C-75×45×15×2.3	SSC400	GPL-4.5	中ボルト2-M12
C2	□-75×75×2.3	STKR400	BPL-16	A.Bolt 2-M16	λ=84	RG2	[-100×50×3.2	SSC400		中ボルト2-M12					
	＋2C-75×45×15×2.3	SSC400				RG3	□-75×75×2.3	STKR400	GPL-4.5	中ボルト4-M12	B1	[-75×40×5×7 @1820	SS400		中ボルト1-M12
											B2	□-100×50×2.3	STKR400		中ボルト1-M12
											B3	[-75×40×5×7	SS400		中ボルト1-M12
											水平ブレース	——— 1-M12（ターンバックル）	SNR400B	GPL-6	ボルト(強度区分10.9)1-M16
						屋根材	折版 H=79				柱ブレース	△ 1-M14（ターンバックル）	SNR400B	GPL-6	ボルト(強度区分10.9)1-M16
							ガルバリウム鋼板　t=0.6								

中ボルトは、スプリングワッシャーにて戻り止めとする。

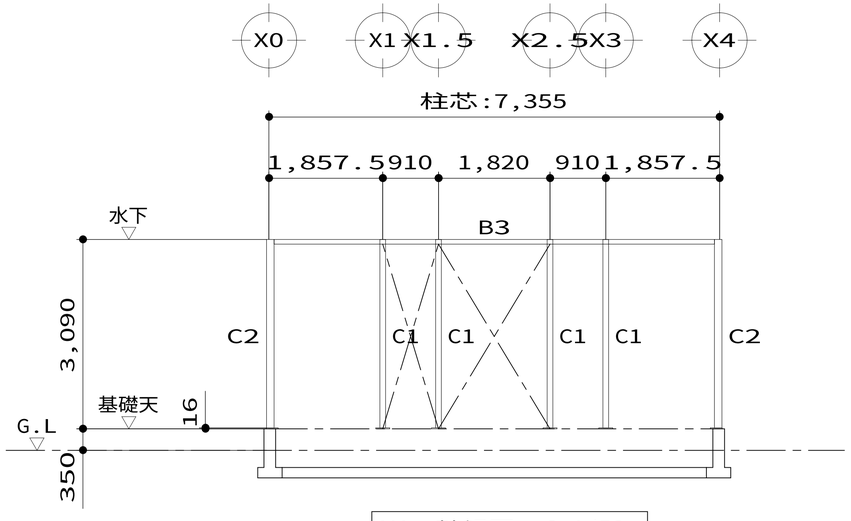
紫波警察署桜町宿舎解体ほか工事	検　図	製図	設計年月	図面内容　（仮眠室棟新築）	縮尺	図面番号	建築構造
設計図			令和7年 1月（2025年）	小屋伏図、部材リスト	A1: 1/50 A3: 1/100	S- 07	計通 ○ / 消防 / 構造適判 / 省ｴﾈ適判



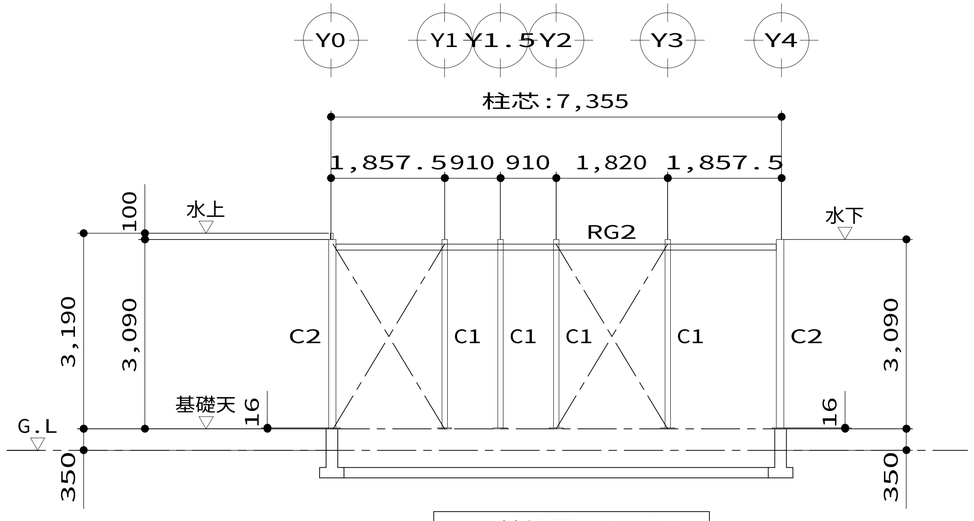
Y0　軸組図　S=1/50



X4　軸組図　S=1/50

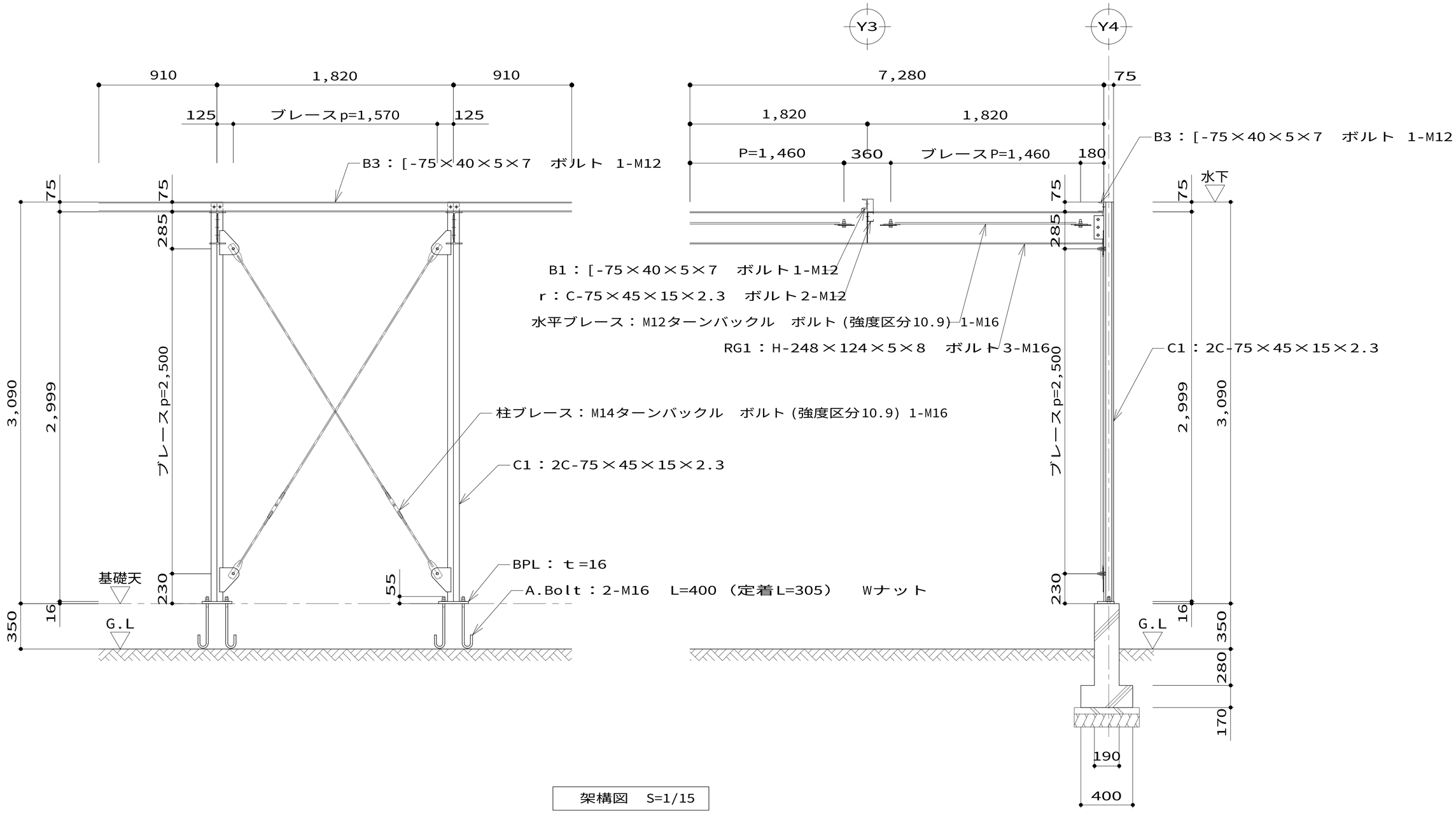


Y4　軸組図　S=1/50



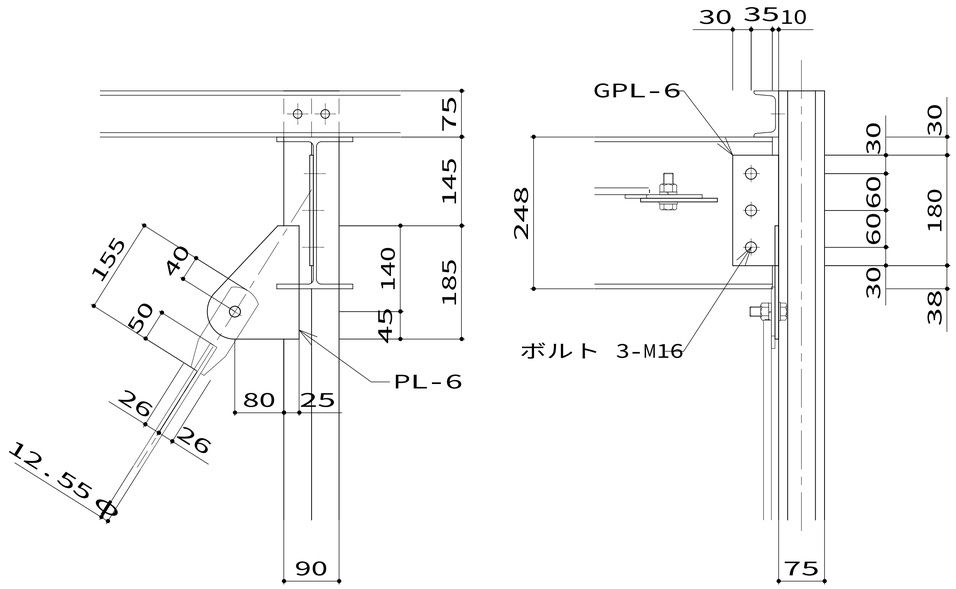
X0　軸組図　S=1/50

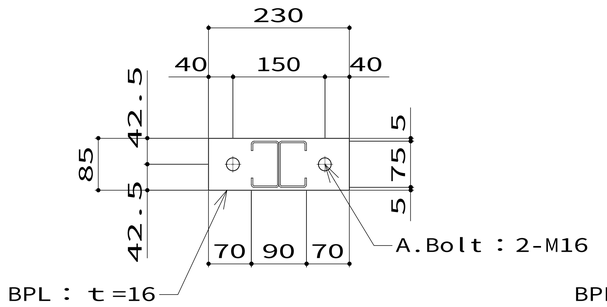
紫波警察署桜町宿舎解体ほか工事	検　図	製図	設計年月	図面内容　（仮眠室棟新築）	縮尺	図面番号	建築構造
設計図			令和7年 1月 (2025年)	軸組図	A1: 1/50 A3: 1/100	S- 08	計通 ○ / 消防 / 構造適判 / 省ｴﾈ適判



架構図　S=1/15

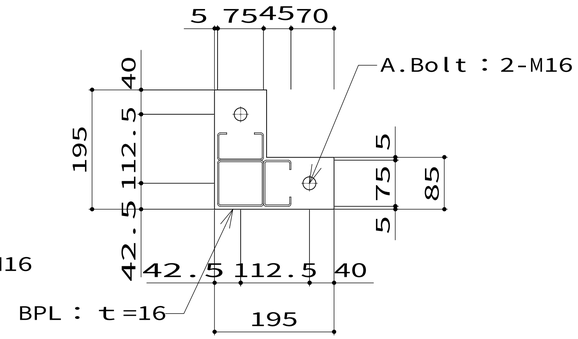
紫波警察署桜町宿舎解体ほか工事			検　図		製図	設計年月	図面内容　（仮眠室棟新築）	縮尺	図面番号 建築構造
設計図						令和7年 1月 (2025年)	架構図	A1: 1/15 A3: 1/30	S- 09
									許認 ○ 消防 構造適判 省ｴﾈ適判





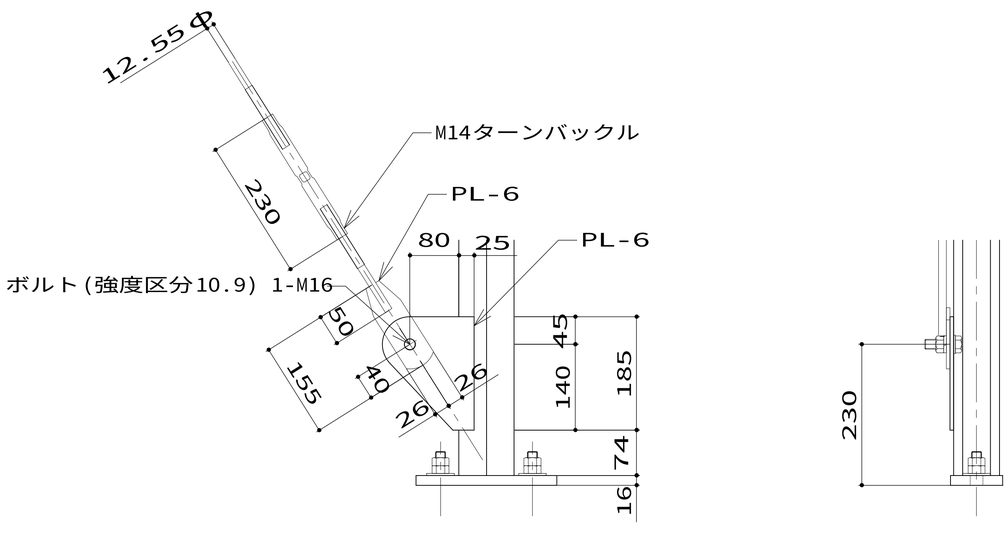
C1：2C-75×45×15×2.3

C1 柱脚詳細図 S=1/5



C2：□-75×75×2.3
＋2C-75×45×15×2.3

C2 柱脚詳細図 S=1/5



鉄骨詳細図 S=1/5

紫波警察署桜町宿舎解体ほか工事			検 図	製図	設計年月	図面内容 （仮眠室棟新築）	縮尺	図面番号 建築構造
設計図					令和7年 1月 (2025年)	鉄骨詳細図、柱脚詳細図	A1: 1/5 A3: 1/10	S- 10
								計通 ○ 消防 構造適判 省ｴﾈ適判

電気設備工事　特記仕様書

Ⅰ．工 事 概 要

1．工 事 名 称　紫波警察署桜町宿舎解体ほか工事

2．工 事 場 所　紫波郡紫波町桜町字大坪５３番１の一部、５３番７の一部

3．建 物 概 要

建 物 名 称	構 造	階 数	延面積（㎡）	消防法施行令（別表１）	耐火種別	有窓・無窓	備 考
仮眠室棟	S造	1	54.09	5項（ロ）			

4．工 事 種 目（⊙印のついたものを適用する。）

工事種目 ＼ 建物別及び屋外	工 事 種 別 仮眠室棟				備 考
⊙ 電 灯 設 備	⊙	•	•	•	
• 動 力 〃	•	•	•	•	
• 電気自動車用充電 〃	•	•	•	•	
• 電 熱 〃	•	•	•	•	
• 雷 保 護 〃	•	•	•	•	
• 受 変 電 〃	•	•	•	•	
• 電 力 貯 蔵 〃	•	•	•	•	
• 発 電 〃	•	•	•	•	
• 構内情報通信網 〃	•	•	•	•	
⊙ 構 内 交 換 〃	⊙	•	•	•	
• 情 報 表 示 〃	•	•	•	•	
• 映 像・音 響 〃	•	•	•	•	
• 拡 声 〃	•	•	•	•	
• 誘 導 支 援 〃	•	•	•	•	
• テレビ共同受信 〃	•	•	•	•	
• 監 視 カ メ ラ 〃	•	•	•	•	
• 駐 車 場 管 制 〃	•	•	•	•	
• 防犯・入退室管理 〃	•	•	•	•	
⊙ 火 災 報 知 〃	⊙	•	•	•	
• 中央監視制御 〃	•	•	•	•	
• 構内配電線路	•	•	•	•	
⊙ 構内通信線路	⊙	•	•	•	
• 電波障害調査	•	•	•	•	

Ⅱ．工 事 仕 様

1．共 通 仕 様

図面及び本特記仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（以下「国交省営繕部」という。）の下記仕様書等のうち〇印が付いたものを適用する。
- ⊙ 公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）　令和４年版　（以下「標準仕様書」という。）
- ⊙ 公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編）　令和４年版　（以下「改修標準仕様書」という。）
- ⊙ 公共建築工事標準図（電気設備工事編）　令和４年版　（以下「標準図」という。）
- ⊙ 電気設備工事監理指針　令和４年版　（以下「監理指針」という。）

2．特 記 仕 様
1）項 目　番号に ○ 印の付いたものを適用する。
2）特記事項　⊙ 印の付いたものを適用する。
⊙ 印の付かない場合は、※ 印の付いたものを適用する。
⊙ 印と ⊗ 印の付いた場合は、共に適用する。

章	項 目	特 記 事 項
⊙ 一般共通事項	①. 適 用 基 準 等	⊙ 標準色（2.5Y 8.5/1）　• メーカーの標準色　• 指定色（　　） ⊙ 営繕工事写真撮影要領（令和５年版）国交省営繕部 ⊙ 営繕工事写真撮影要領（令和５年版）による工事写真撮影ガイドブック電気設備工事編（国交省営繕部）令和５年版（以下「撮影ガイドブック」という。）
	②. 機 材 等	本工事に使用する設備機材等は、設計図書に規定するもの又は、これらと同等のものとする。ただし、これらと同等のものとする場合は、監督職員の承諾を受ける。
	③. 機材の品質性能証明	使用する機材が、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「建築材料・設備機材等品質性能評価事業設備機材等評価名簿（令和４年版）」による場合は、評価書の写しをもって、標準仕様書第１編第１章第４節１．４．２（２）の品質及び性能を有することの証明となる資料の提出を省略することができる。ただし、標準仕様書に規定される製作図、試験成績書等は除く。
	④. 工事実績情報の登録（工事カルテ）	⊙ 適用する。
	⑤. 電 気 保 安 技 術 者	工事現場におく電気保安技術者は、当該施設の電気技術員及び当該施設を保守管理する電気主任技術者等を補佐し、工事期間中の電気工作物の保安及び工事監理の業務を行うものとする。
	⑥. 安 全 衛 生 管 理	工事現場の安全衛生に関する管理は、現場代理人が責任者となり建築基準法、労働安全衛生法等の関係法令等に従ってこれを行う。
	⑦. 工事用の電力・水等	工事用仮設電力・水等の費用、官公署等への諸手続等の費用、及び本電源受電後引渡又は、使用開始までの電気料金は、関係各受注者において協議の上負担すること。
	⑧. 足 場 そ の 他	別契約の関係受注者の定置する足場、さん橋の類は、無償で使用できる。 ただし、別契約の関係受注者の工程に著しいずれのある場合は、この限りでない。
	⑨. 建造物等の破損、修復（事故報告）等	施工により、既存建造物等を破損した場合は、直ちに監督職員へ報告し、発生状況等を記載した資料（施工前後状況写真、図面等）を速やかに監督職員へ提出し、修復方法の指示を受けること。 また、敷地内において、障害物及び危険物を発見した場合、貴重品ならびに埋蔵文化財と思われる物を発見した場合は、監督職員に直ちに報告しその指示を受けること。
	⑩. 発 生 材 の 処 理	（１）引渡しを要するもの ※ 無　• 有（　　） （２）特別管理産業廃棄物 ※ 無　• 有（• ＰＣＢ使用機器　• 蓄電池電解液 ） 関係法令等により適切に処理する。 また、特殊な建設副産物である六フッ化硫黄（SF6）ガス、イオン化式感知器に放射性物質を含むものは、関係法令等により適切に処理する。 （３）上記（１）（２）以外の発生材は、可能な限り中間処理施設等において再利用減量化等を図るものとし、処理方法等は監督職員と協議する。 再利用・減量化等を含めた発生材の処理費用は別途とする。 （４）産業廃棄物税について 本工事で発生する建設副産物のうち、岩手県内の最終処分場（中間処理施設経由を含む）に搬入される産業廃棄物については、岩手県産業廃棄物税が課税されるので適切に処理すること。
	⑪. 建設発生土の処理	• 建設副産物適正処理推進要綱に従い処理する。 構外搬出距離　kmを超え　km以下　（ＤＩＤ地区　• 有　• 無） （土の処分費用のみ別途とする） ⊙ （⊙ 構内　• 構外 ）指示の場所に（• 搬出 ⊙ 敷均し　• 堆積）する。 受入れ施設名・住所（km）

⑫. 完成検査時提出書類
※監督員の指示による

	書類名	製本仕様	規 格	部数	備 考
成果品	⊙ 完成図書	⊙ 市販ファイル	⊙ A4判	⊙ 2	納入仕様書、機器(完成)図、機器取扱説明書、工場・現地試験成績書、出荷証明書、保証書、官公庁届出書類写し、備品リスト(鍵、予備品等)、産業廃棄物処理関係書類(委託契約書、許可証、マニフェスト等)写し、工事関係者・緊急連絡先一覧。一冊の厚さは10cm程度とする。
	⊙ 完成図（修正設計図）	⊙ 二つ折り製本	⊙ A2判	⊙ 2	A1判二つ折り
			⊙ A4判	⊙ 2	A3判二つ折り
	⊙ 施工図	⊙ 二つ折り製本	⊙ A2判	⊙ 2	A1判二つ折り
			⊙ A4判	⊙ 2	A3判二つ折り
	⊙ 工事写真	⊙ 市販ファイル	⊙ A4判	⊙ 1	営繕工事写真撮影要領等による。
	⊙ 完成写真	⊙ 市販ファイル	⊙ A4判	⊙ 1	監督職員の指示による。
	⊙ 材料検収簿	⊙ 市販ファイル	⊙ A4判	⊙ 1	補助監督員が認印したもの。
	⊙ 保守管理案内書	⊙ 市販ファイル	⊙ A4判	⊙ 2	日常保守管理案内書（使用者が容易に理解できるもの）
	⊙ 電子納品	⊙ CD-R又はDVD-R		⊙ 2	完成図(修正設計図)及び施工図のCADデータ(元データ、JWW、DXF、PDF等) 完成写真、工事写真のデータ(任意様式) ※「岩手県電子納品ガイドライン」による。
提示	⊙ 工事関係書類	⊙ 市販ファイル	⊙ A4判	⊙ 1	施工体制台帳・体系図、下請契約書類、日報、安全訓練記録等工事で作成、使用した書類一式。

⑬. 完成検査時必携工具等

⊙ ⊕ ⊖ ドライバー　⊙ プライヤー　⊙ ペンチ　⊙ 鋼性テープ
⊙ アルミ製脚立　⊙ 懐中電灯　⊙ テスター　⊙ メガー
⊙ 検電器　⊙ 接地抵抗計　⊙ 施工図　⊙ 機器製作図
⊙ 照度計　• 電界強度測定器　⊙ カラーテレビ

⑭. 耐 震 施 工

設備機器の固定は、「建築設備耐震設計・施工指針2014年版（独立行政法人建築研究所監修）及び「建築電気設備の耐震設計・施工マニュアル改訂第2版」による。
なお、本工事の施設分類は（ • 特定の施設 ⊙ 一般の施設）とし、設計用標準水平震度（Ｋｓ）は下表による。

設置場所	特定の施設 重要機器	特定の施設 重要機器以外	一般の施設 重要機器	一般の施設 重要機器以外
上層階・屋上及び塔屋	2.0（2.0）	1.5（2.0）	1.5（2.0）	1.0（1.5）
中 間 階	1.5（1.5）	1.0（1.5）	1.0（1.5）	0.6（1.0）
1階及び地下階	1.0（1.0）	0.6（1.0）	0.6（1.0）	0.4（0.6）

（注）（ ）内数値は、防震装置付き機器などの場合を示す。
重要度の高い設備機器
⊙ 配電盤　• 発電装置　• 直流電源装置
• 交流無停電電源装置　• 交換機　⊙ 自動火災報知設備
• パワーコンディショナ

⑮. 他工事との取合い

⊙ 梁貫通部の補強及びスリーブ	補強	• 本工事	⊙ 建築工事
	スリーブ	⊙ 本工事	•
⊙ 床、壁の仮枠及び補強	仮枠	⊙ 本工事	•
	補強	• 本工事	⊙ 建築工事
⊙ 天井埋込形器具	墨出し	⊙ 本工事	•
	下地切込	⊙ 本工事	• 建築工事
	仕上げ材切込	⊙ 本工事	• 建築工事
	補強	• 本工事	• 建築工事
• 埋込形分電盤、端子盤、	仮枠	• 本工事	•
プルボックス	補強	• 本工事	• 建築工事
⊙ 換気扇	壁用換気扇	• 本工事	⊙ 機械工事
	天井扇及び換気筒	• 本工事	⊙ 機械工事
	空調換気扇	• 本工事	⊙ 機械工事
	有圧換気扇	• 本工事	⊙ 機械工事
	電源供給	⊙ 本工事	•
• 浄化槽	電源供給	• 本工事	•
	制御盤	• 別途工事	•
	制御盤以降の配管	• 本工事	• 機械工事
	〃 配線、結線	• 本工事	• 機械工事
• 屋外受変電設備	基礎	• 本工事	• 建築工事
• 自立形制御盤	基礎	• 本工事	• 建築工事
• 自立形アンテナ	基礎	• 本工事	• 建築工事
⊙ 天井点検口		• 本工事	⊙ 建築工事
• 屋外キュービクル受変電設備用消火器		• 本工事	• 支給品
• 同上用消火器ボックス		• 本工事	• 支給品

⑯. フラッシュプレート　⊙ 金属製（ステンレス、新金属も含む）　• 樹脂製

⑰. 取 外 し 機 器　取外し前に、機器が接続されている回路の絶縁抵抗を測定して異常の有無を確認すること。また、取外し機器を再使用する場合は、清掃及び絶縁抵抗を測定し異常のないことを確認のうえ、再取付けをすること。

18. ハ ン ド ホ ー ル　• 現場打ちハンドホール　• ブロックハンドホール
鉄蓋　• 県マーク入り　• ㊎ マーク入り
• 重荷重型防水　• 中荷重型防水

⑲. 組 立 保 険 等　本工事の受注者は、工事期間中工事目的物及び工事資材に対して、下記より組立保険等に加入し、その保険証書の写しを監督職員に提出する。
加入金額　請負金額の１００％
加入時期及び期間　資材搬入前から工事完成後３０日まで
保険契約締結後に請負代金額の増額または工期延長があった場合は、保険契約を変更すること。

⑳. 経 年 検 査　⊙ なし　• あり

21. 施 工 条 件　• 本工事は建物を使用しながらの工事であること。

㉒. そ の 他　⊙ 防火区画及び防火上主要な間仕切りの貫通部分は国土交通省大臣認定工法による防火処理を施すこと。

章	項 目	特 記 事 項
⊙ 電灯設備	①. 電 気 方 式	幹線　単相 ３ 線式 ２００／１００Ｖ　５０Ｈｚ 分岐　単相 ２ 線式　１００Ｖ 分岐　単相 ２ 線式　２００Ｖ
	②. ＬＥＤ照明器具	• 公共施設用照明器具　• 市販品　⊙ 別図による ※ ＪＩＳ、ＪＩＬ適合
	3. 照 度 測 定 試 験	一般照明の照度測定は、明るさセンサが設置される部屋がセンサ１個につき1ヶ所以上（明るさセンサの設定値共）設置されない部屋は１ヶ所以上の設定を行う。
	4. 非 常 用 照 明 器 具	※ 電池内蔵形　• 電源別置形
	5. ハイテンションアウトレット	※ 飛び出し形　• 外部固定形 ※ 銅合金製　• アルミ製
	6. 予 備 配 管	埋込形分電盤からの立上り予備配管は、予備の配線用遮断器４個以下の場合（２５）を１本、５個以上の場合（２５）を２本、天井まで立上げる。
• 動力設備	1. 電 気 方 式	幹線　三相３線式　２００Ｖ　５０Ｈｚ 分岐　三相３線式　２００Ｖ
	2. 警 報 盤	※ 壁掛形（電源装置　※ 内蔵　• 別置）
	3. 電磁開閉器用押釦（遠方操作用）	※ 埋込連用形配線器具　•
	4. 機 器 へ の 接 続	電動機などへの接続は本工事とする。
	5. 電 動 機 等 の 接 地	図示以外は金属管接地とする。
• 電熱設備	1. 電 気 方 式	幹線　相 線式　Ｖ　５０Ｈｚ 分岐　単相 ２線式　２００Ｖ
	2. 施工場所及び面積	•表玄関ポーチ　約　㎡　• •トイレ（電気暖房機）　約　㎡
• 受変電設備	1. 電 気 方 式	高圧　三相３線式　６ｋＶ　５０Ｈｚ 低圧　三相３線式　２００Ｖ 低圧　単相３線式　１００Ｖ／２００Ｖ
	2. 配 電 盤	※ 屋内用　• 屋外用 ※ キュービクル式配電盤　• 高圧スイッチギヤ
	3. 主 遮 断 装 置	※ 限流ヒューズ及び高圧負荷開閉器（ＰＦ－Ｓ）　• 高圧交流遮断器（ＣＢ） 定格遮断電流　ｋＡ
	4. 設 備 容 量	変圧器総容量　ｋＶＡ
	5. 進相用コンデンサ	※ 低圧　• 高圧
	6. 自動力率制御装置	※ 無効電力検出方式　• 力率検出方式
• 電力貯蔵設備	1. 直 流 電 源 装 置	※ 非常用照明器具電源、受変電設備制御電源共用　• 受変電設備専用　• 非常用照明器具専用
	2. 交流無停電電源設備（ＵＰＳ）	用途（　　） 容量　ｋＶＡ
• 発電設備	1. ディーゼル発電装置	電気方式　三相３線式　５０Ｈｚ　電圧　Ｖ　定格出力　ｋＶＡ 原動機 定格出力　ＫＷ以上　始動方式　※ 電気式　• 空気式 ｛　ＰＳ以上｝　冷却方式　※ ラジエータ式　• 水冷循環式
	2. ガスタービン発電装置	電気方式　三相３線式　５０Ｈｚ　電圧　Ｖ　定格出力　ｋＶＡ 原動機 定格出力　ＫＷ以上　始動方式　※ 電気式　• 空気式 ｛　ＰＳ以上｝
	3. 燃 料	種類　• 軽油　• 灯油　• Ａ重油 ※燃料小出槽　ℓ 主貯油槽（地下）　※ なし　• あり（• 別途　• 本工事）
	4. 太陽光発電装置	太陽電池アレイ公称出力　ｋＷ パワーコンディショナ　単相 ３線式 定格出力　ｋＷ
• 雷保護設備	1. 受 雷 部	• 突針　• むね上導体　• 笠木（別途）など
	2. 避 雷 導 線	• 引下げ導線　※ 建築構造体利用
	3. 接 地 極	※ 接地極埋設　• 建築構造体利用
⊙ 構内交換設備	1. 電 話 交 換 機	形式　• ボタン電話装置　• ＰＢＸ　• ＩＰＰＢＸ　• ＶｏＩＰサーバー 回線数　内線　／　回線　局線　／　回線
	2. 電話機への配線	電話機１台につき、下記のものを見込む ・ ＥＭ－ＴＩＥＦ０．６５－２Ｃ （•　ｍ　•　ｍ） ・ ＥＭ－ＥＢＴ ０．４ －２Ｐ （•　ｍ　•　ｍ） ・ ワイヤープロテクタ（樹脂製　外形寸法約　ｍｍ）　ｍ
	3. ローテーションアウトレット（亀甲形）	※ 一般電話用　個（• 納入する　• 取り付ける） ※ 銅合金製　• アルミ製
	④. 保 安 器 用 接 地	※ 本工事　• 別途工事
• 通信・情報設備	1. 構内情報通信網設備	種類（• １０ＢＡＳＥ－Ｔ　• １００ＢＡＳＥ－ＴＸ　• １０００ＢＡＳＥ－Ｔ • ＡＴＭ　•　）
	2. 情 報 表 示 設 備	• 情報表示盤（• ＬＥＤ式　• 磁気浮動式　• プラズマ式　• 液晶式） • 親時計　回線　※ 壁掛形　• 自立形 （• 電子式チャイム組込み　• プログラムタイマー組込み）
	3. 映像・音響設備	• 増幅器　Ｗ • ＶＴＲ　（※ Ｓ－ＶＨＳ　• ＤＶ　•　） • プロジェクタ　（※ 前面投写式　• 背面投写式）
	4. 拡 声 設 備	• 増幅器　Ｗ　※ 卓上形　• キャビネットラック形 ・ 壁掛型
	5. 誘 導 支 援 設 備	• 身体障害者用インターホン • トイレ等呼出し装置 • 音声誘導装置
	6. 呼 出 し 設 備	• インターホン（• 受付用　•　）
	7. テレビ共同受信設備	• テレビアンテナ（• ＡＶ－　• ＡＵ－　• ＢＳＡ－　• ＣＳＡ－ ） • 地上波アンテナマスト（※ 壁面取付形　• 自立形　• ポール取付 ） • ＢＳ用アンテナマスト（• 壁面取付形　• 自立形）　• 有線テレビ
• 通信・情報設備	8. 監視カメラ設備	• 白黒方式　• カラー方式
	9. 防 犯 設 備	接地工事（※ 本工事　• 別途）　• 配管　• 配線　• 機器
	10. 入退室管理設備	• テンキー式　• 磁気カード式　• ＩＣカード式　• バイオメトリクス式
⊙ 火災報知設備	①. 自動火災報知装置	• 受信機　Ｐ形１級　回線　• 壁掛形　• 自立形 アドレス • 単独　•複合盤（自火報５６回線　自動閉鎖２５回線　ガス漏れ　回線　警報　回線） • 副受信機　回線 ⊙ 機器収容箱 ⊙ 専用形（• 埋込形 ⊙ 露出形）　• 屋内消火栓箱に組込み
	2. 非 常 警 報 装 置	• 非常ベル（自動式サイレンを含む） • 非常放送装置
	3. 自 動 閉 鎖 装 置	• 連動制御器　回線（遠方復帰機構　回線） • 単独（• 壁掛形　• 自立形）　• 火報受信機などとの複合盤 • 自動閉鎖機構 • 防火戸用（本工事、電磁式又はラッチ式、ＤＣ２４Ｖ、０．６Ａ以下） • 防煙ダンパ用（別途、瞬時通電式又は電動式、ＤＣ２４Ｖ、０．６Ａ以下、遠方復帰機構（電動式）、ＤＣ２４Ｖ、０．７Ａ以下） • 防火シャッタ用（別途、ＤＣ２４Ｖ、０．６Ａ以下） • 自動開放機構　• 排煙ダンパ（別途、排煙機運転用連動機構付）
	4. ガス漏れ警報装置	• 受信機　回線（• 都市ガス用　• 液化石油ガス用） • 単独（• 壁掛形　• 自立形）　• 火報受信機などとの複合盤
	5. 住宅用火災警報装置	• 煙式　• 熱式
• 中央監視制御設備	1. 監視制御対象設備	• 動力設備　• 受変電設備　• 発電設備　• 火災報知設備
	2. 表 示 操 作 盤	• 壁掛形　• 自立形 組込み機器
	3. 監 視 制 御 装 置	構成機器　• グラフィックパネル　• ミニグラフィックパネル • プラズマディスプレイ　• 操作卓 • ＣＲＴディスプレイ　（• キャラクタ 形　• グラフィック 形） • 中央処理装置　• 伝送端末局（子局） • 作表用印字装置　• 雑印字装置　形
• 構内配電線路	1. 工 事 範 囲	• 管路　• 配線　• 機器類
	2. 電 気 方 式	• 高圧　三相３線式　６ｋＶ　５０Ｈｚ • 低圧　単相３線式　２００／１００Ｖ • 低圧　三相３線式　２００Ｖ • 低圧　単相２線式　１００Ｖ
	3. 敷 設 方 法	※ 地中埋設式　• 架空線式
	4. 柱 上 機 器	• 高圧負荷開閉器　※ 一般用　• 耐重塩じん用 ※ 地絡継電器付き（※ 方向性　• 無方向性） • 避雷器　※ 一般用　• 耐塩用 • 高圧カットアウト、碍子など　※ 一般用　• 耐塩用
	5. 高圧ケーブルの端末処理	屋外側　※ 一般用　• 耐塩用 ※ 処理者銘板取付（屋内外共、線名、作業日、氏名を表示）
	6. そ の 他	東北電力（株）外線工事基準（架空線編）に準ずる。
	7. 外 灯 設 備	定格電圧　Ｖ　Ｗ
⊙ 構内通信線路	①. 工 事 範 囲	• 管路　⊙ 配線
	②. 用 途	⊙ 電話用　• 時計　• 拡声用　⊙ 火災報知用
	③. 敷 設 方 法	※ 地中埋設式　• 架空線式
• 電波障害調査	1. 目 的	• 事前調査　• 事後調査
	2. 調 査 項 目	• 電界強度測定（各チャンネル毎） • 画像評価画像撮影（各チャンネル毎）
	3. 調 査 地 点	• 路上　ポイント　•　ポイント
	4. 調査チャンネル数	• ＶＨＦ　チャンネル　• ＵＨＦ　チャンネル
	5. 提 出 書 類	• 報告書（写真共）　部

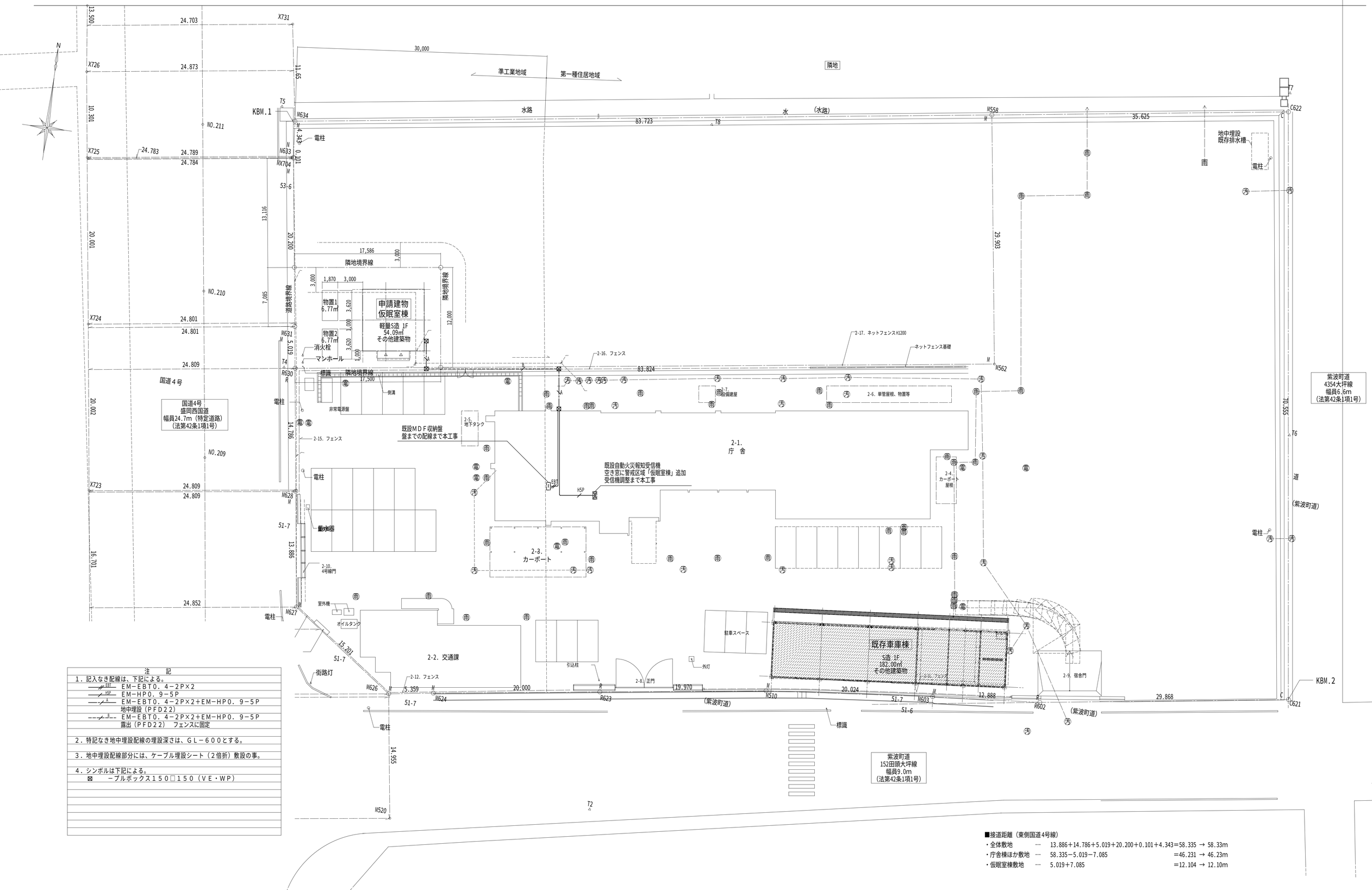
「機器取付高さ」は、下記を標準とする。ただし、これによりがたい場合は監督職員と協議する。

	機 器	測 点	取付高（mm）
共通	取引用計器	地上～窓中心	約1,800
	引込線引留め高	地上～引込点	
電灯	分 電 盤（壁掛形）	床上～中心	1,500（上端2,000以下）
	スイッチ （一般）	床上～中心	1,300
	スイッチ （和室）	床上～中心	1,200
	コンセント（一般）	床上～中心	300
	コンセント（和室）	床上～中心	200
	コンセント（台上）	台上～下端	100
	コンセント（ファン用）	床上～下端	ファン下端
	コンセント（厨房）	床上～中心	800~1,000
	コンセント（車庫）	床上～中心	1,300
	コンセント（機械室）	床上～中心	500~1,000
	コンセント（屋外）	地上～中心	1,000~1,300
	ブラケット（一般）	床上～中心	2,100~2,300
	ブラケット（踊場）	床上～中心	約2,500
	ブラケット（鏡上）	鏡上端～中心	150
	避難口誘導灯	床上～下端	1,500以上
	廊下通路誘導灯	床上～上端	1,000以下
動力	壁掛形制御盤	床上～中心	1,500（上端2,000以下）
	開閉器箱	床上～中心	1,500
	電磁開閉器用押ボタン	床上～中心	1,300
	Ｔト出ボタン（便所用）	床上～中心	900
	壁付インターホン（親機）	床上～中心	1,300
	壁付インターホン（玄関子機）	床上～中心	1,100
	廊下表示灯（復旧ボタン付）	床上～中心	1,300
	「使用中」「施錠中」表示灯	床上～中心	1,500
	スイッチ	床上～中心	1,100

	機 器	測 点	取付高（mm）
電話	引込線引留め高	地上～引込点	
	集合保安器箱	天井～上端	200
	端子盤（廊下、室内）	床上～下端	300
	端子盤（ＥＰＳなど）	床上～中心	1,500
	壁付アウトレット（一般）	床上～中心	300
	壁付アウトレット（和室）	床上～中心	200
時計・拡声	壁掛形親時計	床上～中心	1,500（上端2,000以下）
	壁付子時計	床上～中心	2,300
	壁付形スピーカ	床上～中心	2,300
	壁付アッテネータ	床上～中心	1,300
警報・表示等	表 示 盤	床上～中心	2,300
	壁付発信機	床上～中心	1,300
	ベル，ブザー，チャイム	床上～中心	2,300
	壁付押ボタン（一般）	床上～中心	1,300
インターホン	壁付インターホン（一般）	床上～中心	1,300
	壁付アウトレット（一般）	床上～中心	300
	壁付アウトレット（和室）	床上～中心	200
テレビ	機器収容箱	天井～上端	200
	直列ユニット（一般）	床上～中心	300
	直列ユニット（和室）	床上～中心	200
火災報知	受 信 機	床上～操作部	800~1,500
	副受信機	床上～操作部	800~1,500
	機器収容箱	床上～操作部	800~1,500
	発 信 機	床上～操作部	800~1,500
	表 示 灯	床上～中心	2,100
	警報ベル	床上～中心	2,300
	液化石油ガス用検知器	床上～上端	250
	都市ガス用検知器（軽質）	天井～上端	150
	都市ガス用検知器（重質）	床上～上端	250

紫波警察署桜町宿舎解体ほか工事	検 図	製図	設計年月	図面内容 （仮眠室棟新築）	縮尺	図面番号 電気設備
設計図			令和7年1月（2025年）	電気設備工事特記仕様書	A1: NO SCALE / A3: NO SCALE	E- 01

計通　消防　構造適判　省ｴﾈ適判



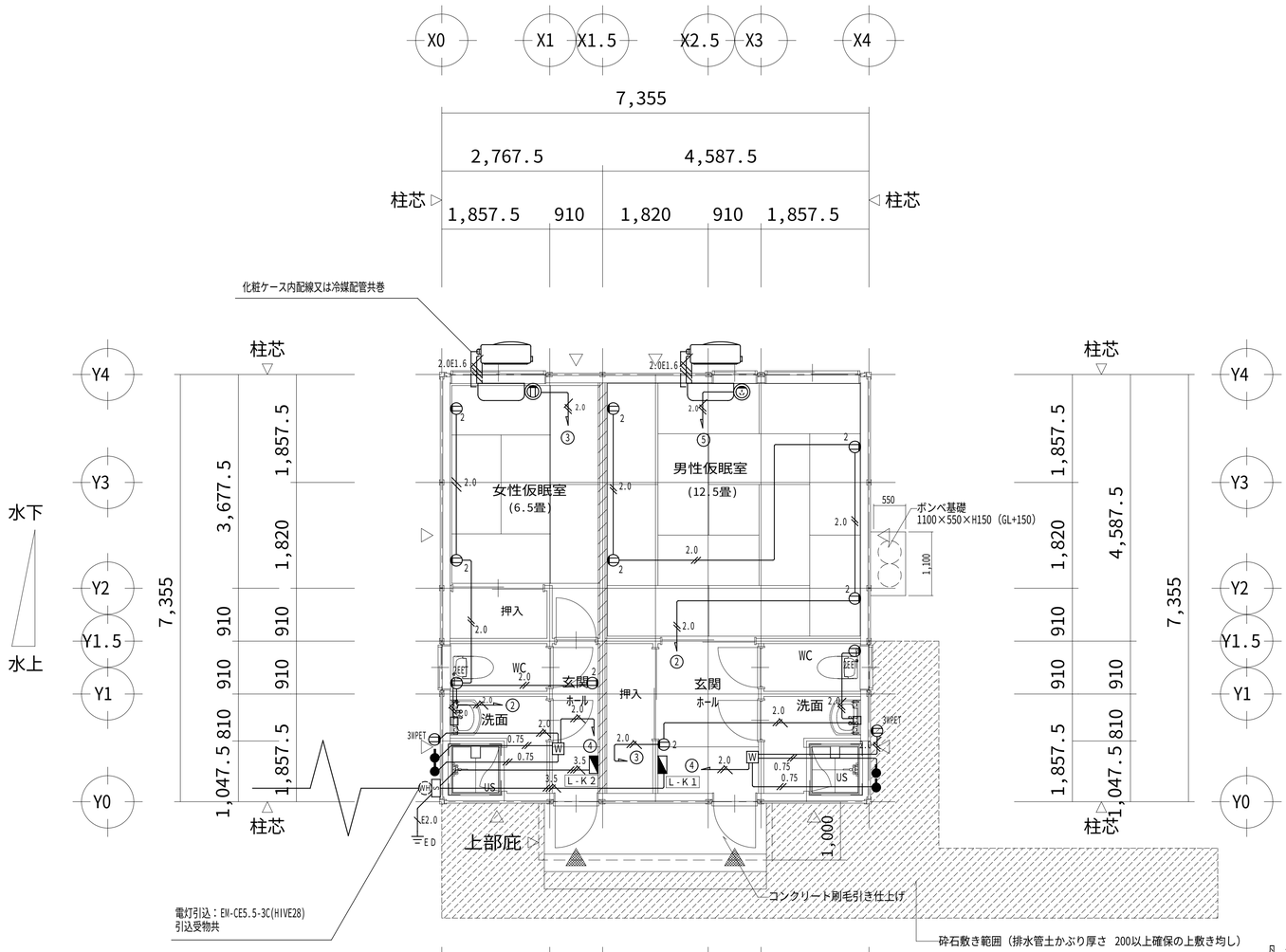
■接道距離（東側国道4号線）

・全体敷地 … 13.886+14.786+5.019+20.200+0.101+4.343=58.335 → 58.33m

・庁舎棟ほか敷地 … 58.335−5.019−7.085 =46.231 → 46.23m

・仮眠室棟敷地 … 5.019+7.085 =12.104 → 12.10m

紫波警察署桜町宿舎解体ほか工事	検 図	製図	設計年月	図面内容 （仮眠室棟新築）	縮尺	図面番号	電気設備
設計図			令和7年1月（2025年）	配置図、既設庁舎電気設備改修図	A1: 1/200 A3: 1/400	E- 02	計通 ○ 消防 ○ 構造適判 省ｴﾈ適判



平面図　S=1/50

特 記

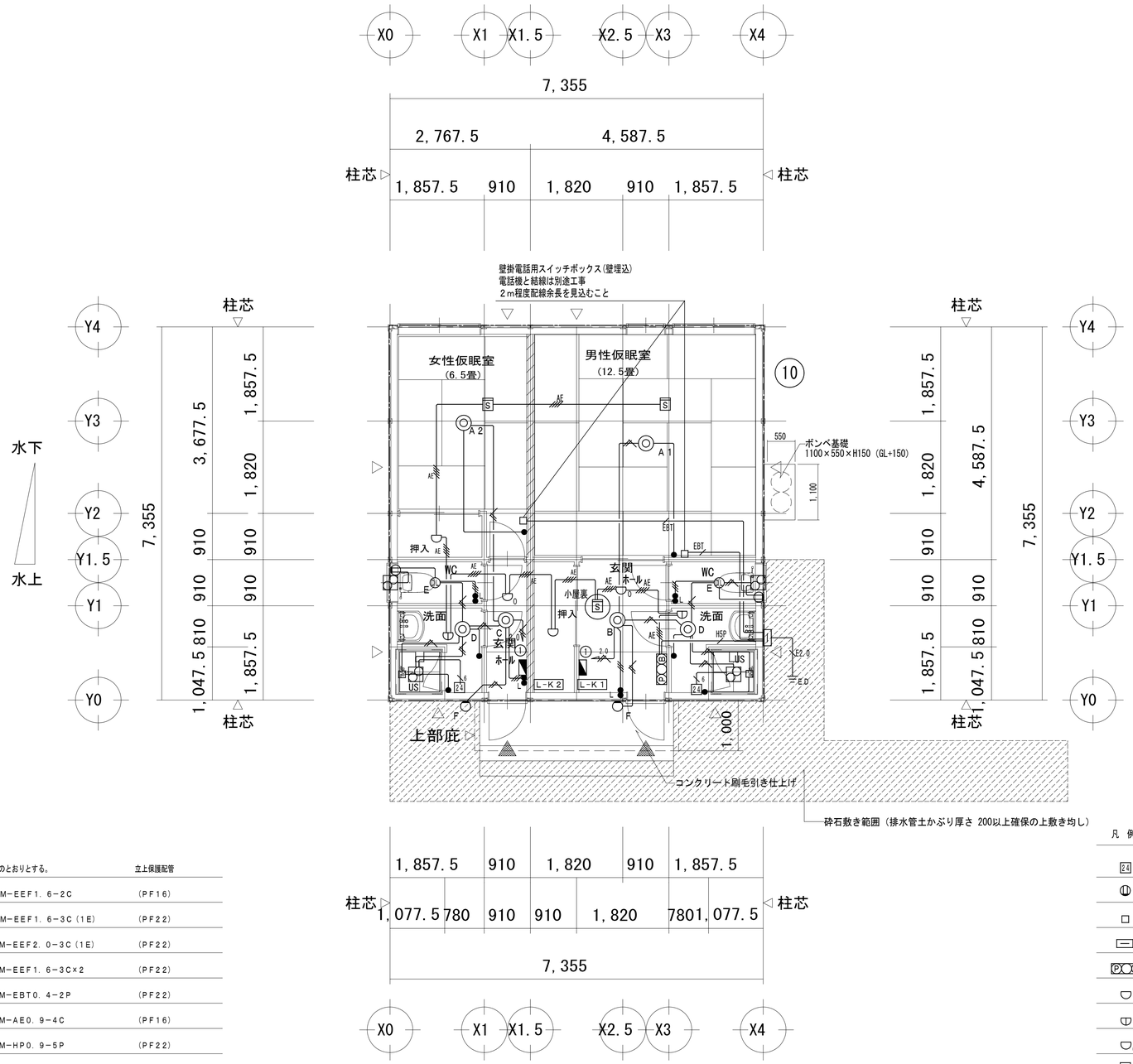
1. 特記なき配線記号は以下のとおりとする。

		立上保護配管
2.0	EM-EEF2.0-2C	(PF22)
2.0	EM-EEF2.0-3C(1E)	(PF22)
2.0E1.6	EM-EEF2.0-3C+IE1.6	
3.5	EM-CE3.5-4C(1E)	(PF22)
0.75	EM-MEES0.75-2C	(PFD16)
E2.0	EM-IE2.0	(VE16)

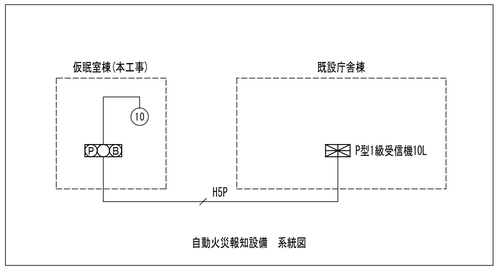
凡 例

MPS	電力計（電気供給会社支給）
S	引込開閉器盤(樹脂製防水型、MCCB3P40AT入)
□	スイッチボックス1個用 VE
2ET	埋込コンセント2P15A−2 E・ET付
2	埋込コンセント2P15A−2
3WPET	防水コンセント2P15A−3 ET付
	埋込コンセント2P20A−1 E付 (エアコン用)
	埋込コンセント2P20A−1 E付(250V)(エアコン用)
W	電動水抜制御器2回線(機械設備支給、2個用スイッチボックス共)
	電動水抜栓(機械設備)

紫波警察署桜町宿舎解体ほか工事	検 図	製図	設計年月	図面内容 (仮眠室棟新築)	縮尺	図面番号	電気設備
設計図			令和7年1月 (2025年)	幹線設備・コンセント設備図	A1: 1/50 A3: 1/100	E- 03	計通 消防 構造適判 省エ適判



平面図　S=1/50



特　記

1. 特記なき配線記号は以下のとおりとする。

		立上保護配管
	EM-EEF1.6-2C	(PF16)
	EM-EEF1.6-3C(1E)	(PF22)
2.0	EM-EEF2.0-3C(1E)	(PF22)
6	EM-EEF1.6-3C×2	(PF22)
EBT	EM-EBT0.4-2P	(PF22)
AE	EM-AE0.9-4C	(PF16)
H5P	EM-HP0.9-5P	(PF22)

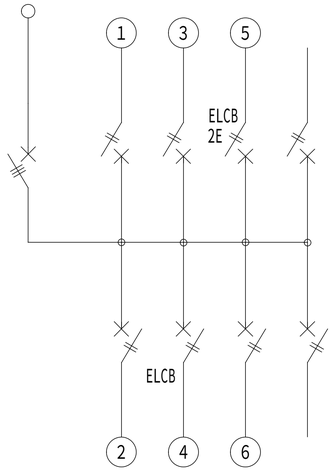
凡　例

24	24時間スイッチ(機械設備支給)
	埋込コンセント2P15A-1
	スイッチボックス1個用 VE
	端子盤(樹脂製屋側型、端子台5P内蔵、鍵付)
P B	総合盤(単独型・露出型)
	定温式スポット型感知器(1種・露出型)
	定温式スポット型感知器(1種・露出型防水型)
0	定温式スポット型感知器(特種・露出型)
S	煙感知器(2種・露出型)
No	火災報知設備警戒区域番号

紫波警察署桜町宿舎解体ほか工事			検　図		製図	設計年月	図面内容　(仮眠室棟新築)	縮尺	図面番号 電気設備
						令和7年1月	電灯設備・弱電設備図	A1: 1/50	E- 04
設計図						(2025年)		A3: 1/100	計通 ○ 消防 ○ 構造適判 省ｴﾈ適判

Ｌ－Ｋ１盤　　樹脂製ホーム盤

AC
1φ3W 200／100V 50Hz
(4，859VA)



ED (ELB)
◎

回路NO	負荷名称	負荷容量
①	電灯換気扇	99VA
③	コンセント	510VA
⑤	エアコン	3350VA (低温暖房時)

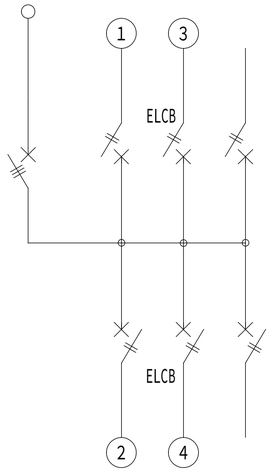
200V

回路NO	負荷名称	負荷容量
②	コンセント	600VA
④	コンセント	300VA
⑥	予　備	

主幹開閉器	ELCB3P2E 50／30AT
分岐開閉器	SB2P1E 30／20AT × 4 小型
	ELCB2P1E 30／20AT × 1 小型
	ELCB2P2E 30／20AT × 1 小型

Ｌ－Ｋ２盤　　樹脂製ホーム盤

AC
1φ3W 200／100V 50Hz
(3，017VA)



ED (ELB)
◎

回路NO	負荷名称	負荷容量
①	電灯換気扇	77VA
③	エアコン	1980VA (低温暖房時)

回路NO	負荷名称	負荷容量
②	コンセント	660VA
④	給湯器・電動水抜	300VA

主幹開閉器	ELCB3P2E 50／30AT
分岐開閉器	SB2P1E 30／20AT × 2 小型
	ELCB2P1E 30／20AT × 2 小型

照明姿図

A 1	LED 44.1W (5,499lm) シーリングライト	B	LED 15.0W (1760lm) 5000K
A 2	LED 26.8W (4,299lm) シーリングライト		

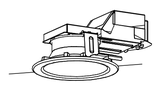
6500K～2700K 調光・調色可能型
専用リモコン同梱

C	LED 9.6W (850lm) 5000K	D	LED 10.7W (965lm) 5000K

防湿・防雨型

E	LED 4.5W (490lm) 5000K	F	LED 7.1W (515lm) 2700K

拡散配光型
高気密ＳＢ型



防雨型
センサ付

※品番・消費電力値は参考とする
※照明器具の消費電力は、JIS C8105-3　の試験・測定法による

紫波警察署桜町宿舎解体ほか工事	検　図	製図	設計年月	図面内容　(仮眠室棟新築)	縮尺	図面番号	電気設備
設計図			令和7年1月 (2025年)	分電盤結線図・照明参考姿図	A1: NO SCALE A3: NO SCALE	E- 05	計通 ○ / 消防 / 構造適判 / 省ｴﾈ適判

機械設備工事 特記仕様書

I．工　事　概　要

1．工事名称　紫波警察署桜町宿舎解体ほか工事
2．工事場所　紫波郡紫波町桜町字大坪53番1の一部、53番7の一部
3．建物概要

建物名称	構造	階数	延面積（㎡）	消防法施行令（別表）	備考
仮眠室棟	S造	1	54.09㎡		

4．工事種目（○印のついたものを適用する）

工事種目 ＼ 建物別及屋外	屋内	屋外							備考
⊙ 空気調和設備	○								
⊙ 換気 〃	○								
・排煙 〃									
・自動制御 〃									
⊙ 衛生器具 〃	○								
⊙ 給水 〃	○	○							
⊙ 排水 〃	○	○							
⊙ 給湯 〃	○	○							
・消火 〃									
⊙ ガス 〃	○	○							
・厨房機器 〃									
・し尿浄化槽 〃									
・撤去工事									
・発生材処理									

5．設備概要（○印のついたものを適用する）

項目		
空気調和方式等	⊙ 空気調和	⊙全空気方式　・ファンコイル-ダクト併用方式
		⊙パッケージ方式
	・温風暖房	・温風暖房機
		・全空気方式　・ファンコイル-ダクト併用方式
	・直接暖房	・蒸気暖房　・温水暖房
給水方式	⊙ 水道直結方式　・高置タンク方式　・加圧送水方式	
排水方式	建物内の汚水及び雑排水　（⊙ 分流式　・合流式）	
	放流先　汚水　⊙ 下水道直接放流　・し尿浄化槽	
	雑排水　⊙ 下水道直接放流　・し尿浄化槽　・側溝	
給湯方式	⊙ 局所式　・中央式	
消火設備方式	・屋内消火栓　・連結送水管　・屋外消火栓　・スプリンクラー	
	・二酸化炭素消火　・連結散水　・粉末消火　・泡消火　・その他	

II．工　事　仕　様

1．共　通　仕　様

図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）（令和 4年版）、公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）（令和4年版）及び公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）（令和 4年版）による。

2．特　記　仕　様

1）項　目　番号に○印のついたものを適用する。
2）特記事項　⊙ 印の付いたものを適用する。
⊙ 印の付かない場合は ※ 印の付いたものを適用する。
⊙ 印と ㊟ 印の付いた場合は、共に適用する。

一般共通事項

項目	特記事項
①. 適用基準等	⊙工事写真の撮り方　建築設備編（令和 5年版）国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 ⊙機械設備工事監理指針（令和 4年版）　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
2．電気保安技術者	工事現場におく電気保安技術者は、当該施設の電気技術員及び当該施設を保守管理する東北電気保安協会等を補佐し、工事期間中の電気工作物の保安及び工事監理の業務を行うものとする。
③. 技能者	⊙ 配管施工技能士　・熱絶縁施工技能士　・塗装施工技能士 ・冷凍空気調和機器施工技能士　・建築板金施工技能士
④. 機材	本工事に使用する機器及び材料は新品とし、設計図書に定める品質及び性能を有するものとするほか、同等品以上とする。ただし、同等品以上とする場合は監督員の承諾を受ける。
⑤. 機材等の検査及び試験	検査及び試験を行うべき機材等は、標準仕様書による。
⑥. 工事用水の電力・水・その他	工事用仮設電力・水等の費用、官公署等への諸手続等の費用、及び本電源受電後引渡し又は、使用開始までの電気料金は、関係各請負業者において協議の上負担すること。
⑦. 足場その他	※別契約の関係請負者の定置する足場、さん橋の類は、無償で使用できる。 ・本工事で定置する。
⑧. 工事用仮設　工事用駐車場　資機材置場	⊙ 構内に作ることが　⊙ 出来る　・出来ない ⊙ 構内に駐車　⊙ 出来る　・出来ない ⊙ 構内に作ることが　⊙ 出来る　・出来ない
⑨. 残土処理	※ 構外搬出適切処理　・構内指示の場所　・構内指示の場所にたい積
⑩. 発生材の処理	イ）引渡しを要するもの　※ なし　・あり（　　） ロ）特別管理産業廃棄物　※ なし　・あり（　　） ハ）上記イ）ロ）以外の発生材は、可能な限り中間処理施設等において再利用・減量化等を図るものとし、処理方法等は監督員と協議する。 ニ）現場において再利用を図るもの ＿＿＿＿ 現場における分別ー保存材は、機器・配管・ダクト等と分別する。 ホ）本工事で発生する建設廃棄物のうち、岩手県内の最終処分場（中間処理施設経由を含む）に搬入される産業廃棄物については、岩手県産業廃棄物税が課税されるので適正に処理すること。
⑪. 総合調整	各機器の個別運転調整後に下記の総合調整を行う。 ⊙ 風量調整　⊙ 水量調整　・室内外空気の温湿度測定 ・室内気流及び塵埃の測定　・騒音の測定　⊙ 初期運転状態の記録 ・機器の絶縁抵抗の測定
⑫. 容量の表示	イ）電動機出力などは、表示された出力以下の容量とする。 ロ）冷温熱源機器等及び防災機器の能力、容量はその数値以上とする。 ハ）電源の周波数は、５０Ｈｚとする。
⑬. 耐震施工	耐震措置の計算及び施工方法は、次の事項以外すべて建築設備耐震設計施工指針（独立行政法人　建築研究所監修最新版）による。

設置場所	設計用標準水平震度 特定の施設 重要機器	特定の施設 一般機器	一般の施設 重要機器	一般の施設 一般機器
上層階、屋上及び塔屋	2.0(2.0)	1.5(2.0)	1.5(2.0)	1.0(1.5)
中間階	1.5(1.5)	1.0(1.5)	1.0(1.5)	0.6(1.0)
1階及び地階	1.0(1.0)	0.6(1.0)	0.6(1.0)	0.4(0.6)

注1）設置場所の区分は標準仕様書による。
注2）（　）内の設備は防震支持の機器の場合に適用する。
イ）本工事の施設は、（※一般の施設　・特定の施設）とする。
ロ）地域係数は、１.０とする。
ハ）１００kg以下の軽量な機器（標準仕様書の適用を受けるものは除く）においても耐震を考慮し、据付又は取付を行うものとするが、前記指針の方法によらなくてもよい。
ニ）重要機器類（高架タンク、受水タンクは機器表による。）

項目	特記事項
⑭. はつり	既存のコンクリート部の床、壁の配管貫通部等の穴明けは、原則としてダイヤモンドカッターによる。
⑮. 他工事との取り合い	イ）端子等については、特に電気請負業者と事前打合せを行う。 ロ）機器付属の制御盤及び操作盤までの一次側電気工事は全て　※ 別途　・本工事 ハ）機器付属の制御盤及び操作盤までの二次側電気工事は全て　※ 本工事　・別途 ニ）全てのスリーブ入れ及び箱入れは　※ 本工事　・別途 ホ）スリーブ及び箱入れの補強工事は　※ 本工事　・別途 へ）天井、壁のボード類（軽量鉄骨も含む）の下地切込み及び開口補強は　※ 本工事　・別途
⑯. 手続き	官公署への諸手続き等は遅滞なく監督員と協議のうえ、請負者が代行処理する。
⑰. 予備品等	ヒューズ（温度ヒューズも含む）及び表示灯は予備品として、２０％納入する。（種別ごと最低１個）
18．配管の建物導入部の変位吸収	建物導入部の変位吸収は標準図（施工４及び５）による。 対象管　・給水管　・ガス管　・油　管
⑲. 管周囲の保護砂及び埋戻し土	イ）管周囲の保護　⊙山砂 ロ）埋戻し土　・山砂　⊙良質発生土
⑳. 地中埋設標及び埋設表示用テープ	地中埋設標及び埋設用テープは、下記による。 イ）給水管地中埋設標（※要　・不要）　埋設表示用テープ（※要　・不要） ロ）ガス管地中埋設標（※要　・不要）　埋設表示用テープ（※要　・不要） ハ）油　管地中埋設標（※要　・不要）　埋設表示用テープ（※要　・不要）
21．絶縁フランジ取付箇所	図示による。
㉒. 弁等のサイズ	特に明記のない弁等のサイズは、接続配管サイズに同じ。
㉓. 試験	凍結の恐れのある水道管、冷温水管等の一部施工時の気密試験については、水圧試験を空気圧試験に代えることが出来るが、完成時までに水圧試験を実施すること。
㉔. その他	イ）電気設備工事及び建築工事は、各特記仕様書による。 ロ）本工事に使用する鋳鉄製マンホール蓋には、県章を入れること。 ~~ハ）本工事完成１年後に経年検査を行うこと。~~
25．保険	本工事の請負者は、工事期間中工事目的物及び工事資材に対して、下記により組立保険に加入し、その保険証書の写しを監督員に提出する。

加入金額	請負金額の１００％
加入時期及び期間	資材搬入前から完成後３０日まで

26．完成時提出書類

書類名		内容	規格	部数	備考
・完成図	図面	・修正設計図	ＣＤ－Ｒ	監督員協議	岩手県電子納品ガイドラインによる
		・青焼施工図	・Ａ４版	監督員協議	関係者一覧表．製作図．機器取扱説明書．試験成績表．緊急連絡先一覧表．保証書．官庁届出書類写．産業廃棄物処理関係書類写を一括ネジ止め製本とする。なお、１冊の厚さは１０cm程度とし、裏表紙の前にクラフト封筒添付
	表紙	・金文字入黒表紙 ・市販ファイル	・２つ折製本		
・写真	工事用 完成用	カラー	ＣＤ－Ｒ	監督員協議	岩手県電子納品ガイドラインによる
	実態調査用	カラー	ｻｰﾋﾞｽ版	監督員協議	撮影場所及その説明を記載する デジタルカメラも可とする (注)ただし、仕様については監督員と協議すること
		市販工事写真帳（表紙）	Ａ４版		
・保守管理案内書		日常保守管理案内書	Ａ４版 ﾌｧｲﾙ	監督員協議	使用者が容易に理解できるもの
・材料検収簿		主要材料	Ａ４版 ﾌｧｲﾙ	監督員協議	補助監督員が認印したもの
・原図、陰画、原稿		・提出しない ・提出する	・原図 ・陰画 ・原稿		ファイルに入れて納品する

※　その他の電子納品対象書類については、「岩手県電子納品ガイドライン」による。

項目	特記事項
27．工事実績情報の登録（工事カルテ）	※　適用する
28．施工条件	・本工事は建物を使用しながらの工事であること。

⊙ 空気調和設備

①. 温湿度調整目標値

	外気		室内（目標値） 一般系統						備考
	温度	湿度	温度	湿度	温度	湿度	温度	湿度	
冬期	-6.5℃	84.1 %	22.0 ℃	成行 %	℃	%	℃	%	
夏期	33.3℃	55.0 %	26.0 ℃	成行 %	℃	%	℃	%	
	(DB)	(RH)	(DB)	(RH)	(DB)	(RH)	(DB)	(RH)	

項目	特記事項
2．ばい煙濃度計	・取付ける　・取付けない
3．ばいじん量測定口	※ 取付ける（測定口80　フランジ止）　・取付けない
4．煙突	※ 別途　・本工事（鋼板厚　mm、高さ　m以上）
5．煙道	※ 鋼板厚３００以下は３.２mm、３００を越えるものは４.５mmとする。 ・図示による（４１０以上の煙道には、掃除口に蝶番を取付ける）
6．ダクト	※ アングル工法　・コーナーボルト工法（・共板　・スライド） ※ 低速　・スパイラルダクト
7．風量測定口	取付け場所は図示による。取付け面は監督員の指示による。
8．防煙ダクト	復帰方式　※ 遠隔式（電動式（定格入力ＤＣ２４Ｖ０．５Ａ以下）） ※ 順送り　・同時
9．防火ダンパ	図示のＦＶＤとは、防火ダンパーに風量調節機構を組み込んだもので調節機構は、段階的調節機構とする。
10．定量ユニット	・メカニカルタイプ　・風速センサータイプ
⑪. 配管材料	イ）冷温水管　※ 配管用炭素鋼鋼管（白）　・圧力配管用炭素鋼鋼管　・耐熱性ライニング鋼管　・ステンレス鋼管 ロ）冷却水管　※ 配管用炭素鋼鋼管（白）　・圧力配管用炭素鋼鋼管　・塩ビライニング鋼管　・ポリ粉体ライニング鋼管　・ステンレス鋼管 ハ）蒸気管　送り管　※ 配管用炭素鋼鋼管（黒）　・圧力配管用炭素鋼鋼管 返り管　※ 配管用炭素鋼鋼管（黒）　・圧力配管用炭素鋼鋼管　・一般配管用ステンレス鋼管 ニ）油管、油用通気管　※ 配管用炭素鋼鋼管（黒）　・ ホ）膨張管、空気抜き管、膨張タンクよりボイラー等への給水管　※ 配管用炭素鋼鋼管（白）　・ へ）空調用排水管　※ 配管用炭素鋼鋼管（白）　⊙ ビニル管（VP）　・耐火二層管 ト）冷媒管　※ 銅管　・圧力配管用炭素鋼鋼管　⊙ 断熱材被覆銅管
⑫. 弁類	※ ＪＩＳ５kgf／cm2　・ＪＩＳ１０kgf／cm2
⑬. 鋼管用伸縮管継手	※ ベローズ形　・スリーブ形
14．温度計	標準仕様書によるほか、下記の箇所に取付ける。 （配管用はＬ形、ダクト用は丸形） イ）空気調和機、温風暖房機まわりの給気ダクト、環気ダクト及び外気ダクト ロ）冷温水ヘッター（往）及び冷温水ヘッターの各環り管 ハ）パッケージ形空気調和機の冷却水出口
15．瞬間流量計及び測定用タッピング（３２mmピトー管流量計用）	イ）冷凍機又は冷温水発生機の冷水出口 ・瞬間流量計（・固定形　・着脱可能形） ・タッピングを取付ける ロ）冷凍機又は冷温水発生機の冷却水出口 ・瞬間流量計（・固定形　・着脱可能形） ・タッピングを取付ける ハ）ボイラー又は熱交換器の温水出口 ・瞬間流量計（・固定形　・着脱可能形） ・タッピングを取付ける ニ）空気調和機の冷温水入口 ・瞬間流量計（・固定形　・着脱可能形） ・タッピングを取付ける ホ）冷温水ヘッターの各送り管 ・瞬間流量計（・固定形　・着脱可能形） ・タッピングを取付ける
16．オイルタンク	イ）遠隔油量指示計　※ 取付ける　・取付けない ロ）計量尺は、青銅製、黄銅製又はアルミ製とし、１００ｌ実測目盛印とする。計量口は錠付きとする。
17．積算油量計	※ 取付ける　・取付けない
18．消音内貼り	イ）施工箇所は図示による。 ロ）内貼りチャンバー類の寸法表示は、外形寸法とする。
⑲. 保温	イ）建物内の空気抜き管の保温は、空気抜き弁（弁含む）までとし、仕様は冷温水管の項による。 ロ）屋外露出配管の保温は、給水設備の項による。 ハ）外気取り入れダクトの保温を　※ 行う　・行わない ニ）屋外の冷媒管の保温外装は　⊙ 化粧ケース（樹脂製）とする。 ホ）高圧蒸気管及びヘッダーの保温厚　mmとする。
20．電気工事の範囲	イ）地震感知器の配管配線は　※ 別途　・本工事 ロ）防煙ダンパーと連動制御器までの配管配線及び連動制御器から煙感知器までの配管配線は　※ 別途　・本工事
21．カセット形ファンコイルユニットの風量分配ダクト	※ 亜鉛鉄板製 ・自己消火性のポリスチレンフォーム製

⊙ 換気設備

項目	特記事項
①. 準用事項	［・暖房・冷房・空気調和設備の当該事項に準ずる。］ ・７　・８　⊙ ９　・１０
②. ダクトの工法	※ アングル工法　・コーナーボルト工法（・共板　・スライド） ⊙ スパイラルダクト
3．厨房用フード	（・一重　※ 二重）としてフードコック（※ 有　・無）とする。
④. 保温	イ）外気取り入れダクトは保温する。ただし、送・排風機は除く。 ロ）全熱交換器に接続するダクトは、保温を行う。 ハ）外壁より１ｍ部分の排気ダクト及び浴室排気ダクトは、保温を行う。

・排煙設備

項目	特記事項
1．ダクト	・亜鉛鉄板製　・鋼板製（１．６mm以上）
2．排煙口開放装置	・手動式（・ワイヤー式　・電気式） ・手動及び遠隔操作可能なもの
3．排煙風量測定方法	排煙風量を測定する場合は JIS A 4303 の排煙設備検査基準 4.2.1 (2) (C) による。
4．排煙口の形式	・可動羽根（スリット共）　・可動パネル

・自動制御設備

項目	特記事項
1．中央監視制御	・あり　・なし
2．中央監視制御の構成機能	図示による。
3．その他	室内温湿度検出器等を２個以上併設して設置する場合は、サーモケースを使用する。

⊙ 衛生器具設備

項目	特記事項
1．大便器洗浄弁	・不凍結節水弁付とする。
②. 大便器洗浄用タンク	㊟ 防露形ロータンク　（※ 手洗いなし　⊙ 手洗い付）
3．小便器洗浄装置	※ 押ボタン式（不凍結節水弁付）　・自動洗浄
4．小便器洗浄管	※ 埋込　・一部埋込　・露出
⑤. 付属水栓	吊りこま式（節水こま式）とする。実験器具用は除く。
6．注記板	大便器及び小便器の壁に取付ける　・陶器製　・樹脂製
7．自動水栓	電源供給方法（※ ＡＣ１００Ｖ　・乾電池）

⊙ 給水設備

項目	特記事項
①. 量水器	親メーターは　※ 借用　・買取り 子メーターは　※ 買取り
②. 量水器桝	イ）親メーター用　⊙ 水道事業者の指定店　・標準図（機材　５７） ロ）子メーター用　・標準図（機材　５７）　・水道事業者の指定店
③. 配管材料	イ）一般用 ・塩ビライニング鋼管　⊙ ポリ粉体鋼管　・ステンレス鋼管　・鋳鉄管 ロ）地中用（屋内地中も含む） ・塩ビライニング鋼管　⊙ ポリ粉体鋼管　・ビニル管　⊙ ポリエチレン管
4．散水栓ボックス	※ 鋳鉄製　・ステンレス製　（・鍵付　・鍵無）
⑤. 弁類	水道直結部分　※ JIS １０kgf／cm2 高置水槽以降　※ JIS ５kgf／cm2　・JIS １０kgf／cm2
⑥. 給水栓	・一般水栓　⊙ 耐寒水栓
⑦. 埋設深さ	※ 一般敷地内（　0.6m以上）　⊙ 敷地内車輌道路（　1.2m以上） ※　公道部分（※水道事業者及び道路管理者規定による）
8．埋設弁開閉用ハンドル	本工事に　※ 含む（水道事業者管理用以外の弁操作用） ・含まない
⑨. 保温	イ）量水器桝内の保温を行う。 ロ）屋外配管（弁、フランジ類を含む）は、標準仕様書第２編 2.3.5表ｅ2(ﾊ)、厚さは、呼び径２５mm以下のものは５０mm、呼び径３２mm以上のものは４０mmとする。
10．水道加入金等	水道加入金　・要（・本工事　・別途工事）　・不要
⑪. その他	給水管の最小口径は２０mmとする。ただし、器具接続部分を除く。

⊙ 排水設備

項目	特記事項
①. 配管材料	イ）屋内汚水管 ・排水用塩ビライニング鋼管　・コーティング鋼管　・メカニカル形排水鋳鉄管 ⊙ ビニル管（ＶＰ）　・鉛　管　・耐火二層管 ロ）屋内雑排水管 ・配管用炭素鋼鋼管（白）　・排水用塩ビライニング鋼管　・コーティング鋼管 ・排水用鋳鉄管　⊙ ビニル管（ＶＰ）　・耐火二層管 ハ）屋外汚水、雑排水管 ・ヒューム管（１種Ｂ形）　・ビニル管（ＶＰ）⊙ ビニル管（ＶＵ） ・コーティング鋼管　・配管用炭素鋼鋼管（白） ニ）通気管、空調用排水管 ・配管用炭素鋼鋼管（白）　・排水用塩ビライニング鋼管　・コーティング鋼管 ・排水用鋳鉄管　⊙ ビニル管（ＶＰ）　・耐火二層管
2．満水試験継手	・取付けない　・図示した箇所に取付ける
③. 別途流し	トラップは（⊙ 別途　・本工事）立管は本工事
④. 試験	排水管は、衛生器具などの取付け完了後煙試験又は通水試験を ※ 行う　・行わない
5．放流負担金	・不要　・要（・別途工事　・本工事）

⊙ 給湯設備

項目	特記事項
①. 配管材料	⊙ 耐熱性塩ビライニング鋼管　・ステンレス鋼管　・銅　管　・被覆銅管 ・保温付被覆銅管
②. 弁類	給水設備の当該事項による。
③. 湯沸器回り配管	機器に接続する給水管、給湯管は銅製又はステンレス製のフレキシブルチューブを使用してよい。
4．湯沸器の排気筒	※ 本工事（厚さ０．５mm以上のステンレス鋼板製）　・別途
5．保温	湯沸器排水筒の保温は　※ 行う　・行わない

・消火設備

項目	特記事項
1．配管材料	イ）一般 ・配管用炭素鋼鋼管（白）　・圧力配管用炭素鋼鋼管（SCh40） ・圧力配管用炭素鋼鋼管（継目無管）（SCh80） ロ）地中埋設部 ・外面被覆鋼管（SGP-VS）　・外面被覆鋼管（SGP-PS）　・
2．消火栓開閉弁	・JIS １０kgf／cm2　・JIS ２０kgf／cm2
3．保温	屋外露出管については給水管に準ずる。
4．２号消火栓の圧力損失	kgf／cm2 以下

⊙ ガス設備

項目	特記事項
①. ガスの種類	・都市ガス（発熱量　k CAl／m2)都市ガス供給業者（　　） ⊙ 液化石油ガス（12,000 k CAl／Kg）
②. 配管材料	イ）一般 ※ 配管用炭素鋼鋼管（白）　・ポリエチレン被覆鋼管　・ ロ）地中埋設部 ・ガス用ポリエチレン管　・ポリエチレン被覆鋼管　・
3．都市ガス	イ）ガスメーター 親メーターはガス供給事業者より借用 子メーターは買取りとする。 ロ）引込み負担金 ・不要　・要（・別途工事　・本工事）
④. 液化石油ガス	イ）ガスボンベは　※ 借用　・買い取り （・１０kg　・２０kg　⊙ ５０kg　２本） ロ）ガスメーター 親メーターはガス供給事業者より借用 子メーターは買取りとする。 ハ）転倒防止用の鎖は　※ 本工事　・別途工事 ニ）転倒防止装置は　・本工事とし施工要領は標準図（施工　７３）による。 ・別途工事
5．ガス漏れ警報遮断装置	・本工事 図示の場所に　・取付ける（・分離形　・一体形） 外部出力端子（・あり　・なし）
6．埋設深さ	※一般敷地内（　m以上）　・敷地内車輌道路（　m以上） ・公道（ガス供給事業者及び道路管理者規定による）

・厨房機器設備

項目	特記事項
1．厨房機器類	・本工事　※ 別途工事
2．付属制御盤	器具付属の制御盤は、製造者規格品とする。

・し尿浄化槽設備

項目	特記事項
1．処理能力	図示による。
2．放流水質	図示による。
3．処理方式	図示による。
4．主要構造	図示による。
5．制御盤	※ 制御盤には漏電、過負荷、満水警報等の一括故障表示用無電圧接点及び端子を設ける。 ・製造者標準品とする。
6．消毒剤	３０日分を納入する。
7．維持管理	※ 使用開始後請負者において１年間維持管理すること。 （放流水の水質検査書を提出する） ・一定期間定常状態において使用後、放流水の水質検査書提出すること。

・撤去工事

項目	特記事項
1．撤去工事	・空調設備　・給排水衛生設備　・ ・アスベストの撤去　・有り　・無し　・別途工事で有り

・発生材処理

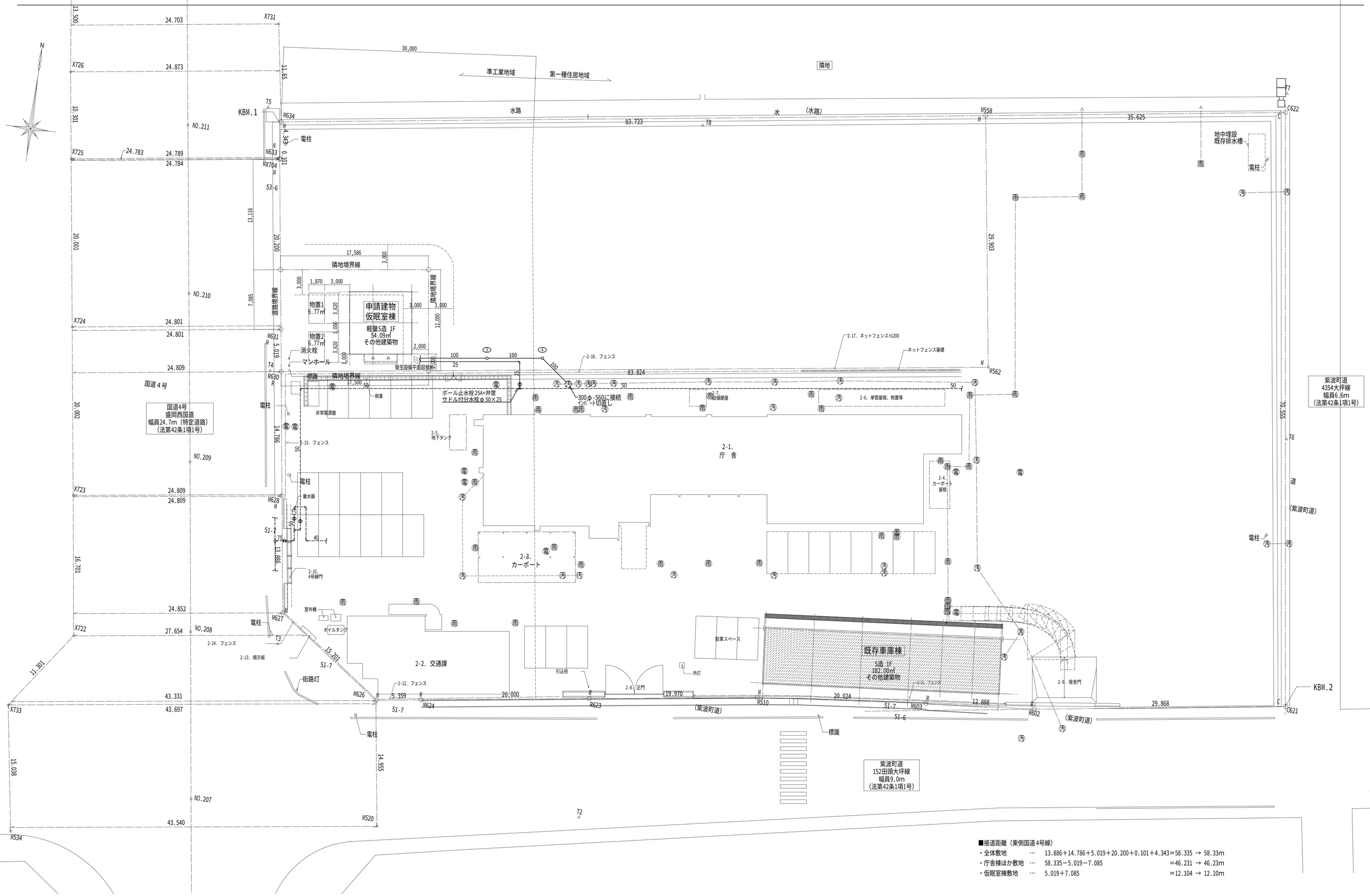
項目	特記事項
1．発生材	・発生材は、金属（鉄、アルミニウム、ステンレス等）、樹脂（プラスチック、ビニル管等）、保温材（ロックウール、グラスウール、ポリスチレンフォーム等、その他、（コンクリート破片等）等に分けて分別収集する。
2．産業廃棄物	・産業廃棄物の処理は、収集から最終処分までをマニフェスト交付を経て適正に処理する。 その他発生材の処理については、一般共通事項10.発生材の処理による。

⊙ その他

項目	特記事項
※防食工事	土中埋設鋼管には、ペトロラタム系防食テープをハーフラップ１回巻きの上、防食用用プラスチックテープをハーフラップ１回巻きとする。 外面樹脂ライニング鋼管は標準仕様書による防食工事を行う。ただし施工中等に樹脂ライニング面を損傷した箇所は防食工事を行うこと。

紫波警察署桜町宿舎解体ほか工事	検図	製図	設計年月	図面内容	縮尺	図面番号
設計図			令和7年 1月（2025年）	（仮眠室棟新築）機械設備工事 特記仕様書	NO SCALE	機械設備 M- 01

計通	消防	構造適判	省ｴﾈ適判
○			



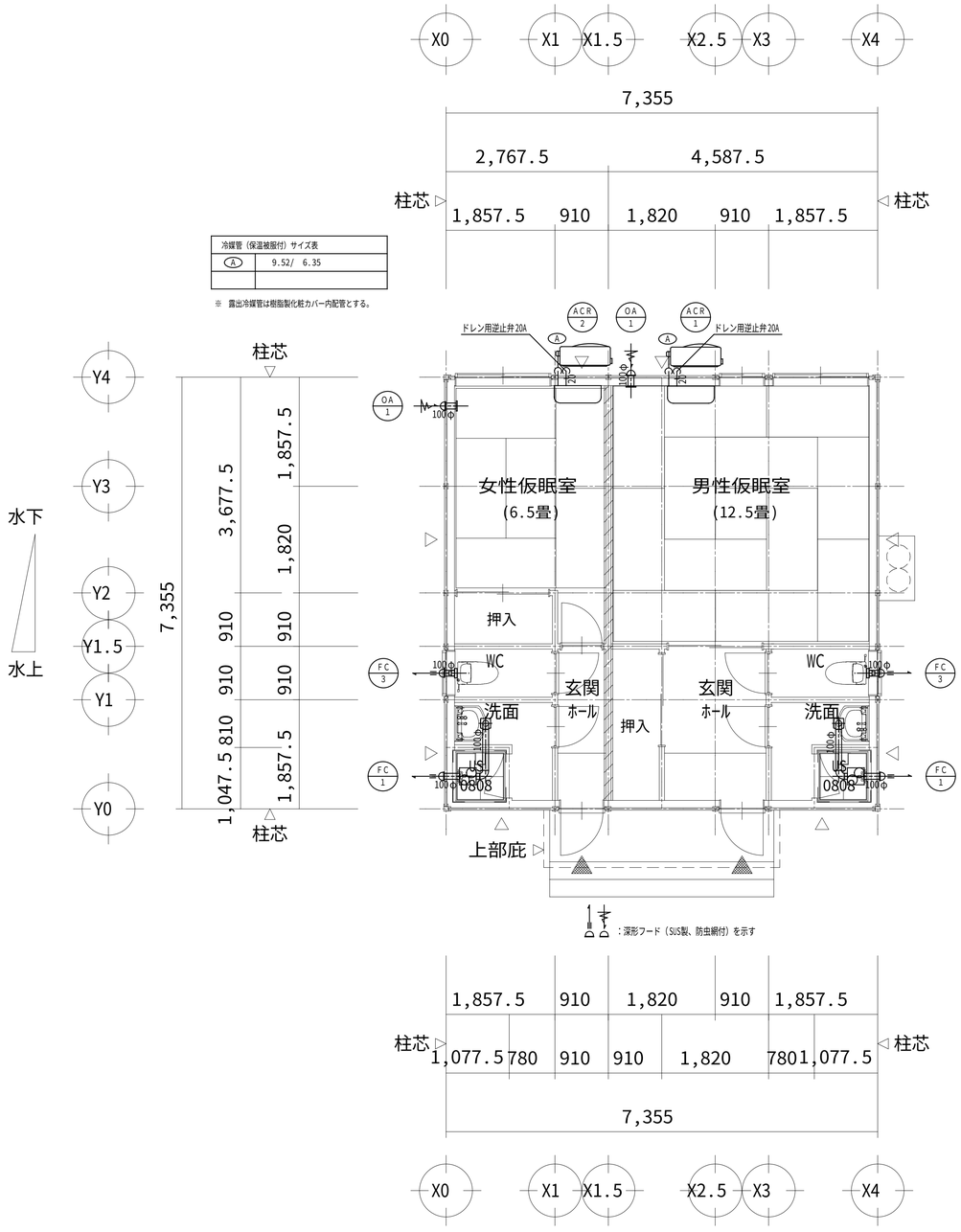
■接道距離（東側国道4号線）

・全体敷地 … 13.886＋14.786＋5.019＋20.200＋0.101＋4.343＝58.335 → 58.33m

・庁舎棟ほか敷地 … 58.335－5.019－7.085 ＝46.231 → 46.23m

・仮眠室棟敷地 … 5.019＋7.085 ＝12.104 → 12.10m

紫波警察署桜町宿舎解体ほか工事	検 図	製図	設計年月	図面内容 （仮眠室棟新築）	縮尺	図面番号	機械設備
設計図			令和7年 1月（2025年）	配置図	A1: 1/200 A3: 1/400	M- 02	計通 ○ / 消防 / 構造適判 / 省エネ適判



冷媒管（保温被覆付）サイズ表	
A	9.52/ 6.35

※ 露出冷媒管は樹脂製化粧カバー内配管とする。

平面図　S=1/50

間仕切り：グラスウール　t=100（16kg/m3品）充填
屋根裏に達すること

空調機器表

記号	名称	仕様・内訳	電気容量 φ−V	電気容量 kW	数量	設置場所	備考（参考品番）
ACR−1	空調機	形　式：寒冷地向けルームエアコン　壁掛形	1−200	3.350	1	男性仮眠室	S405ATHP−W
		冷房能力：4.0（0.7～4.5）kW（JIS C 9612:2013）		1.030			
		暖房能力：5.0（0.7～9.7）kW（JIS C 9612:2013）		1.120			
		圧縮機出力：1100W					
		付属品：室外機壁架台、リモコン、室内外渡り配線、防雪フード、他標準付属品一式					
ACR−2	空調機	形　式：寒冷地向けルームエアコン　壁掛形	1−100	1.970	1	女性仮眠室	S225ATHS−W
		冷房能力：2.2（0.7～2.8）kW（JIS C 9612:2013）		0.450			
		暖房能力：2.8（0.7～6.4）kW（JIS C 9612:2013）		0.550			
		圧縮機出力：600W					
		付属品：室外機壁架台、リモコン、室内外渡り配線、防雪フード、他標準付属品一式					

換気機器表

記号	名称	仕様・内訳	電気容量 φ−V	電気容量 kW	数量	設置場所	備考（参考品番）
FC−1	排風機	形　式：二部屋用天井埋込換気扇（24時間兼用）	1−100	16/8W	2	US（男性・女性用）	DVP−14CLDA
		風　量：120m3/h×60Pa（強）、75m3/h×30Pa（弱）					
		付属品：専用スイッチ（電気設備に支給）、副吸込グリル、天吊金具、他標準付属品一式共					
FC−3	排風機	形　式：パイプ用ファン	1−100	1.8W	2	WC（男性・女性用）	VFP−C8M
		風　量：50m3/h×10Pa					
		付属品：ダクト接続100φ、他標準付属品一式共					
OA−1	給気口	形　式：壁用　100φ用　風量調節付			2	男性仮眠室、女性仮眠室	DV−1KMVF
		付属品：フィルター、ダクト接続100φ、他標準付属品一式共					

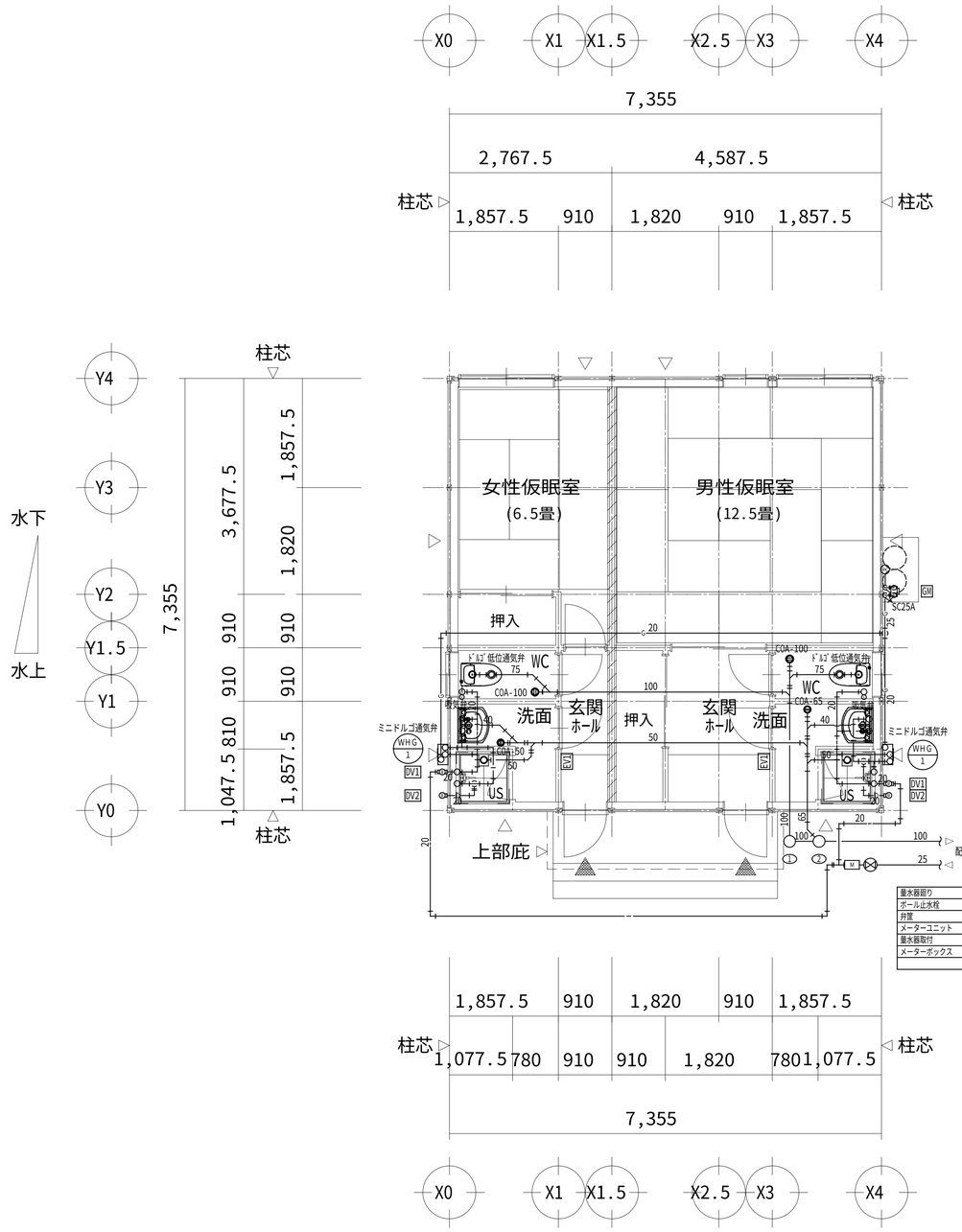
24時間換気計算

棟	室名	面積 m2	天井高 m	室容積 m3	24時間換気 換気回数 回/h	24時間換気 必要風量 m3/h	換気種別	排気系統 機器記号	台数	設計換気量 m3/h	設計換気回数 回/h	給気系統 機器記号	台数	設計換気量 m3/h	設計換気回数 回/h
仮眠室棟	男性仮眠室	21.05 ~~21.04~~	2.40	50.51 ~~50.50~~	0.5	25.26 ~~25.25~~						OA−1（成行）	1	75.0	
	玄関ホール	5.04	2.45	12.35	0.5	6.18									
	洗面	2.33 ~~2.32~~	2.45	5.69 ~~5.68~~	0.5	2.85 ~~2.84~~									
	US	1.13	2.00	2.26	0.5	1.13	第3種	FC−1（個）	1	75.0					
	男性仮眠室　計			70.81 ~~70.79~~		35.42 ~~35.40~~				75.0	1.05 ~~1.06~~			75.0	1.05 ~~1.06~~
	女性仮眠室	11.01 ~~11.69~~	2.40	26.42 ~~30.46~~	0.5	13.21 ~~15.23~~						OA−1（成行）	1	75.0	
	玄関ホール	2.52 ~~5.04~~	2.45	6.18 ~~12.35~~	0.5	3.09 ~~6.18~~									
	洗面	2.33 ~~2.32~~	2.45	5.69 ~~5.68~~	0.5	2.85 ~~2.84~~									
	US	1.13	2.00	2.26	0.5	1.13	第3種	FC−1（個）	1	75.0					
	女性仮眠室　計			40.55 ~~50.75~~		20.28 ~~25.38~~				75.0	1.84 ~~1.48~~			75.0	1.84 ~~1.48~~

室面積計算表

棟	室名		面積計算（m²）		
仮眠室棟	男性仮眠室	男性仮眠室	4.5875 × 4.5875 =	21.0452	21.0452
		玄関ホール	1.8200 × 2.7675 =	5.0369	5.0369
		洗面	1.8575 × 0.8100 =	1.5046	2.3216
			0.7800 × 1.0475 =	0.8171	
		US	1.0775 × 1.0475 =	1.1287	1.1287
	女性仮眠室	女性仮眠室	2.76750 × 3.67750 =	10.1775	11.0056
			0.91000 × 0.91000 =	0.8281	
		玄関ホール	0.91000 × 2.76750 =	2.5184	2.5184
		洗面	1.85750 × 0.81000 =	1.5046	2.3216
			0.78000 × 1.04750 =	0.8171	
		US	1.07750 × 1.04750 =	1.1287	1.1287

紫波警察署桜町宿舎解体ほか工事			検図	製図	設計年月 令和7年 1月 (2025年)	図面内容 （仮眠室棟新築） 空調・換気設備　平面図 機器表　換気計算	縮尺 A1: 1/50 A3: 1/100	図面番号 M- 03	機械設備
設計図								計通 ○ / 消防 / 構造適判 / 省エネ適判	



平面図　S=1/50

間仕切り：グラスウール　t=100（16kg/m3品）充填
屋根裏に達すること

器具・機器表

記号	名称	仕様・内訳（参考品番 上段：LIXIL 下段：TOTOを示す）	男性仮眠室				女性仮眠室				屋外		合計	備考
			ｴﾝﾄﾗﾝｽ	洗面	ﾄｲﾚ	玄関ﾎｰﾙ	ｴﾝﾄﾗﾝｽ	洗面	ﾄｲﾚ	玄関ﾎｰﾙ				
	洋風便器	BC-110STU,DT-5800NBL,CW-KB31,CF-AA22H CS232BRNW1,SH233BANW1,TCF6623RNW1,YH51RRNW1	1				1						2	AC100V-310W
	タオル掛け	KF-11S YT51RRNW1	1				1						2	
	洗面化粧台	FTV1N-605SYN/VP1W,WFTXE-601YJU LDPB060BAGES2A,LTL4D13U,LTL4D11U,LMPB060A1GDG1G		1				1					2	
	シャワーユニット	建築工事（シャワー水栓取付は本工事）			1				1				2	
ＤＶ１	電動水抜栓	２０Ａ×０．８Ｈ　手動ハンドル付駆動部									2		2	
ＤＶ２	電動凍抜栓	２０Ａ×０．８Ｈ　手動ハンドル付駆動部									2		2	
ＥＶ１	電動水抜操作盤	２台用　連動１回路　電気設備に支給				1				1			2	
ＷＨＧ－１	ガス給湯器	屋外壁掛　２０号・LPG消費量41.6kW(JIS S 2075,JIS S 2109)　凍結防止機能付　配管カバー、浴室・台所リモコン、									2		2	
		リモコンコード、吸気弁付止水栓２０Ａ×２、ＦＪ２０Ａ×３００Ｌ×２、可とう管コック、可とう管１５Ａ×３００Ｌ、												
		凍結防止ヒーター２ｍ×３０Ｗ（給水、給湯管）×２												
ＧＭ	ガスメーター	ＬＰＧ用　マイコン型　貸与品									1		1	
	ガス集合装置	２本立（一般仕様一式）　ガスボンベ転倒防止バンドｏｒチェーン									1		1	

※給湯配管（埋設配管以外）の保温材はグラスウール２０mmとする。

桝リスト

桝番号	名称	桝寸法	設計ＧＬより	決定管底	蓋	備考	管径	距離	勾配
		mm	m	mm（ＧＬ－）			mm	m	%
1	プラスチック桝	２００φ	０．０６２	３００	ミカゲ蓋	９０Ｌ			
2	プラスチック桝	２００φ	０．０６２	３０８	ミカゲ蓋	４５Ｙ	１００φ	０．５０	１．５０％
3	プラスチック桝	２００φ	０．０００	３９６	ミカゲ蓋	ＳＴ	１００φ	１０．００	１．５０％
4	プラスチック桝	２００φ	０．０００	４９４	ミカゲ蓋	４５Ｌ	１００φ	６．５９	１．５０％
	既設コンクリート桝	３００φ	０．０００	５６０	ＭＨＢ	インバート切直し	１００φ	４．３７	１．５０％

（注記）桝深さは参考とし、現場ＧＬに合わせ施工の事

紫波警察署桜町宿舎解体ほか工事	検図	製図	設計年月	図面内容	縮尺	図面番号
設計図			令和7年 1月（2025年）	（仮眠室棟新築） 衛生設備　平面図 器具・機器表　桝リスト	A1: 1/50 A3: 1/100	機械設備 M- 04 計通○ 消防 構造適判 省ｴﾈ適判